

卒業生等による大学教育評価報告書
-教育内容の改善・向上を目指して-
(令和5年度実施)

令和7年2月

香 川 大 学

目 次

第1章 卒業生等による大学教育評価アンケート調査の概要

<卒業生によるアンケート調査>

- 1. 調査の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2. 調査実施期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3. 調査対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 4. 調査内容・方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

<修了生によるアンケート調査>

- 1. 調査の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2. 調査実施期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3. 調査対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 4. 調査内容・方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

<企業等アンケート調査>

- 1. 調査の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2. 調査実施期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 3. 調査対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 4. 調査内容・方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

<調査資料>

- 1. 令和5年度実施香川大学卒業生等及び企業等アンケート用紙・ 3

第2章 調査結果について

<卒業生によるアンケート調査>

- 1. 全学的な視点からの分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
- 2. 学部に関する分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
 - 教育学部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
 - 法学部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
 - 経済学部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69
 - 医学部医学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
 - 看護学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75
 - 創造工学部（工学部）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78
 - 農学部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80

<修了生によるアンケート調査>

1. 全学的な視点からの分析	83
2. 研究科に関する分析	86
教育学研究科	86
法学研究科	88
経済学研究科	90
医学系研究科	91
工学研究科	95
農学研究科	100
地域マネジメント研究科	102

<企業等アンケート調査>

1. 全学的な視点からの分析	110
----------------	-----

第1章 卒業生等による大学教育評価アンケート調査の概要

＜卒業生によるアンケート調査＞

1. 調査の目的 本学が提供する大学教育の成果・効果を明らかにし、本学に対する要望を把握することにより、教育の改善に資することを目的とする。
2. 調査実施期間 令和5年12月25日（月）～令和6年1月31日（水）
3. 調査対象 本学卒業後3年目（R1）及び4年目（R2）の卒業生 2,504 人
回答数は 562 人、回答率 22.4%
4. 調査内容・方法 アンケート調査の質問項目は、令和3年度に実施している「卒業生及び卒業生の就職先企業等に対するアンケート調査」の質問項目から一部追加修正がなされたものである。
アンケート調査は、教育企画課が中心となり、卒業生の在学中の保証人住所へアンケートに回答してもらうように文書で依頼した。アンケート様式は Microsoft Forms で作成し、その URL 及び QR コードを知らせて Web で回答してもらうこととした。

＜修了生によるアンケート調査＞

1. 調査の目的 本学が提供する大学院教育の成果・効果を明らかにし、本学に対する要望を把握することにより、教育の改善に資することを目的とする。
2. 調査実施期間 令和5年12月25日（月）～令和6年1月31日（水）
3. 調査対象 本学修了後3年目（R1）及び4年目（R2）の修了生 488 人
回答数は 159 人、回答率 32.6%
4. 調査内容・方法 アンケート調査の質問項目は、全学的に共通する質問項目と研究科独自項目を組み合わせて作成した。
アンケート調査は、教育企画課が中心となり、修了生の在学中の保証人住所へアンケートに回答してもらうように文書で依頼した。アンケート様式は Microsoft Forms で作成し、その URL 及び QR コードを知らせて Web で回答してもらうこととした。

<企業等アンケート調査>

1. 調査の目的 本学が提供する大学教育の成果・効果を明らかにし、本学に対する要望を把握することで、教育の改善に資することを目的とする。
2. 調査実施期間 令和5年12月25日（月）～令和6年1月31日（水）
3. 調査対象 令和元年度～2年度に卒業・修了した学生の就職先（卒業時に学生から申し出があった就職先）1101機関
回答数は247機関、回答率は22.4%
4. 調査内容・方法 アンケート調査の質問項目は、「卒業生及び卒業生の就職先企業等に対するアンケート調査」の質問項目と同様のものである。
また、アンケート調査は学生の就職先の住所宛にアンケートに回答してもらうように文書で依頼した。アンケート様式は Microsoft Forms で作成し、その URL 及び QR コードを知らせて Web で回答してもらうこととした。

令和5年度実施 香川大学卒業生調査【教育学部（学校教育教員養成課程）】

この調査は、本学が提供する大学教育の成果・効果を明らかにするとともに、本学に対する要望を把握することを目的として実施するものです。なお、調査の結果は統計的に処理を行い、目的以外に使用することは一切ありません。よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

I. あなた自身についてお尋ねします。

問1. あなたの出身学部・学科および入学年を記入してください。

() 学部 () 学科 () 課程(講座)等 西暦() 年入学

問2. あなたの学籍番号を記入してください。

※「卒業生に対するアンケート調査へのご協力について(お願い)」に記載しております。

【 】

問3. あなたの性別をお答えください。

1. 男 2. 女 3. その他

II. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問4. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている → 問5へお進みください。
2. 非正規雇用で働いている(派遣社員、アルバイト等を含む) → 問5へお進みください。
3. 働いていない → 問7へお進みください。

問5. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員(国・地方自治体) 10. 教育関係 11. その他

問6. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問7. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある(転職・離職の時期:)
(理由:)
2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい
(理由:)
3. ない

III. 大学教育とこれまでの職業経験との関係についてお尋ねします。

問8. あなたは大学在学中に以下のことがらにどの程度取り組んでいましたか。

	熱心に 取り組んだ	どちらかとい えば熱心に取り組 んだ	どちらかとい えば取り組ま なかった	取り組まなか った
授業(授業時間中)	4	3	2	1

授業と関係ある学習（予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など）	4	3	2	1
将来を見据えた学習（資格取得（国家試験を含む）に向けた学習など）	4	3	2	1
学生が行う主体的な活動（夢チャレンジプロジェクト、国際交流活動など）	4	3	2	1
インターンシップ（体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む）	4	3	2	1
サークル・クラブ活動	4	3	2	1
アルバイト等の仕事経験	4	3	2	1

問 9. 以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
1. 物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
2. 自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1
3. 日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
4. 日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
5. 特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
6. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
7. 特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
8. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
9. 情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
10. 様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
11. 幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
12. 専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
13. 専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
14. 職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
15. 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
16. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
17. 課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
18. リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
19. リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1
20. 社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
21. 社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
22. 地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
23. 地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
24. 多様な価値観を考慮し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1

IV. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

V. 専門教育についてお尋ねします。

問 10. あなたは以下の専門科目について、どの程度満足していましたか。また現在の仕事の中でどの程度役立っていますか。それぞれお答えください。

	専門科目に				現在の仕事に			
	満足 だった	ある程度 満足 だった	やや不満 だった	不満 だった	役立って いる	ある程度 役立って いる	あまり 役立って いない	役立って いない
学校教育基礎研究(課程共通) 教職の意義や児童生徒の発達理解等	4	3	2	1	4	3	2	1
学校教育実践研究 教科研究, 学生生活研究や教育実習等	4	3	2	1	4	3	2	1
学校教育発展研究 専門領域選択科目や卒業研究等	4	3	2	1	4	3	2	1

問 11. あなたが在学中もっと勉強しておけば良かったと思う専門科目はどれですか。以下の中から当てはまるもの全てに○をつけてください。

学校教育基礎研究(課程共通)

- | | | |
|----------------|---------------------|-------------------|
| 1. 教職概論 | 2. 教育原論 | 3. 学校教育心理学・児童心理学等 |
| 4. 教育社会学・教育統計学 | 5. 学校教育課程論・教育の方法と技術 | |

学校教育実践研究

- 教科研究（学校基礎・教科教育コースは初等教科科目と初等教科教育法、幼児教育コースは幼・初等教科科目と保育内容の指導法、特別支援教育コースは特別支援教育に関する科目）
- 学校生活研究（道德教育論・特別活動論・生徒指導論・学校教育相談学）
- 教育実地研究（教育実習・教育実践演習・教職実践演習等）

学校教育発展研究

- | | |
|--------------|---------|
| 1. 各専門領域選択科目 | 2. 卒業研究 |
|--------------|---------|

問 12. 学部開設科目でもっと勉強すべきだったと思う科目を最大で3つまで挙げてください。

() () ()

問 13. 在学中に勉強した専門科目で、現在役立っていると実感している科目を最大で3つまで挙げてください。

() () ()

問 14. 教育学部に在学中、以下の事柄についてどの程度満足していましたか。

	満足していた	ある程度満足していた	やや不満だった	不満だった
教員の教授方法	4	3	2	1
教育実習など現場実習の充実	4	3	2	1
少人数によるゼミ形式の授業	4	3	2	1
勉学や進路等の相談で教員と接する機会	4	3	2	1
講義室の学習環境	4	3	2	1
自学自習のための施設	4	3	2	1

問 15. 総合的にみて、教育学部で学んだことについて満足していますか。また、その理由をお書きください。

4. 満足している 3. ある程度満足している 2. あまり満足していない 1. 満足していない

理由： []

問 16. 教育学部のカリキュラム等について、自由にご意見をお書きください。

(良かった点、不満だった点、引き続き維持すべき点、改善すべき点や、教育学部がもっと重視したほうが良いと思う教育内容や取り組み、新たに設けるべき授業科目、要望など)

ご協力大変ありがとうございました。

令和5年度実施 香川大学卒業生調査【教育学部（人間発達環境課程）】

I. あなた自身についてお尋ねします。

問1. あなたの出身学部・学科および入学年を記入してください。

() 学部 () 学科 () 課程（講座）等 西暦 () 年入学

問2. あなたの学籍番号を記入してください。

※「卒業生に対するアンケート調査へのご協力について（お願い）」に記載しております。

【 】

問3. あなたの性別をお答えください。

1. 男 2. 女 3. その他

II. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問4. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている →問5へお進みください。
2. 非正規雇用で働いている（派遣社員、アルバイト等を含む） →問5へお進みください。
3. 働いていない →問7へお進みください。

問5. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員（国・地方自治体） 10. 教育関係 11. その他

問6. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問7. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある（転職・離職の時期： ）
（理由： ）
2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい
（理由： ）
3. ない

III. 大学教育とこれまでの職業経験との関係についてお尋ねします。

問8. あなたは大学在学中に以下のことがらにどの程度取り組んでいましたか。

	熱心に 取り組んだ	どちらかとい えば熱心に取 り組んだ	どちらかとい えば取り組ま なかった	取り組まなか った
授業（授業時間中）	4	3	2	1
授業と関係ある学習（予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など）	4	3	2	1
将来を見据えた学習（資格取得（国家試験を含む）に向けた学習など）	4	3	2	1
学生が行う主体的な活動（夢チャレンジプロジェクト、国際交流活動など）	4	3	2	1

インターンシップ（体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む）	4	3	2	1
サークル・クラブ活動	4	3	2	1
アルバイト等の仕事経験	4	3	2	1

問9. 以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
1. 物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
2. 自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1
3. 日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
4. 日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
5. 特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
6. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
7. 特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
8. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
9. 情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
10. 様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
11. 幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
12. 専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
13. 専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
14. 職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
15. 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
16. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
17. 課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
18. リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
19. リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1
20. 社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
21. 社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
22. 地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
23. 地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
24. 多様な価値観を考慮し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1

IV. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

V. 専門教育についてお尋ねします。

問 10. あなたは以下の専門科目について、どの程度満足していましたか。また現在の仕事の中でどの程度役立っていますか。それぞれお答えください。

	専門科目に				現在の仕事に			
	満足 だった	ある程度 満足 だった	やや不満 だった	不満 だった	役立って いる	ある程度 役立って いる	あまり 役立って いない	役立って いない
基礎研究 発達と環境(課程共通)や基礎科目	4	3	2	1	4	3	2	1
実践研究 各コースの実践研究Ⅰ・Ⅱ(インターンシップ)	4	3	2	1	4	3	2	1
発展研究 各コースの選択科目・特別演習・卒業研究	4	3	2	1	4	3	2	1

問 11. あなたが在学中もっと勉強しておけば良かったと思う専門科目はどれですか。以下の中から当てはまるもの全てに○をつけてください。

基礎研究

1. 発達と環境(課程共通:生涯発達心理学、コミュニケーション論、人間環境学Ⅰ・Ⅱ、国際社会論、多文化共生論)
2. 基礎科目(発達臨床の基礎、人間環境教育の基礎、国際理解教育の基礎)

実践研究

1. 各コースの実践研究Ⅰ・Ⅱ(インターンシップ)

発展研究

1. 各コースの選択科目
2. 特別演習(ゼミ)
3. 卒業研究

問 12. 学部開設科目でもっと勉強すべきだったと思う科目を最大で3つまで挙げてください。

() () ()

問 13. 在学中に勉強した専門科目で、現在役立っていると実感している科目を最大で3つまで挙げてください。

() () ()

問 1 4. 教育学部に在学中、以下の事柄についてどの程度満足していましたか。

	満足していた	ある程度 満足していた	やや 不満だった	不満だった
教員の教授方法	4	3	2	1
教育実習など現場実習の充実	4	3	2	1
少人数によるゼミ形式の授業	4	3	2	1
勉学や進路等の相談で教員と接する機会	4	3	2	1
講義室の学習環境	4	3	2	1
自学自習のための施設	4	3	2	1

問 1 5. 総合的にみて、教育学部で学んだことについて満足していますか。また、その理由をお書きください。

4. 満足している 3. ある程度満足している 2. あまり満足していない 1. 満足していない

理由： []

問 1 6. 教育学部のカリキュラム等について、自由にご意見をお書きください。

(良かった点、不満だった点、引き続き維持すべき点、改善すべき点や、教育学部がもっと重視したほうが良いと思う教育内容や取り組み、新たに設けるべき授業科目、要望など)

ご協力大変ありがとうございました。

令和5年度実施 香川大学卒業生調査【法学部】

この調査は、本学が提供する大学教育の成果・効果を明らかにするとともに、本学に対する要望を把握することを目的として実施するものです。なお、調査の結果は統計的に処理を行い、目的以外に使用することは一切ありません。よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

I. あなた自身についてお尋ねします。

問1. あなたの出身学部・学科および入学年を記入してください。

() 学部 () 学科 () 課程 (講座) 等 西曆 () 年入学

問2. あなたの学籍番号を記入してください。

※「卒業生に対するアンケート調査へのご協力について（お願い）」に記載しております。

【 】

問3. あなたの性別をお答えください。

1. 男 2. 女 3. その他

Ⅱ. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問4. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている →問 5 へお進みください。
2. 非正規雇用で働いている(派遣社員、アルバイト等を含む) →問 5 へお進みください。
3. 働いていない →問 7 へお進みください。

問5. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員（国・地方自治体） 10. 教育関係 11. その他

問6. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問7. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある（転職・離職の時期： ）
（理由： ）
2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい
（理由： ）
3. ない

Ⅲ. 大学教育とこれまでの職業経験との関係についてお尋ねします。

問8. あなたは大学在学中に以下のことがらにどの程度取り組んでいましたか。

	熱心に 取り組んだ	どちらかとい えば熱心に取り組んだ	どちらかとい えば取り組ま なかった	取り組まなか った
授業（授業時間中）	4	3	2	1

授業と関係ある学習（予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など）	4	3	2	1
将来を見据えた学習（資格取得（国家試験を含む）に向けた学習など）	4	3	2	1
学生が行う主体的な活動（夢チャレンジプロジェクト、国際交流活動など）	4	3	2	1
インターンシップ（体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む）	4	3	2	1
サークル・クラブ活動	4	3	2	1
アルバイト等の仕事経験	4	3	2	1

問 9. 以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
1. 物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
2. 自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1
3. 日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
4. 日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
5. 特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
6. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
7. 特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
8. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
9. 情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
10. 様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
11. 幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
12. 専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
13. 専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
14. 職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
15. 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
16. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
17. 課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
18. リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
19. リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1
20. 社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
21. 社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
22. 地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
23. 地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
24. 多様な価値観を考慮し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1

IV. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

V. 専門教育についてお尋ねします。

問 10. 法学部に在学中、以下の事柄について、どの程度満足していましたか。

	満足していた	ある程度満足していた	やや不満だった	不満だった
法学部教員の授業への取り組み（熱意など）	4	3	2	1
法学部教員の教授方法	4	3	2	1
授業の内容	4	3	2	1
少人数によるゼミ形式の授業（演習など）	4	3	2	1
法学部のカリキュラム全体について	4	3	2	1
勉学や進路等の相談で法学部教員と接する機会	4	3	2	1
法学部講義室の学習環境	4	3	2	1
法学部資料室の施設（蔵書、情報機器等）	4	3	2	1

問 11. 以下に示すような法学部の各開講科目群は、これまでの職業生活に役立っていますか。また、社会生活全般ではどうですか。それぞれお答えください。

	これまでの職業生活に				社会生活全般に			
	役立っている	ある程度役立っている	あまり役立っていない	役立っていない	役立っている	ある程度役立っている	あまり役立っていない	役立っていない
基礎ゼミ（1年次後期科目）	4	3	2	1	4	3	2	1
プロゼミ（2年次科目）	4	3	2	1	4	3	2	1
演習（3年～4年次必修科目）	4	3	2	1	4	3	2	1
基礎法系科目（法制史、法哲学、法社会学等）	4	3	2	1	4	3	2	1
公法系科目（憲法、行政法、租税法、刑法、刑事訴訟法等）	4	3	2	1	4	3	2	1
私法系科目（民法、商法、民事訴訟法等）	4	3	2	1	4	3	2	1
政治系科目（政治過程論、公共選択論、行政学等）	4	3	2	1	4	3	2	1
国際系科目（国際法、国際私法、国際関係論等）	4	3	2	1	4	3	2	1
実務家による科目（損害保険の実務と法等）	4	3	2	1	4	3	2	1

問 12. 以下に示すさまざまな能力は、法学部の専門教育を通じてどの程度身につきましたか。

	身についた	ある程度身についた	あまり身につけていない	身につけていない
法律・法律学に関する知識	4	3	2	1
政治・政治学に関する知識	4	3	2	1
経済活動に関する知識や関心	4	3	2	1
社会一般に関する知識や関心	4	3	2	1
現代社会への自分なりの視点	4	3	2	1
歴史的視点	4	3	2	1
幅広い視野	4	3	2	1
国際的視野	4	3	2	1
情報を収集・処理する力	4	3	2	1
問題を発見し解決する力	4	3	2	1
論理的に考える力	4	3	2	1
法的なものの考え方（リーガル・マインド）	4	3	2	1
人前で報告する技能	4	3	2	1
他者と意見を交わす技能	4	3	2	1
論点を整理し、議論をまとめる技能	4	3	2	1
文書等を作成する技能	4	3	2	1
自主的に学び続ける力	4	3	2	1

問 1 3. 問 1 1 に列挙した能力は、仕事を進める上でどの程度必要とされますか。また、社会生活全般ではどうですか。それぞれお答えください。

	仕事進める上で				社会生活全般で			
	必要	ある程度必要	あまり必要ない	必要ない	必要	ある程度必要	あまり必要ない	必要ない
法律・法律学に関する知識	4	3	2	1	4	3	2	1
政治・政治学に関する知識	4	3	2	1	4	3	2	1
経済活動に関する知識や関心	4	3	2	1	4	3	2	1
社会一般に関する知識や関心	4	3	2	1	4	3	2	1
現代社会への自分なりの視点	4	3	2	1	4	3	2	1
歴史的視点	4	3	2	1	4	3	2	1
幅広い視野	4	3	2	1	4	3	2	1
国際的視野	4	3	2	1	4	3	2	1
情報を収集・処理する力	4	3	2	1	4	3	2	1
問題を発見し解決する力	4	3	2	1	4	3	2	1
論理的に考える力	4	3	2	1	4	3	2	1
法的なものの考え方（リーガルマインド）	4	3	2	1	4	3	2	1
人前で報告する技能	4	3	2	1	4	3	2	1
他者と意見を交わす技能	4	3	2	1	4	3	2	1
論点を整理し、議論をまとめる技能	4	3	2	1	4	3	2	1
文書等を作成する技能	4	3	2	1	4	3	2	1
自主的に学び続ける力	4	3	2	1	4	3	2	1

問 1 4. 受講して有益だったと考える法学部開講科目を最大 3 つまで挙げてください。

() () ()

問 1 5. 在学中にもっと学んでおくべきであったと考える授業科目ないし学問分野を最大 3 つまで挙げてください（法学部の開講科目や法学・政治学等の学問分野に限定する必要は必ずしもありません）。

() () ()

問 1 6. 総合的にみて、法学部で学んだことについての満足度はどうですか。

4. 満足している 3. ある程度満足している 2. やや不満だった 1. 不満だった

問 1 7. 法学部のカリキュラム等について、自由にご意見をお書きください。

（良かった点、不満だった点、引き続き維持すべき点、改善すべき点や、もっと重視したほうが良いと思う教育内容や取り組み、新たに設けるべき授業科目、要望など）

ご協力大変ありがとうございました。

令和5年度実施 香川大学卒業生調査【経済学部】

この調査は、本学が提供する大学教育の成果・効果を明らかにするとともに、本学に対する要望を把握することを目的として実施するものです。なお、調査の結果は統計的に処理を行い、目的以外に使用することは一切ありません。よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

I. あなた自身についてお尋ねします。

問1. あなたの出身学部・学科および入学年を記入してください。

() 学部 () 学科 () 課程(講座)等 西暦() 年入学

問2. あなたの学籍番号を記入してください。

※「卒業生に対するアンケート調査へのご協力について(お願い)」に記載しております。

【 】

問3. あなたの性別をお答えください。

1. 男 2. 女 3. その他

II. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問4. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている → 問5へお進みください。
 2. 非正規雇用で働いている(派遣社員、アルバイト等を含む) → 問5へお進みください。
 3. 働いていない → 問7へお進みください。

問5. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
 5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
 8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員(国・地方自治体) 10. 教育関係 11. その他

問6. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問7. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある(転職・離職の時期:)
 (理由:)
 2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい
 (理由:)
 3. ない

III. 大学教育とこれまでの職業経験との関係についてお尋ねします。

問8. あなたは大学在学中に以下のことがらにどの程度取り組んでいましたか。

	熱心に 取り組んだ	どちらかとい えば熱心に取 り組んだ	どちらかとい えば取り組ま なかった	取り組まなか った
授業(授業時間中)	4	3	2	1

授業と関係ある学習（予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など）	4	3	2	1
将来を見据えた学習（資格取得（国家試験を含む）に向けた学習など）	4	3	2	1
学生が行う主体的な活動（夢チャレンジプロジェクト、国際交流活動など）	4	3	2	1
インターンシップ（体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む）	4	3	2	1
サークル・クラブ活動	4	3	2	1
アルバイト等の仕事経験	4	3	2	1

問9. 以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
1. 物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
2. 自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1
3. 日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
4. 日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
5. 特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
6. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
7. 特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
8. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
9. 情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
10. 様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
11. 幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
12. 専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
13. 専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
14. 職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
15. 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
16. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
17. 課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
18. リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
19. リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1
20. 社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
21. 社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
22. 地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
23. 地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
24. 多様な価値観を考慮し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1

IV. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

V. 専門教育についてお尋ねします。

問10. 以下に示すさまざまな知識や能力は、経済学部の専門教育課程を通じて、どの程度、身につきましたか。また、それらは、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
経済についての知識	4	3	2	1	2	1
統計についての知識	4	3	2	1	2	1
金融についての知識	4	3	2	1	2	1
会計についての知識	4	3	2	1	2	1
経営についての知識	4	3	2	1	2	1
商学・マーケティングについての知識	4	3	2	1	2	1
観光についての知識	4	3	2	1	2	1
地域の活性化についての知識	4	3	2	1	2	1
世界各地域の経済についての知識	4	3	2	1	2	1
人類の文化および社会についての幅広い知識	4	3	2	1	2	1
定量的なデータを適切な手法を用いて分析する能力	4	3	2	1	2	1
定性的なデータを適切な手法を用いて分析する能力	4	3	2	1	2	1
複眼的な思考力	4	3	2	1	2	1
チャレンジ精神や行動力	4	3	2	1	2	1
コミュニケーション力	4	3	2	1	2	1
課題探究・解決力	4	3	2	1	2	1

問 1 1. 以下に示す活動を通して身につけた知識や能力、経験は、これまでの職業経験の中で、どの程度、役立っていますか。

	役立っている	どちらかといえば役立っている	どちらかといえば役立っていない	役立っていない
演習・個別演習	4	3	2	1
卒業論文の執筆	4	3	2	1
学生チャレンジ・プロジェクト（参加者のみ回答）	4	3	2	1
専門履修プログラム（参加者のみ回答）	4	3	2	1
実践型／地域インターンシップ（参加者のみ回答）	4	3	2	1
海外研修・留学（参加者のみ回答）	4	3	2	1

問 1 2. 数年間の社会人生活を経た現在の立場から、大学時代にもっと勉強しておけばよかったと思う分野や科目があれば、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

令和5年度実施 香川大学卒業生調査【医学部（医学科）】

この調査は、本学が提供する大学教育の成果・効果を明らかにするとともに、本学に対する要望を把握することを目的として実施するものです。なお、調査の結果は統計的に処理を行い、目的以外に使用することは一切ありません。よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

I. あなた自身についてお尋ねします。

問1. あなたの出身学部・学科および入学年を記入してください。

() 学部 () 学科 () 課程(講座)等 西暦() 年入学

問2. あなたの学籍番号を記入してください。

※「卒業生に対するアンケート調査へのご協力について(お願い)」に記載しております。

【 】

問3. あなたの性別をお答えください。

1. 男 2. 女 3. その他

II. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問4. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている → 問5へお進みください。
2. 非正規雇用で働いている(派遣社員、アルバイト等を含む) → 問5へお進みください。
3. 働いていない → 問7へお進みください。

問5. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員(国・地方自治体) 10. 教育関係 11. その他

問6. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問7. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある(転職・離職の時期:)
(理由:)
2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい
(理由:)
3. ない

III. 大学教育とこれまでの職業経験との関係についてお尋ねします。

問8. あなたは大学在学中に以下のことがらにどの程度取り組んでいましたか。

	熱心に 取り組んだ	どちらかとい えば熱心に取り組 み組んだ	どちらかとい えば取り組ま なかった	取り組まなか った
授業(授業時間中)	4	3	2	1

授業と関係ある学習（予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など）	4	3	2	1
将来を見据えた学習（資格取得（国家試験を含む）に向けた学習など）	4	3	2	1
学生が行う主体的な活動（夢チャレンジプロジェクト、国際交流活動など）	4	3	2	1
インターンシップ（体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む）	4	3	2	1
サークル・クラブ活動	4	3	2	1
アルバイト等の仕事経験	4	3	2	1

問 9. 以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
1. 物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
2. 自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1
3. 日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
4. 日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
5. 特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
6. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
7. 特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
8. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
9. 情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
10. 様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
11. 幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
12. 専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
13. 専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
14. 職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
15. 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
16. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
17. 課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
18. リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
19. リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1
20. 社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
21. 社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
22. 地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
23. 地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
24. 多様な価値観を考慮し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1

IV. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

V. あなた自身についてお尋ねします。

問 1 0. あなたの大学入学時の自宅所在地（都道府県名）と、現在の自宅所在地（都道府県名）をお答えください。

入学時：（ ）都・道・府・県

現在：（ ）都・道・府・県

問 1 1. 現在のあなたの職種・就業状況は次のどれですか。（複数該当する場合は、主要なもの一つに○をつけて下さい。）

1. 臨床医（勤務医） 2. 臨床医（開業医） 3. 研修医（前期・後期） 4. 教育・研究職（大学等の助教以上）
5. 非常勤医 6. 大学院生 7. 無職 8. その他（ ）

問 1 2. と問 1 3. は、問 1 1. で、1～6 と回答した方にお聞きます。

問 1 2. 現在所属している講座または診療科は次のどれですか。

研修医の方は、将来志望する科をお答え下さい。

1. 基礎医学系 2. 内科系 3. 外科系 4. 社会医学系 5. その他（ ）

問 1 3. 現在の勤務場所は次のどれですか。

1. 大学を含む教育機関（大学附属病院を含む） 2. 病院 3. 診療所 4. 福祉施設 5. その他（ ）

VI. 在学当時の学習や活動についてお尋ねします。

問 1 4. あなたは以下の項目についてどの程度満足していましたか。

4. 満足だった
 3. ある程度満足だった
 2. やや不満だった
 1. 不満だった

	シラバスの充実度(教育内容や評価法などが適切に記載されていたか)	教育法(講義・実習の内容が適切に行われたか)	学習法(授業ガイダンスなど科目ごとに学習法についての説明が当該科目の教員からあったか)	カリキュラム(講義や実習の進度、スケジュールやボリュームが適切であったか)	評価法(出席・レポート・試験等)が適切で、シラバスに記載された通りに行われたか)
教養科目(全学共通科目)	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
外国語科目	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
基礎医学系科目	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
社会医学系科目	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
臨床医学系科目	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1

医学部での学習・生活支援

	満足だった	ある程度満足だった	やや不満だった	不満だった
授業以外で教員と接する機会	4	3	2	1
指導教員制度	4	3	2	1
図書館の施設や蔵書	4	3	2	1
情報処理関係施設や機器	4	3	2	1
学生の交流スペース	4	3	2	1
クラブ・サークル関係施設・設備等	4	3	2	1
自習室	4	3	2	1

問 15. 以下に示すさまざまな能力は大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、現在の仕事の中でどの程度必要とされていますか。
それぞれお答えください。

	大学教育で				現在の仕事で			
	身についた	ある程度身についた	あまり身についていない	身についていない	必要	ある程度必要	あまり必要ない	必要ない
医学の基礎知識	4	3	2	1	4	3	2	1
医学の基本的技術	4	3	2	1	4	3	2	1
科学的分析力と探究能力	4	3	2	1	4	3	2	1
医学の視点から、問題を総合的に分析・判断・解決する能力	4	3	2	1	4	3	2	1
自己の実践を批判的に分析し、創造的に発展させる能力	4	3	2	1	4	3	2	1
患者・家族と人間関係を形成する能力	4	3	2	1	4	3	2	1
医療職者間で協働・連携する能力	4	3	2	1	4	3	2	1
人間の尊厳・人権を尊重する態度の形成	4	3	2	1	4	3	2	1
医療人に求められるモラルや礼儀、社会的責任	4	3	2	1	4	3	2	1
専門職業人として生涯自己研鑽する能力	4	3	2	1	4	3	2	1

問 16.

国家資格の取得に必要な教育が行われていましたか。	行われていた 4	ある程度行われていた 3	あまり行われていなかった 2	行われていない 1
--------------------------	-------------	-----------------	-------------------	--------------

問 17. 国家資格の取得に必要な教育・指導体制として、大学が今後取り入れたら良いと思う事柄について、ご記入下さい。

--

問 18.

総合的にみて、本学医学部で学んだことについての満足度はどうですか。	満足している 4	ある程度満足している 3	やや不満だった 2	不満だった 1
-----------------------------------	-------------	-----------------	--------------	------------

ご協力大変ありがとうございました。

令和5年度実施 香川大学卒業生調査【医学部（看護学科）】

この調査は、本学が提供する大学教育の成果・効果を明らかにするとともに、本学に対する要望を把握することを目的として実施するものです。なお、調査の結果は統計的に処理を行い、目的以外に使用することは一切ありません。よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

I. あなた自身についてお尋ねします。

問1. あなたの出身学部・学科および入学年を記入してください。

() 学部 () 学科 () 課程(講座)等 西曆 () 年入学

問2. あなたの学籍番号を記入してください。

※「卒業生に対するアンケート調査へのご協力について（お願い）」に記載しております。

【 】

問3. あなたの性別をお答えください。

1. 男 2. 女 3. その他

Ⅱ. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問4. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている → 問5へお進みください。
2. 非正規雇用で働いている(派遣社員、アルバイト等を含む) → 問5へお進みください。
3. 働いていない → 問7へお進みください。

問5. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員（国・地方自治体） 10. 教育関係 11. その他

問6. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問 7. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある（転職・離職の時期： ）
（理由： ）
2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい
（理由： ）
3. ない

Ⅲ. 大学教育とこれまでの職業経験との関係についてお尋ねします。

問 8. あなたは大学在学中に以下のことがらにどの程度取り組んでいましたか。

	熱心に 取り組んだ	どちらかとい えば熱心に取り組 み組んだ	どちらかとい えば取り組ま なかった	取り組まなか った
授業（授業時間中）	4	3	2	1

授業と関係ある学習（予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など）	4	3	2	1
将来を見据えた学習（資格取得（国家試験を含む）に向けた学習など）	4	3	2	1
学生が行う主体的な活動（夢チャレンジプロジェクト、国際交流活動など）	4	3	2	1
インターンシップ（体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む）	4	3	2	1
サークル・クラブ活動	4	3	2	1
アルバイト等の仕事経験	4	3	2	1

問 9. 以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
1. 物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
2. 自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1
3. 日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
4. 日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
5. 特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
6. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
7. 特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
8. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
9. 情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
10. 様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
11. 幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
12. 専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
13. 専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
14. 職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
15. 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
16. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
17. 課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
18. リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
19. リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1
20. 社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
21. 社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
22. 地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
23. 地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
24. 多様な価値観を考慮し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1

IV. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

V. あなた自身についてお尋ねします。

問10. あなたの大学入学時の自宅所在地（都道府県名）と、現在の自宅所在地（都道府県名）をお答えください。

入学時：() 都・道・府・県

現在：() 都・道・府・県

問11. 現在のあなたの職種は次のどれですか。

1. 看護師 2. 保健師 3. 助産師 4. 養護教諭 5. 看護教員
6. 大学院生 7. 無職 8. その他 ()

問12. 現在の勤務場所は次のどれですか。

1. 大学を含む看護師教育機関 2. 大学附属病院 3. 病院
4. 診療所 5. 福祉施設 6. 地方公共団体（保健所を含む）
7. 小・中・高校 8. 訪問看護 9. その他 ()

問13. 現在の就業状況についてお答えください。（無職の方を除く）

1. 正規雇用で働いている
2. 非正規雇用で働いている（非常勤職員、パート等を含む）

VI. 在学当時の学習や活動についてお尋ねします。

問14. あなたは以下の項目についてどの程度満足していましたか。

	満足だった	ある程度満足だった	やや不満だった	不満だった
大学教育				
専門基礎科目全般（解剖学・生理学・微生物学・薬剤療養学・栄養学・基礎保健学・疫学など）	4	3	2	1
専門科目全般（臨地実習を除く）	4	3	2	1
臨地実習科目全般	4	3	2	1
学習・生活支援				
授業以外で教員と接する機会	4	3	2	1
指導教員制度	4	3	2	1
図書館の施設や蔵書	4	3	2	1
情報処理関係施設や機器	4	3	2	1
学生の交流スペース	4	3	2	1
クラブ・サークル関係施設・設備等	4	3	2	1
自習室	4	3	2	1

問 15. 以下に示すさまざまな能力は大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、現在の仕事の中でどの程度必要とされていますか。
(専門教育全般)

	大学教育で				現在の仕事で			
	身についた	ある程度身についた	あまり身につけていない	身につけていない	必要	ある程度必要	あまり必要ない	必要ない
看護学の基礎知識	4	3	2	1	4	3	2	1
看護学の基本的技術	4	3	2	1	4	3	2	1
科学的分析力と探究能力	4	3	2	1	4	3	2	1
看護の視点から問題を総合的に分析・判断・解決する能力	4	3	2	1	4	3	2	1
自己の実践を批判的に分析し、創造的に発展させる能力	4	3	2	1	4	3	2	1
患者・家族と人間関係を形成する能力	4	3	2	1	4	3	2	1
医療職者間で協働・連携する能力	4	3	2	1	4	3	2	1
人間の尊厳・人権を尊重する態度の形成	4	3	2	1	4	3	2	1
医療人に求められるモラルや礼儀	4	3	2	1	4	3	2	1
専門職業人として生涯自己研鑽する能力	4	3	2	1	4	3	2	1

問 16.

国家資格の取得に必要な教育が行われていましたか。	行われていた 4	ある程度行われていた 3	あまり行われていなかった 2	行われていない 1
--------------------------	-------------	-----------------	-------------------	--------------

問 17. 国家資格の取得に必要な教育・指導体制として、大学が今後取り入れたら良いと思う事柄について、ご記入下さい。

--

問 18.

総合的にみて、本学医学部で学んだことについての満足度はどうですか。	満足している 4	ある程度満足している 3	やや不満だった 2	不満だった 1
-----------------------------------	-------------	-----------------	--------------	------------

ご協力大変ありがとうございました。

令和5年度実施 香川大学卒業生調査【工学部】

この調査は、本学が提供する大学教育の成果・効果を明らかにするとともに、本学に対する要望を把握することを目的として実施するものです。なお、調査の結果は統計的に処理を行い、目的以外に使用することは一切ありません。よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

I. あなた自身についてお尋ねします。

問1. あなたの出身学部・学科および入学年を記入してください。

() 学部 () 学科 () 課程(講座)等 西曆 () 年入学

問2. あなたの学籍番号を記入してください。

※「卒業生に対するアンケート調査へのご協力について（お願い）」に記載しております。

【 】

問3. あなたの性別をお答えください。

1. 男 2. 女 3. その他

Ⅱ. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問4. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている → 問5へお進みください。
2. 非正規雇用で働いている（派遣社員、アルバイト等を含む） → 問5へお進みください。
3. 働いていない → 問7へお進みください。

問5. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員（国・地方自治体） 10. 教育関係 11. その他

問 6. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問7. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある（転職・離職の時期： ）
（理由： ）
2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい
（理由： ）
3. ない

Ⅲ. 大学教育とこれまでの職業経験との関係についてお尋ねします。

問 8. あなたは大学在学中に以下のことがらにどの程度取り組んでいましたか。

	熱心に 取り組んだ	どちらかとい えば熱心に取り組んだ	どちらかとい えば取り組ま なかった	取り組まなか った
授業（授業時間中）	4	3	2	1
授業と関係ある学習（予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など）	4	3	2	1

将来を見据えた学習（資格取得（国家試験を含む）に向けた学習など）	4	3	2	1
学生が行う主体的な活動（夢チャレンジプロジェクト、国際交流活動など）	4	3	2	1
インターンシップ（体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む）	4	3	2	1
サークル・クラブ活動	4	3	2	1
アルバイト等の仕事経験	4	3	2	1

問9. 以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
1. 物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
2. 自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1
3. 日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
4. 日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
5. 特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
6. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
7. 特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
8. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
9. 情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
10. 様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
11. 幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
12. 専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
13. 専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
14. 職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
15. 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
16. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
17. 課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
18. リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
19. リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1
20. 社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
21. 社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
22. 地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
23. 地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
24. 多様な価値観を考慮し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1

IV. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

V. 専門教育についてお尋ねします。

問10. 以下に示すさまざまな能力や知識等については、香川大学工学部の専門教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかと言え ば身についた	どちらかと言え ば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
言語運用能力						
論理的かつ客観的な文書を作成することができる力	4	3	2	1	2	1
多様な情報を適切に利用し、効果的なプレゼンテーションを行うことができる力	4	3	2	1	2	1
工学的な課題について、基礎的な数理法則を用いて分析することができる力	4	3	2	1	2	1
英語による情報収集能力、コミュニケーション能力	4	3	2	1	2	1
国際的視野を持ち、世界標準の科学技術に関する情報を収集できる力	4	3	2	1	2	1
知識・理解						
自然科学の基礎知識およびその基本原理の理解	4	3	2	1	2	1
工学的課題を解決するために必要な工学的基礎知識	4	3	2	1	2	1
人間、社会、環境についての多角的な視点	4	3	2	1	2	1
問題解決・課題探求能力						
自主的、継続的に学習し、新たな課題を探求することができる力	4	3	2	1	2	1
専門分野において課題を認識し、その解決に向けて企画、立案し、遂行することができる力	4	3	2	1	2	1
多様な制約の下で、専門知識、技術を用いて、必要に応じ他者と協力して問題を解決することができる力	4	3	2	1	2	1
倫理観・社会的責任						
市民としての社会的責任を自覚して行動することができる力	4	3	2	1	2	1
工学倫理に則って、技術者としての社会的役割を担うことができる力	4	3	2	1	2	1
地域理解						
地域の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて問題を発見し、探求することができる力	4	3	2	1	2	1

問 1 1. 工学部のカリキュラムについて自由にご意見をお書き下さい。
(工学部がもっと重視したほうが良いと思う教育内容や取り組みなど)

ご協力大変ありがとうございました。

令和5年度実施 香川大学卒業生調査【農学部】

この調査は、本学が提供する大学教育の成果・効果を明らかにするとともに、本学に対する要望を把握することを目的として実施するものです。なお、調査の結果は統計的に処理を行い、目的以外に使用することは一切ありません。よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

I. あなた自身についてお尋ねします。

問1. あなたの出身学部・学科および入学年を記入してください。

() 学部 () 学科 () 課程(講座)等 西暦() 年入学

問2. あなたの学籍番号を記入してください。

※「卒業生に対するアンケート調査へのご協力について(お願い)」に記載しております。

【 】

問3. あなたの性別をお答えください。

1. 男 2. 女 3. その他

II. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問4. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている → 問5へお進みください。
2. 非正規雇用で働いている(派遣社員、アルバイト等を含む) → 問5へお進みください。
3. 働いていない → 問7へお進みください。

問5. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員(国・地方自治体) 10. 教育関係 11. その他

問6. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問7. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある(転職・離職の時期:)
(理由:)
2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい
(理由:)
3. ない

III. 大学教育とこれまでの職業経験との関係についてお尋ねします。

問8. あなたは大学在学中に以下のことがらにどの程度取り組んでいましたか。

	熱心に 取り組んだ	どちらかとい えば熱心に取り組んだ	どちらかとい えば取り組ま なかった	取り組まなかつた
授業(授業時間中)	4	3	2	1

授業と関係ある学習（予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など）	4	3	2	1
将来を見据えた学習（資格取得（国家試験を含む）に向けた学習など）	4	3	2	1
学生が行う主体的な活動（夢チャレンジプロジェクト、国際交流活動など）	4	3	2	1
インターンシップ（体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む）	4	3	2	1
サークル・クラブ活動	4	3	2	1
アルバイト等の仕事経験	4	3	2	1

問9. 以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
1. 物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
2. 自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1
3. 日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
4. 日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
5. 特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
6. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
7. 特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
8. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
9. 情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
10. 様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
11. 幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
12. 専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
13. 専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
14. 職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
15. 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
16. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
17. 課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
18. リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
19. リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1
20. 社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
21. 社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
22. 地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
23. 地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
24. 多様な価値観を考慮し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1

IV. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

V. 農学部での専門教育についてお尋ねします。

問 10. あなたは在学中に以下の項目にどの程度充実（満足）していましたか。

	充実していた	ある程度充実していた	やや充実していなかった	充実していなかった
専門教育				
導入ならびに共通基礎科目	4	3	2	1
コース専門科目	4	3	2	1
共通展開科目	4	3	2	1
コース実験またはフィールド実習	4	3	2	1
課題研究	4	3	2	1
インターンシップ（該当者のみ）	4	3	2	1
学習・生活支援				
農学部教員との交流	4	3	2	1
農学部における友人との交流	4	3	2	1
農学部における学生相談窓口	4	3	2	1

問 11. 以下に示す農学部での学習や経験は、これまでの職業生活に役立っていますか。
また、社会生活全般に役立っていますか。それぞれお答え下さい。

	これまでの職業生活に				社会生活全般に			
	役立っている	ある程度役立っている	あまり役立っていない	役立っていない	役立っている	ある程度役立っている	あまり役立っていない	役立っていない
専門教育								
導入ならびに共通基礎科目	4	3	2	1	4	3	2	1
コース専門科目	4	3	2	1	4	3	2	1
共通展開科目	4	3	2	1	4	3	2	1
コース実験またはフィールド実習	4	3	2	1	4	3	2	1
課題研究	4	3	2	1	4	3	2	1
インターンシップ（該当者のみ）	4	3	2	1	4	3	2	1
学生生活								
研究室での活動	4	3	2	1	4	3	2	1
就職活動	4	3	2	1	4	3	2	1
友人との交流	4	3	2	1	4	3	2	1

問 12. 受講して有益だったと考える農学部開講科目を最大三つまで挙げてください。

()

()

()

問 1 3. 総合的にみて、農学部で学んだことについての満足度はどうですか。

- 4. 満足している
- 3. ある程度満足している
- 2. やや不満だった
- 1. 不満だった

問 1 4. 農学部の授業やカリキュラムについて自由にご意見をお書き下さい。

--

ご協力大変ありがとうございました。

令和5年度実施 香川大学大学院修了生調査【教育学研究科】

この調査は、本学大学院が提供する大学院教育の成果・効果を明らかにするとともに、本学大学院に対する要望を把握することを目的として実施するものです。なお、調査の結果は統計的に処理を行い、目的以外に使用することは一切ありません。よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

I. あなた自身についてお尋ねします。

問1. あなたの出身研究科・課程・専攻および修了年を記入してください。

() 研究科 () 課程 () 専攻 () 年修了

問2. あなたの学籍番号を記入してください。

※「修了生に対するアンケート調査へのご協力について(お願い)」に記載しております。

【 】

II. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問3. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている → 問4へお進みください。
2. 非正規雇用で働いている(派遣社員、アルバイト等を含む) → 問4へお進みください。
3. 働いていない → 問6へお進みください。

問4. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員(国・地方自治体) 10. 教育関係 11. その他

問5. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問6. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある 2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい 3. ない

III. 大学院教育についてお尋ねします。

問7. 香川大学大学院では、豊かな人間性と高い倫理性の上に、幅広い基礎力と高度な専門知識に支えられた研究能力・応用力を備え、国際的な視野で地域社会においてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指しています。以下に示す知識・能力は、大学院教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえ ば身についた	どちらかといえ ば身につかなか った	身につかなか った	役立っている	役立って いない
①専門知識・理解						
学んだ分野における高度な専門知識	4	3	2	1	2	1
②研究能力・応用力						
学んだ分野において研究を計画・遂行する能力	4	3	2	1	2	1
学んだ専門知識を応用して課題を解決する能力	4	3	2	1	2	1
③倫理観・社会的責任						
学んだ分野において求められる倫理観や社会的責任	4	3	2	1	2	1
④グローバルマインド						
学んだ分野において求められる国際的視野	4	3	2	1	2	1

問 8. 大学院のカリキュラム、主（副）指導教員についてどのように思いますか。

	大いに そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	該当しない
大学院の人材育成の目標に照らして、大学院のカリキュラムは十分整っていた。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、主指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、副指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	0

IV. 教育学研究科についてお尋ねします。

問 9-1. 教育学研究科での教育・研究は、職業生活において求められる知識や能力を得る上で有益でしたか。

1. 大いにそう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない
4. あまりそう思わない 5. 全くそう思わない

問 9-2. 具体的にどのような点で、そのように思われますか。

問 10-1. 教育学研究科での教育・研究は、（職業に関することは別に）社会生活において有益でしたか。

1. 大いにそう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない
4. あまりそう思わない 5. 全くそう思わない

問 10-2. 具体的にどのような点で、そのように思われますか。

問１１．教育学研究科で受講した授業で、職業生活や社会生活において有益だったと思う科目を挙げてください。（幾つ挙げても構いません。また、理由もお書き添えください。）

問１２．開講されていたら受講したかったという授業はありますか。以下の中から、当てはまるものをすべて選んでください。

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 研究方法に関する授業 | 2. 実務に関する授業 |
| 3. 資格試験対策のための授業 | 4. 専門以外の教養を高める授業 |
| 5. その他（ | ） 6. 特にない |

問１３．総合的にみて、教育学研究科で学んだことについての満足度はどうですか。

4. 満足している 3. ある程度満足している 2. やや不満だった 1. 不満だった

問１４．教育学研究科の研究・学習全般について、ご意見がありましたら、ご自由にお書きください。
（良かった点、不満だった点、引き続き維持すべき点、改善すべき点や、もっと重視したほうが良いと思う教育内容や取り組み、新たに設けるべき授業科目、要望など）

ご協力大変ありがとうございました。

令和5年度実施 香川大学大学院修了生調査【法学研究科】

この調査は、本学大学院が提供する大学院教育の成果・効果を明らかにするとともに、本学大学院に対する要望を把握することを目的として実施するものです。なお、調査の結果は統計的に処理を行い、目的以外に使用することは一切ありません。よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

I. あなた自身についてお尋ねします。

問1. あなたの出身研究科・課程・専攻および修了年を記入してください。

() 研究科 () 課程 () 専攻 () 年修了

問2. あなたの学籍番号を記入してください。

※「修了生に対するアンケート調査へのご協力について(お願い)」に記載しております。

【 】

II. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問3. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている → 問4へお進みください。
2. 非正規雇用で働いている(派遣社員、アルバイト等を含む) → 問4へお進みください。
3. 働いていない → 問6へお進みください。

問4. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員(国・地方自治体) 10. 教育関係 11. その他

問5. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問6. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある 2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい 3. ない

III. 大学院教育についてお尋ねします。

問7. 香川大学大学院では、豊かな人間性と高い倫理性の上に、幅広い基礎力と高度な専門知識に支えられた研究能力・応用力を備え、国際的な視野で地域社会においてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指しています。以下に示す知識・能力は、大学院教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえ ば身についた	どちらかといえ ば身につかなか った	身につかなか った	役立っている	役立って いない
①専門知識・理解						
学んだ分野における高度な専門知識	4	3	2	1	2	1
②研究能力・応用力						
学んだ分野において研究を計画・遂行する能力	4	3	2	1	2	1
学んだ専門知識を応用して課題を解決する能力	4	3	2	1	2	1
③倫理観・社会的責任						
学んだ分野において求められる倫理観や社会的責任	4	3	2	1	2	1
④グローバルマインド						
学んだ分野において求められる国際的視野	4	3	2	1	2	1

問 8. 大学院のカリキュラム、主（副）指導教員についてどのように思いますか。

	大いに そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	該当しない
大学院の人材育成の目標に照らして、大学院のカリキュラムは十分整っていた。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、主指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、副指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	0

Ⅳ. 法学研究科についてお尋ねします。

問 9－1. 法学研究科での教育・研究は、職業生活において求められる知識や能力を得る上で有益でしたか。

1. 大いにそう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない
4. あまりそう思わない 5. 全くそう思わない

問 9－2. 具体的にどのような点で、そのように思われますか。

問 10－1. 法学研究科での教育・研究は、（職業に関することは別に）社会生活において有益でしたか。

1. 大いにそう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない
4. あまりそう思わない 5. 全くそう思わない

問 10－2. 具体的にどのような点で、そのように思われますか。

問 11. 法学研究科で受講した授業で、職業生活や社会生活において有益だったと思う科目を挙げてください。
（幾つ挙げて構いません。また、理由もお書き添えください。）

問12. 開講されていたら受講したかったという授業はありますか。以下の中から、当てはまるものをすべて選んでください。

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 研究方法に関する授業 | 2. 実務に関する授業 |
| 3. 資格試験対策のための授業 | 4. 専門以外の教養を高める授業 |
| 5. その他（ | ） 6. 特にない |

問13. 総合的にみて、法学研究科で学んだことについての満足度はどうですか。

4. 満足している 3. ある程度満足している 2. やや不満だった 1. 不満だった

問14. 法学研究科での研究・学習全般について、ご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

（良かった点、不満だった点、引き続き維持すべき点、改善すべき点や、もっと重視したほうが良いと思う教育内容や取り組み、新たに設けるべき授業科目、要望など）

ご協力大変ありがとうございました。

令和5年度実施 香川大学大学院修了生調査【経済学研究科】

この調査は、本学大学院が提供する大学院教育の成果・効果を明らかにするとともに、本学大学院に対する要望を把握することを目的として実施するものです。なお、調査の結果は統計的に処理を行い、目的以外に使用することは一切ありません。よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

I. あなた自身についてお尋ねします。

問1. あなたの出身研究科・課程・専攻および修了年を記入してください。

() 研究科 () 課程 () 専攻 () 年修了

問2. あなたの学籍番号を記入してください。

※「修了生に対するアンケート調査へのご協力について（お願い）」に記載しております。

【 】

II. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問3. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている → 問4へお進みください。
2. 非正規雇用で働いている（派遣社員、アルバイト等を含む） → 問4へお進みください。
3. 働いていない → 問6へお進みください。

問4. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員（国・地方自治体） 10. 教育関係 11. その他

問5. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問6. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある 2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい 3. ない

III. 大学院教育についてお尋ねします。

問7. 香川大学大学院では、豊かな人間性と高い倫理性の上に、幅広い基礎力と高度な専門知識に支えられた研究能力・応用力を備え、国際的な視野で地域社会においてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指しています。以下に示す知識・能力は、大学院教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえ ば身についた	どちらかといえ ば身につかなか った	身につかなか った	役立っている	役立って いない
①専門知識・理解						
学んだ分野における高度な専門知識	4	3	2	1	2	1
②研究能力・応用力						
学んだ分野において研究を計画・遂行する能力	4	3	2	1	2	1
学んだ専門知識を応用して課題を解決する能力	4	3	2	1	2	1
③倫理観・社会的責任						
学んだ分野において求められる倫理観や社会的責任	4	3	2	1	2	1
④グローバルマインド						
学んだ分野において求められる国際的視野	4	3	2	1	2	1

問8. 大学院のカリキュラム、主（副）指導教員についてどのように思いますか。

	大いに そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	該当しない
大学院の人材育成の目標に照らして、大学院のカリキュラムは十分整っていた。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、主指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、副指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	0

IV. 経済学研究科についてお尋ねします。

問9. 以下に示すさまざまな知識や能力は、経済学研究科の教育課程を通じて、どの程度、身につきましたか。

また、それらは、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえ ば身についた	どちらかといえ ば身につかなか った	身につかなか った	役立って いる	役立って いない
経済についての知識	4	3	2	1	2	1
統計についての知識	4	3	2	1	2	1
金融についての知識	4	3	2	1	2	1
会計についての知識	4	3	2	1	2	1
経営についての知識	4	3	2	1	2	1
商学・マーケティングについての知識	4	3	2	1	2	1
観光についての知識	4	3	2	1	2	1
地域の活性化についての知識	4	3	2	1	2	1
世界各地域の経済についての知識	4	3	2	1	2	1

人類の文化および社会についての幅広い知識	4	3	2	1	2	1
定量的なデータを適切な手法を用いて分析する能力	4	3	2	1	2	1
定性的なデータを適切な手法を用いて分析する能力	4	3	2	1	2	1
複眼的な思考力	4	3	2	1	2	1
チャレンジ精神や行動力	4	3	2	1	2	1
コミュニケーション力	4	3	2	1	2	1
課題探究・解決力	4	3	2	1	2	1

問 10. 以下に示す活動を通して身につけた知識や能力、経験は、これまでの職業経験の中で、どの程度役立っていますか。

	役立っている	どちらかといえば役立っている	どちらかといえば役立っていない	役立っていない
個別演習・副演習	4	3	2	1
修士論文の執筆	4	3	2	1
プロジェクト活動（参加者のみ回答）	4	3	2	1
実践型／地域インターンシップ（参加者のみ回答）	4	3	2	1
海外研修・留学（参加者のみ回答）	4	3	2	1

問 11. 数年間の社会人生活を経た現在の立場から、大学院時代にもっと勉強しておけばよかったと思う分野や科目があれば、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

令和5年度実施 香川大学大学院修了生調査【医学系研究科】

この調査は、本学大学院が提供する大学院教育の成果・効果を明らかにするとともに、本学大学院に対する要望を把握することを目的として実施するものです。なお、調査の結果は統計的に処理を行い、目的以外に使用することは一切ありません。よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

I. あなた自身についてお尋ねします。

問1. あなたの出身研究科・課程・専攻および修了年を記入してください。

() 研究科 () 課程 () 専攻 () 年修了

問2. あなたの学籍番号を記入してください。

※「修了生に対するアンケート調査へのご協力について（お願い）」に記載しております。

【 】

II. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問3. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている → 問4へお進みください。
2. 非正規雇用で働いている（派遣社員、アルバイト等を含む） → 問4へお進みください。
3. 働いていない → 問6へお進みください。

問4. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員（国・地方自治体） 10. 教育関係 11. その他

問5. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問6. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある 2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい 3. ない

III. 大学院教育についてお尋ねします。

問7. 香川大学大学院では、豊かな人間性と高い倫理性の上に、幅広い基礎力と高度な専門知識に支えられた研究能力・応用力を備え、国際的な視野で地域社会においてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指しています。以下に示す知識・能力は、大学院教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえ ば身についた	どちらかといえ ば身につかなか った	身につかなか った	役立っている	役立って いない
①専門知識・理解						
学んだ分野における高度な専門知識	4	3	2	1	2	1
②研究能力・応用力						
学んだ分野において研究を計画・遂行する能力	4	3	2	1	2	1
学んだ専門知識を応用して課題を解決する能力	4	3	2	1	2	1
③倫理観・社会的責任						
学んだ分野において求められる倫理観や社会的責任	4	3	2	1	2	1
④グローバルマインド						
学んだ分野において求められる国際的視野	4	3	2	1	2	1

問 8. 大学院のカリキュラム、主（副）指導教員についてどのように思いますか。

	大いに そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	該当しない
大学院の人材育成の目標に照らして、大学院のカリキュラムは十分整っていた。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、主指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、副指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	0

Ⅳ. 医学系研究科についてお尋ねします。

問 9. 全体として、大学院入学の目的は達成できましたか。

5. 大いにそう思う 4. ややそう思う 3. どちらともいえない
2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない

問 10. 大学院での教育・研究において、就労への配慮は十分でしたか。（在学時、社会人だった方のみ回答ください）

5. 大いにそう思う 4. ややそう思う 3. どちらともいえない
2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない

問 11. 大学院への進学について意見を求められた時、積極的に勧めたいですか。

5. 大いにそう思う 4. ややそう思う 3. どちらともいえない
2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない

（医学専攻：問 12）

問 12. 大学院研究で身につけた考え方、知識、手技が今後の診療で有用ですか。（診療に携わっている方または、今後診療を行う予定の方のみ回答ください）

5. 大いにそう思う 4. ややそう思う 3. どちらともいえない
2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない

（看護学専攻：問 13）

問 13. 大学院（修士課程）で身につけた考え方、知識が、今後の研究活動、実践に有用ですか。

5. 大いにそう思う 4. ややそう思う 3. どちらともいえない
2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない

（臨床心理学専攻：問 14）

問 14. 大学院（修士課程）で身につけた考え方、知識が、今後の研究活動、実践に有用ですか。

5. 大いにそう思う 4. ややそう思う 3. どちらともいえない
2. あまりそう思わない 1. 全くそう思わない

問 15. 医学系研究科独自の自由記述欄

(1) 大学院での教育・研究の実績を今後どのように生かそうと考えていますか。

(2) 大学院での教育・研究において、改善すべき点、良かった点を記載ください。

[改善すべき点]

[良かった点]

(3) 自由記述欄

令和5年度実施 香川大学大学院修了生調査【工学研究科】

この調査は、本学大学院が提供する大学院教育の成果・効果を明らかにするとともに、本学大学院に対する要望を把握することを目的として実施するものです。なお、調査の結果は統計的に処理を行い、目的以外に使用することは一切ありません。よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

I. あなた自身についてお尋ねします。

問1. あなたの出身研究科・課程・専攻および修了年を記入してください。

() 研究科 () 課程 () 専攻 () 年修了

問2. あなたの学籍番号を記入してください。

※「修了生に対するアンケート調査へのご協力について（お願い）」に記載しております。

【 】

II. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問3. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている → 問4へお進みください。
2. 非正規雇用で働いている（派遣社員、アルバイト等を含む） → 問4へお進みください。
3. 働いていない → 問6へお進みください。

問4. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員（国・地方自治体） 10. 教育関係 11. その他

問5. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問6. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある 2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい 3. ない

III. 大学院教育についてお尋ねします。

問7. 香川大学大学院では、豊かな人間性と高い倫理性の上に、幅広い基礎力と高度な専門知識に支えられた研究能力・応用力を備え、国際的な視野で地域社会においてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指しています。以下に示す知識・能力は、大学院教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえ ば身についた	どちらかといえ ば身につかなか った	身につかなか った	役立っている	役立って いない
①専門知識・理解						
学んだ分野における高度な専門知識	4	3	2	1	2	1
②研究能力・応用力						
学んだ分野において研究を計画・遂行する能力	4	3	2	1	2	1
学んだ専門知識を応用して課題を解決する能力	4	3	2	1	2	1
③倫理観・社会的責任						
学んだ分野において求められる倫理観や社会的責任	4	3	2	1	2	1
④グローバルマインド						
学んだ分野において求められる国際的視野	4	3	2	1	2	1

問8. 大学院のカリキュラム、主（副）指導教員についてどのように思いますか。

	大いに そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	該当しない
大学院の人材育成の目標に照らして、大学院のカリキュラムは十分整っていた。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、主指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、副指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	0

IV. 工学研究科についてお尋ねします。

問9. 以下に示すさまざまな能力や知識等については、工学研究科の専門教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえ ば身についた	どちらかといえ ば身につかなか った	身につかなか った	役立って いる	役立って いない
専門知識・理解						
自然科学の理解を基盤として、それぞれの専門分野に関する高度な知識・技術	4	3	2	1	2	1
研究能力・応用力						
課題探求能力と高度な問題解決能力	4	3	2	1	2	1
持続可能な社会の実現を推進するための実践的能力、学際的な発想力を有し、必要に応じてチームの一員として能力を発揮する力	4	3	2	1	2	1
倫理観・社会的責任						
社会や科学技術の発展に貢献するために、技術者としての広汎な知識と普遍的倫理観	4	3	2	1	2	1
グローバルマインド						
論理的、学際的な思考を行い、それを広くグローバル社会に説明し、議論することができる力	4	3	2	1	2	1

問 10. 授業や教育に関する要望、あるいは改善へのご意見などがありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力大変ありがとうございました。

令和5年度実施 香川大学大学院修了生調査【農学研究科】

この調査は、本学大学院が提供する大学院教育の成果・効果を明らかにするとともに、本学大学院に対する要望を把握することを目的として実施するものです。なお、調査の結果は統計的に処理を行い、目的以外に使用することは一切ありません。よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

I. あなた自身についてお尋ねします。

問1. あなたの出身研究科・課程・専攻および修了年を記入してください。

() 研究科 () 課程 () 専攻 () 年修了

問2. あなたの学籍番号を記入してください。

※「修了生に対するアンケート調査へのご協力について（お願い）」に記載しております。

【 】

II. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問3. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている → 問4へお進みください。
2. 非正規雇用で働いている（派遣社員、アルバイト等を含む） → 問4へお進みください。
3. 働いていない → 問6へお進みください。

問4. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員（国・地方自治体） 10. 教育関係 11. その他

問5. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問6. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある 2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい 3. ない

III. 大学院教育についてお尋ねします。

問7. 香川大学大学院では、豊かな人間性と高い倫理性の上に、幅広い基礎力と高度な専門知識に支えられた研究能力・応用力を備え、国際的な視野で地域社会においてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指しています。以下に示す知識・能力は、大学院教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえ ば身についた	どちらかといえ ば身につかなか った	身につかなか った	役立っている	役立って いない
①専門知識・理解						
学んだ分野における高度な専門知識	4	3	2	1	2	1
②研究能力・応用力						
学んだ分野において研究を計画・遂行する能力	4	3	2	1	2	1
学んだ専門知識を応用して課題を解決する能力	4	3	2	1	2	1
③倫理観・社会的責任						
学んだ分野において求められる倫理観や社会的責任	4	3	2	1	2	1
④グローバルマインド						
学んだ分野において求められる国際的視野	4	3	2	1	2	1

問 8. 大学院のカリキュラム、主（副）指導教員についてどのように思いますか。

	大いに そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	該当しない
大学院の人材育成の目標に照らして、大学院のカリキュラムは十分整っていた。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、主指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、副指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	0

Ⅳ. 農学研究科についてお尋ねします。

問 9. 農学研究科の教育・研究は、以下に示す項目の習得および能力の向上に有用でしたか。

	大いにそう 思う	そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
研究開発マインドの習得	5	4	3	2	1
高度専門職業人となるための幅広い知識の習得	5	4	3	2	1
自ら立案する課題設定能力	5	4	3	2	1
課題を解決するために必要な情報の収集能力	5	4	3	2	1
課題を解決するための手法の探索と遂行能力	5	4	3	2	1
得られた結果に基づいた解析能力	5	4	3	2	1
課題の全容を論理的に取りまとめる能力	5	4	3	2	1
日本語によるコミュニケーション能力	5	4	3	2	1
英語によるコミュニケーション能力	5	4	3	2	1
日本語によるプレゼンテーション能力	5	4	3	2	1
英語によるプレゼンテーション能力	5	4	3	2	1
グローバルマインドの習得	5	4	3	2	1

問 10. 農学研究科の専門教育について、どの程度充実していましたか？

	充実して いた	ある程度 充実して いた	どちらとも いえない	やや充実して いなかった	充実して いなかった
基礎科目 (科学研究リテラシー、ベーシック国際研究コミュニケーション、応用生物科学クロストークセミナー)	5	4	3	2	1
希少糖共通科目 (希少糖イノベーション、希少糖植物科学特論、希少糖応用生命科学特論、希少糖食品科学特論)	5	4	3	2	1

展開科目 (応用生物科学先進科学セミナー, 修士インターンシップ, 国際修士インターンシップ, アドバンスト国際研究コミュニケーション, 国際研究実践コミュニケーション)	5	4	3	2	1
専門科目 (○○特論など)	5	4	3	2	1
専門科目 (専攻セミナーI～III)	5	4	3	2	1
研究科目 (修士研究 I～IV, 修士論文)	5	4	3	2	1
研究科目 (国際研究 A・B) *研究留学	5	4	3	2	1
研究科目 (実践研究) *社会人学生	5	4	3	2	1

令和5年度実施 香川大学大学院修了生調査【地域マネジメント研究科】

この調査は、本学大学院が提供する大学院教育の成果・効果を明らかにするとともに、本学大学院に対する要望を把握することを目的として実施するものです。なお、調査の結果は統計的に処理を行い、目的以外に使用することは一切ありません。よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

I. あなた自身についてお尋ねします。

問1. あなたの出身研究科・課程・専攻および修了年を記入してください。

() 研究科 () 課程 () 専攻 () 年修了

問2. あなたの学籍番号を記入してください。

※「修了生に対するアンケート調査へのご協力について(お願い)」に記載しております。

【 】

II. 現在の勤務先についてお尋ねします。

問3. 現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

1. 正規雇用で働いている → 問4へお進みください。
2. 非正規雇用で働いている(派遣社員、アルバイト等を含む) → 問4へお進みください。
3. 働いていない → 問6へお進みください。

問4. 現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

1. 農林・水産関係 2. 建設・機械関係 3. 食品・化学関係 4. 情報・通信関係
5. 商社・金融関係 6. 販売・サービス関係 7. マスコミ・出版関係
8. 保健・衛生・医療関係 9. 公務員(国・地方自治体) 10. 教育関係 11. その他

問5. あなたは現在の職業に満足していますか。

1. 満足している 2. ある程度満足している 3. あまり満足していない 4. 満足していない

問6. 転職、あるいは離職の経験はありますか。

1. ある 2. ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい 3. ない

III. 大学院教育についてお尋ねします。

問7. 香川大学大学院では、豊かな人間性と高い倫理性の上に、幅広い基礎力と高度な専門知識に支えられた研究能力・応用力を備え、国際的な視野で地域社会においてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指しています。以下に示す知識・能力は、大学院教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえ ば身についた	どちらかといえ ば身につかなか った	身につかなか った	役立っている	役立って いない
①専門知識・理解						
学んだ分野における高度な専門知識	4	3	2	1	2	1
②研究能力・応用力						
学んだ分野において研究を計画・遂行する能力	4	3	2	1	2	1
学んだ専門知識を応用して課題を解決する能力	4	3	2	1	2	1
③倫理観・社会的責任						
学んだ分野において求められる倫理観や社会的責任	4	3	2	1	2	1
④グローバルマインド						
学んだ分野において求められる国際的視野	4	3	2	1	2	1

問 8. 大学院のカリキュラム、主（副）指導教員についてどのように思いますか。

	大いに そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	該当しない
大学院の人材育成の目標に照らして、大学院のカリキュラムは十分整っていた。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、主指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、副指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	0

Ⅳ. 地域マネジメント研究科についてお尋ねします。

問 9. プロジェクト研究や関連する内容について、継続して取り組んでいる場合、内容を教えてください。

問 10. 修了後、所属する企業・法人内で、異動や職位変更された方は、時期と内容を教えてください。

問 11. 修了後、転職・転籍等された方は、時期と、元の所属先・移籍先と、その理由を教えてください。

問 12-1. 修了後、新規に起業されたり、事業を承継されたりした場合、時期と内容を教えてください。

問 12-2. 修了後、所属組織内で、新規事業立ち上げに直接関わった場合、時期と内容を教えてください。

問１３．修了後、研究科の同期や先輩・後輩と、会う機会や、仕事や仕事外で何か一緒に取り組んだことはありますか。ある場合、その内容について教えてください。

問１４．博士課程について、進学や修了した、進学を検討している等あれば、教えてください。

問１５．修了後、特に力を入れて取り組んでいる内容について、教えてください。

問１６．研究科について、要望や意見を、自由に記述してください。

ご協力大変ありがとうございました。

香川大学卒業生についてのアンケート調査（企業・官庁等用）

問 1. 貴組織の事業（主たるもの）についてお答えください。

- | | | |
|--------------|---------------|-----------------|
| 1. 農林・水産関係 | 2. 建設・機械関係 | 3. 食品・化学関係 |
| 4. 情報・通信関係 | 5. 商社・金融関係 | 6. 販売・サービス関係 |
| 7. マスコミ・出版関係 | 8. 保健・衛生・医療関係 | 9. 公務員（国・地方自治体） |
| 10. 教育関係 | 11. その他（ | ） |

問 2. 貴組織の従業員数についてお答えください。

- | | | |
|------------------|---------------|----------------|
| 1. 10 人未満 | 2. 10～100 人未満 | 3. 100～500 人未満 |
| 4. 500～1,000 人未満 | 5. 1,000 人以上 | |

問 3. 貴組織における直近 4 ヶ年の香川大学卒業生の採用数について、概数をお答えください。

- | | | | |
|----------|------------|-------------|-----------|
| 1. 3 人未満 | 2. 3～5 人未満 | 3. 5～10 人未満 | 4. 10 人以上 |
|----------|------------|-------------|-----------|

問 4. 貴組織における直近 4 ヶ年の香川大学卒業生に対する満足度をお答えください。

- | | | | |
|-------|-----------|---------|-------|
| 1. 満足 | 2. ある程度満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 |
|-------|-----------|---------|-------|

問 5. 香川大学卒業生は、現在担当している職務を遂行する上で必要とされる以下のような能力をどの程度身につけていますか（必要とされない能力は「必要とされない」をお選びください）。

	身につけている	どちらかといえば身につけている	どちらかといえば身につけていない	身につけていない	必要とされない
1. 物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	0
2. 自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	0
3. 日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	0
4. 日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	0
5. 特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	0
6. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	0
7. 特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	0
8. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	0
9. 情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モデルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	0
10. 様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	0
11. 幅広い知識や教養	4	3	2	1	0
12. 専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	0
13. 専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	0
14. 職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	0
15. 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	0
16. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	0

17. 課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	0
18. リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	0
19. リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	0
20. 社会のルールを守る力	4	3	2	1	0
21. 社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	0
22. 地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	0
23. 地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	0
24. 多様な価値観を考慮し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	0

問6. 香川大学に対するご意見やご要望等がございましたら、自由にお書きください。

第2章 調査結果について

＜卒業生によるアンケート調査＞

1. 全学的な視点からの分析

(1) 分析結果

①労働状況（問3、問5）・・・表1、表2参照

令和5年度では、正規雇用で働いているが約90%、現在の職業に満足している（「満足している」と「ある程度満足している」の合計）は約87%であった。

②大学教育を通じて身についた能力（問8-1）・・・図2、図3参照

前回調査よりも、全体的に数値が上昇している。

令和5年度で80%以上：自己教育の態度（図2 ①と②）、日本語の言語運用能力（図2 ③と④）、知識・理解（図2 ⑪～⑬）、問題解決・課題探究能力（図3 ⑮～⑰）、倫理観・社会的責任（図3 ⑳と㉑）、地域理解・国際理解（図3 ㉒）

令和5年度で値が比較的低い：外国語の言語運用能力（図2 ⑤～⑧・40%以下）

③これまでの職業経験の中で役立った能力（問8-2）・・・図4、図5参照

前回調査よりも、全体的に数値が上昇している。

令和5年度で80%以上：自己教育の態度（図4 ①と②）、日本語の言語運用能力（図5 ③と④）、知識・理解（図4 ⑪と⑫と⑭）、問題解決・課題探究能力（図5 ⑮～⑰）、リスクマネジメント能力（図5 ⑱と㉒）、倫理観・社会的責任（図5 ⑳と㉑）、地域理解・国際理解（図5 ㉒）

令和5年度で値が比較的低い：外国語の言語運用能力（図5 ⑤～⑧・40%以下）

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

第1に、正規雇用で働いている割合も職業に対する満足度も、過去4回の調査から継続して高い。

第2に、大学教育で身につく、かつ、これまでの職業経験の中で役立っていると多くの卒業生が回答した能力には、日本語の言語運用能力、知識・理解、問題解決・課題探究能力、倫理観・社会的責任（これらは学士課程のディプロマ・ポリシー5つの構成要素のうち4つ）がある。

第3に、大学教育で身につく、かつ、これまでの職業経験の中で役立っていると回答した学生の割合について、すべての項目において、令和5年度は令和3年度よりも大きくなっている。

【改善を要する点】

大学教育を通じて身についた能力のうち、外国語の言語運用能力は継続して課題である。第4期中期計画には、「留学・海外研修（オンラインを含む）等の交流活動に加えて、地域と連携した取組等により、グローバル教育環境を拡充する」という項目がある。これらの活動の成果を、今後、注視していく必要がある。

【参考資料】

	令和 5 年 度	令和 3 年 度	令和 元 年 度	平成 30 年 度	平成 28 年 度
正規雇用で働いている	90.0%	89.8%	90.4%	87.0%	86.2%
非正規雇用で働いている	7.1%	6.2%	6.3%	8.6%	9.3%
働いていない	2.9%	4.0%	3.3%	4.4%	4.5%

表 1. 現在の勤務先の就業形態

	令和 5 年 度	令和 3 年 度	令和 元 年 度	平成 30 年 度	平成 28 年 度
満足している	36.7%	34.0%	38.1%	38.4%	37.9%
ある程度満足している	52.8%	51.9%	50.0%	46.7%	48.7%
あまり満足していない	9.5%	11.0%	9.9%	10.9%	11.4%
満足していない	0.9%	3.1%	2.0%	4.0%	2.0%

表 2. 現在の職業の満足度

注：四捨五入により合計が 100%にならない場合がある。

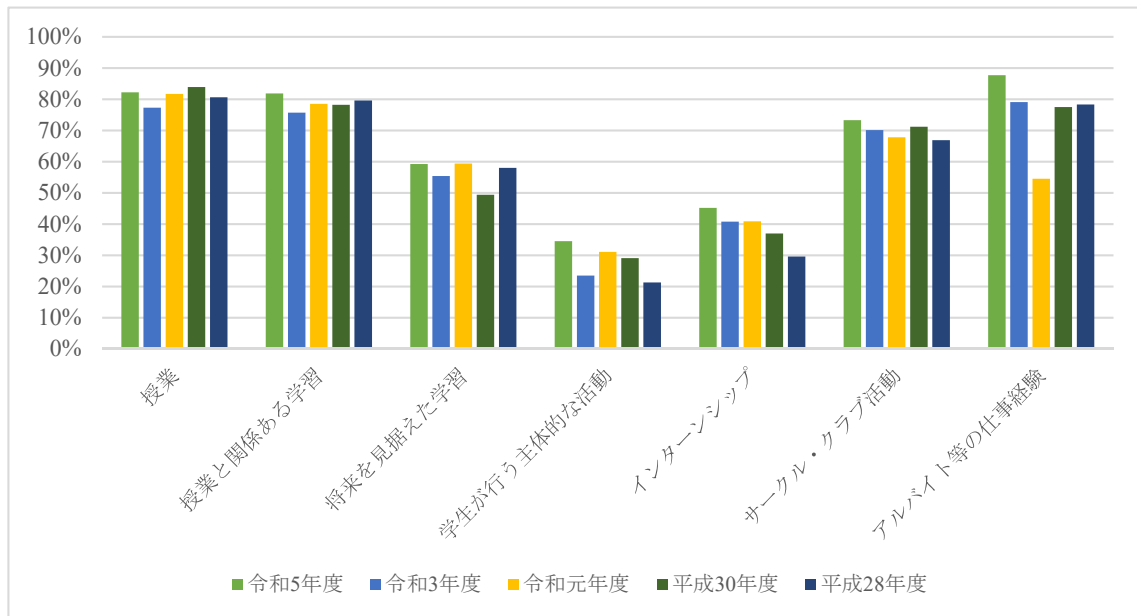


図 1. 在学中の取り組み

注 1：図 1 の具体的な内容は、次のとおりである。授業（授業時間中）、授業と関係ある学習（予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など）、将来を見据えた学習（資格取得（国家試験を含む）に向けた学習など）、学生が行う主体的な活動（夢チャレンジプロジェクト、国際交流活動など）、インターンシップ（体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む）、サークル・クラブ活動、アルバイト等の仕事経験。

注 2：図 1 の値は、在学中の取り組みで「熱心に取り組んだ」「どちらかといえば熱心に取り組んだ」の合計値を示している。

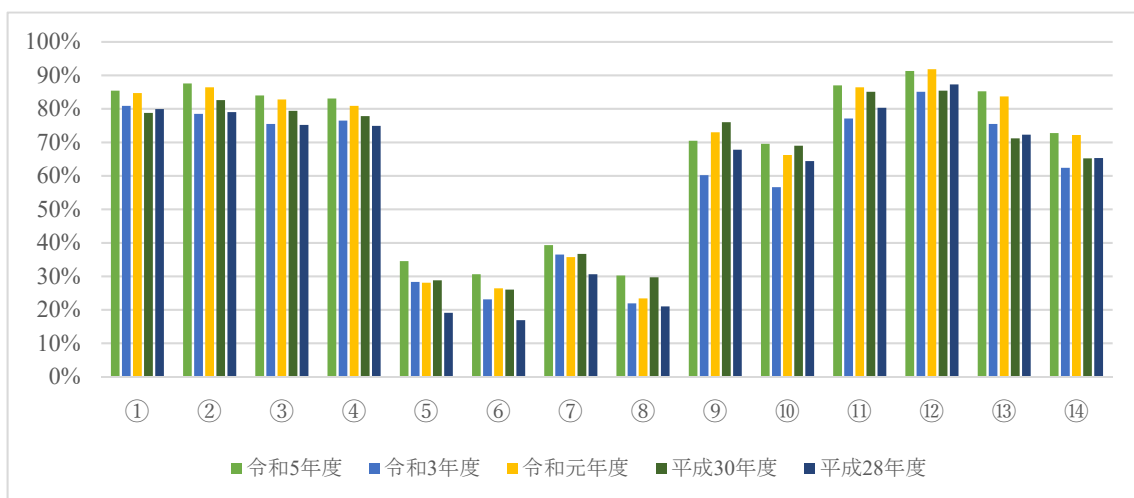


図 2. 大学教育で身についた能力（①～⑭）

注 1：図 2 の各番号は、次のとおり対応している。①物事に進んで取り組む力、②自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力、③日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力、④日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力、⑤特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力、⑥特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力、⑦特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力、⑧特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力、⑨情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用、⑩様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力、⑪幅広い知識や教養、⑫専門分野に関する基礎的な知識・理解、⑬専門分野に関する知識・理解を応用する力、⑭職業に関連する知識や技能。

注 2：図 2 の値は、大学教育で「身についた」「どちらかといえば身についた」の合計値を示している。

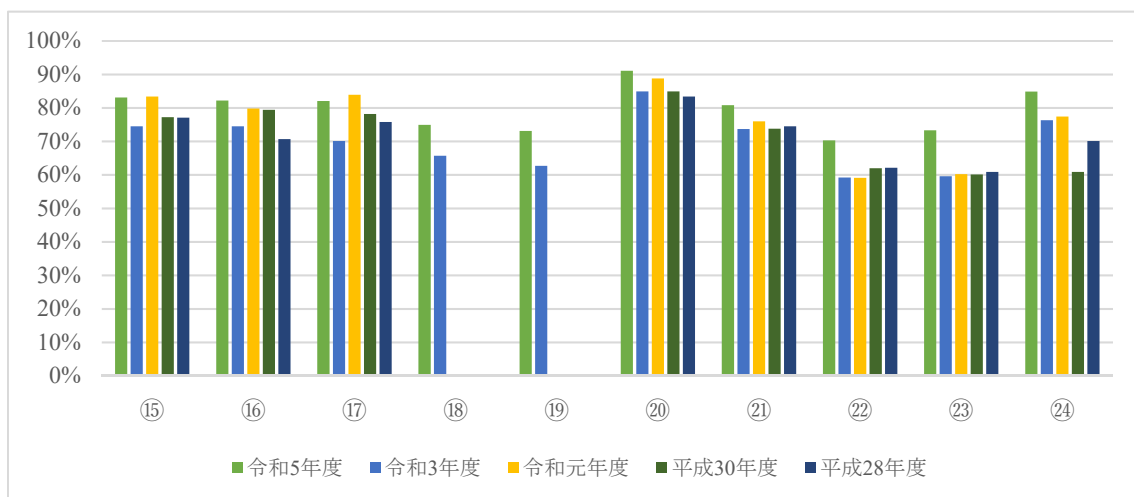


図 3. 大学教育で身についた能力（⑮～㉔）

注 1：図 3 の各番号は次のとおり対応している。なお、⑱と⑲の質問項目は、令和 3 年度調査より加えられた。⑮現状を分析し目的や課題を明らかにする力、⑯課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力、⑰課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力、⑱リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力、⑲リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力、⑳社会のルールを守る力、㉑社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力、㉒地域に貢献したいという意識、㉓地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力、㉔多様な価値観を尊重し、異なる文化を理解する力。

注 2：図 3 の値は、大学教育で「身についた」「どちらかといえば身についた」の合計値を示している。

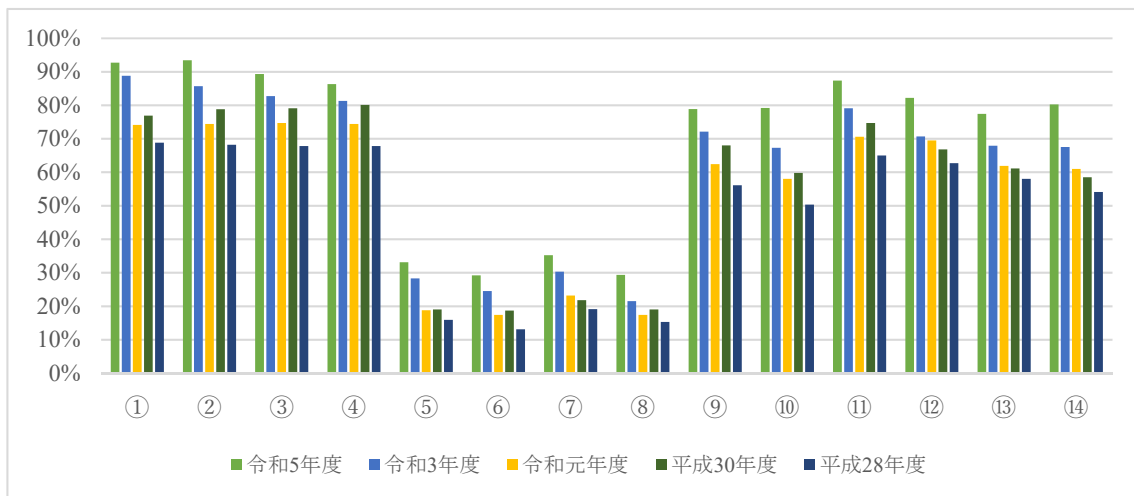


図 4. これまでの職業経験の中で役立った能力（①～⑭）

注 1：図 4 の各番号は次のとおり対応している。①物事に進んで取り組む力、②自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力、③日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力、④日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力、⑤特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力、⑥特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力、⑦特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力、⑧特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力、⑨情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用、⑩様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力、⑪幅広い知識や教養、⑫専門分野に関する基礎的な知識・理解、⑬専門分野に関する知識・理解を応用する力、⑭職業に関連する知識や技能。

注 2：図 4 の値は、「役立っている」の値を示している。

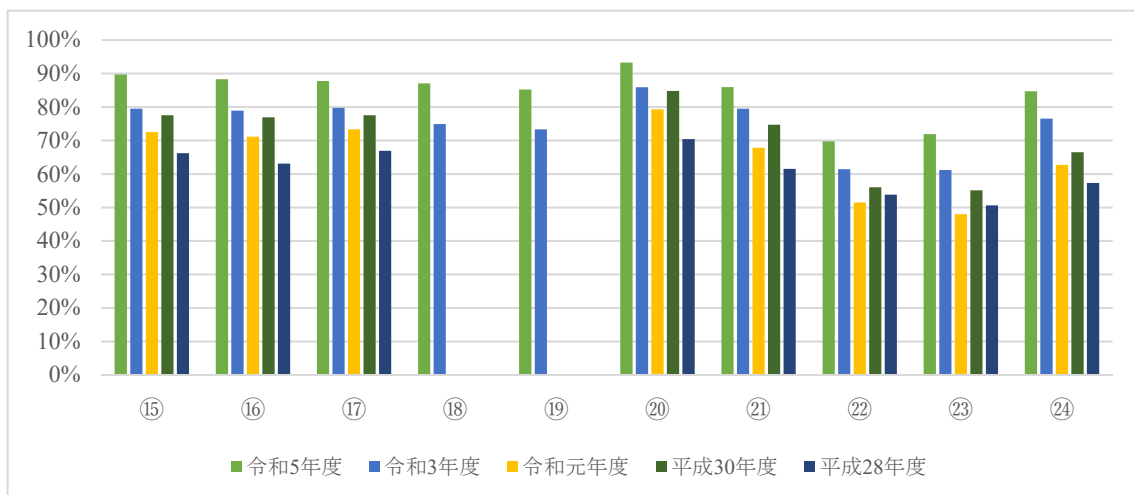


図 5. これまでの職業経験の中で役立った能力（⑮～㉔）

注 1：図 5 の各番号は次のとおり対応している。なお、⑱と⑲の質問項目は、令和 3 年度調査より加えられた。⑮現状を分析し目的や課題を明らかにする力、⑯課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力、⑰課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力、⑱リスクを予測し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力、⑲リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力、⑳社会のルールを守る力、㉑社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力、㉒地域に貢献したいという意識、㉓地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力、㉔多様な価値観を尊重し、異なる文化を理解する力。

注 2：図 5 の値は、「役立っている」の値を示している。

2. 学部に関する分析

教育学部

(1) 分析結果

今回の R1 卒業者 R2 卒業者のアンケート回答数は学校教育教員養成課程 111 名、回収率は 34.2%、人間発達環境課程 24 名、回収率は 28.6%であった。

専門教育についての満足度を問う項目（問 10）では、学校教育教員養成課程は学校教育基礎研究、学校教育実践研究、学校教育発展研究の科目に分けてそれぞれ回答を求めているが、「満足だった」「ある程度満足だった」が 90%を超えていた。人間発達環境課程においても、基礎研究、実践研究、発展研究の科目においてすべて 90%を超えており、実践研究の科目については「満足だった」「ある程度満足だった」を合わせると 100%という満足度であった。

「教員の教授方法」や「教育実習」についての満足度を問う項目（問 14）では、学校教育教員養成課程で「教育実習などの現場実習の充実」「少人数によるゼミ形式の授業」については「満足していた」「ある程度満足していた」の回答を合わせると 90%を超え、その他「勉学や進路等の相談で教員と接する機会」「学習環境」の満足度も「満足していた」「ある程度満足していた」を合わせると 8 割を超えていた。人間発達環境課程では「少人数によるゼミ形式の授業」の満足度が 95%を超えており、少人数でのきめ細やかな指導に対して満足度が高いという結果が得られていた。

問 15 の「総合的にみて、教育学部で学んだことについて満足していますか。」という問いに対しては、両課程とも「満足している」「ある程度満足している」を合わせると 90%を超えており、高い満足度を示している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

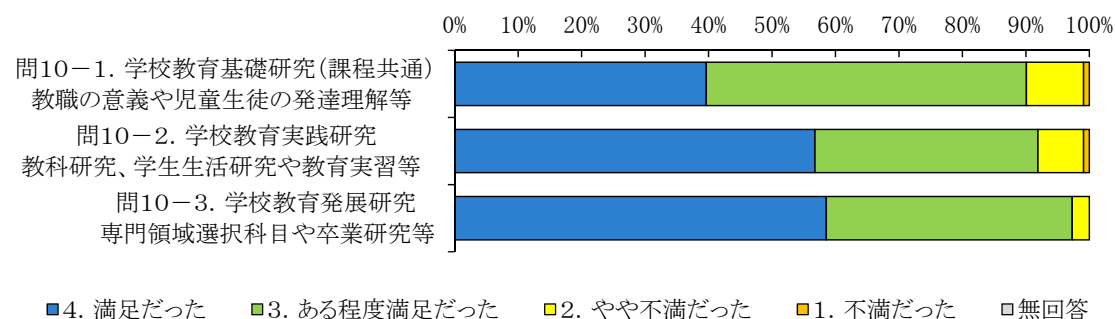
共通設問内の自由記述をみると、きめ細やかな指導への感謝や、グループワークを通した学び、コミュニケーション力の向上、様々な人との関わりがあったこと、つながりができたことなどが高く評価されている。教育実習や教員採用試験対策などについても充実していたという評価であった。また人間発達環境課程は幅広い分野の勉強ができたことや地域や留学生との交流が良かった、との記述が見られた。

【改善を要する点】

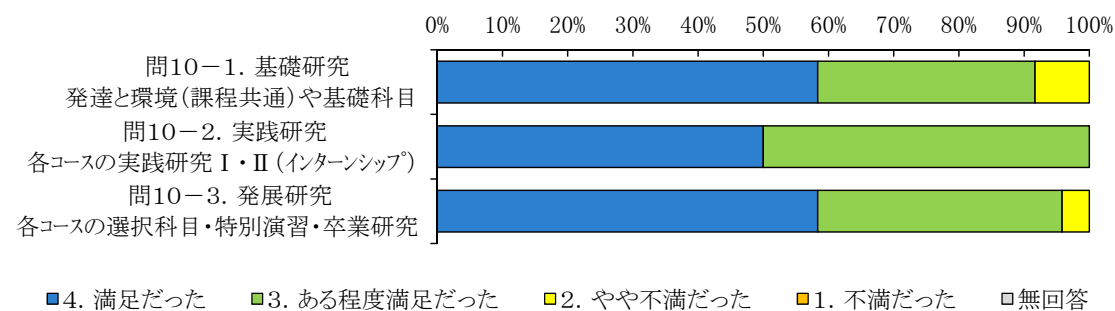
教育現場の詳しい話、現場の教員との交流などの経験や、教材研究、授業以外での実務的なスキルについて実践的な学びがもっと欲しいという希望があった。幅広い職業や年齢、コミュニティとの交流があったほうが良いのではないかと、との指摘もあった。また「勉学や進路等の相談で教員と接する機会」については満足度がやや低くなっているため、年度初めのガイダンスの時などを利用して、相談先などについて周知すべきだと思われる。

問10左. あなたは以下の専門科目について、どの程度満足していましたか。

〈学校教育教員養成課程〉

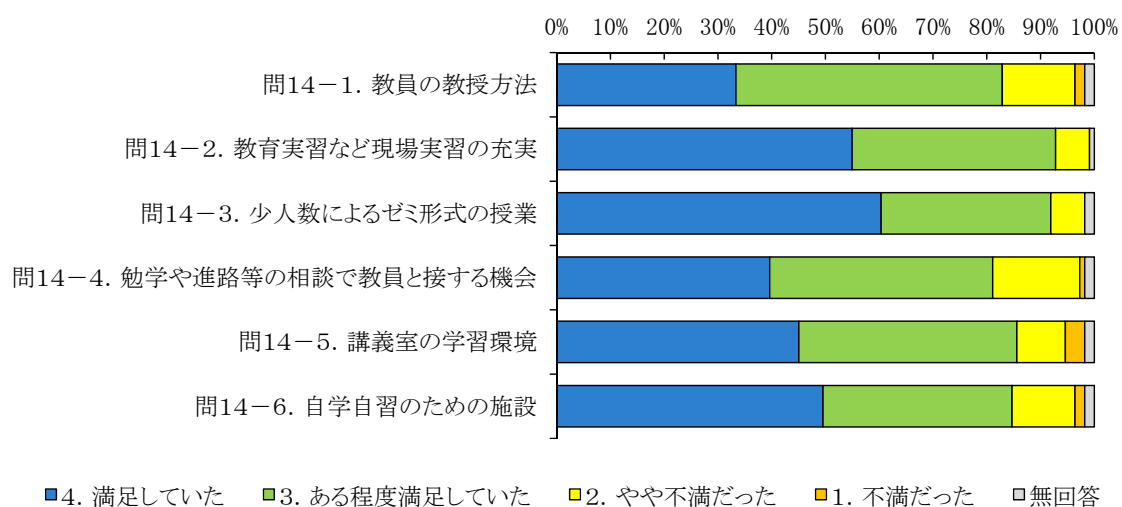


〈人間発達環境課程〉

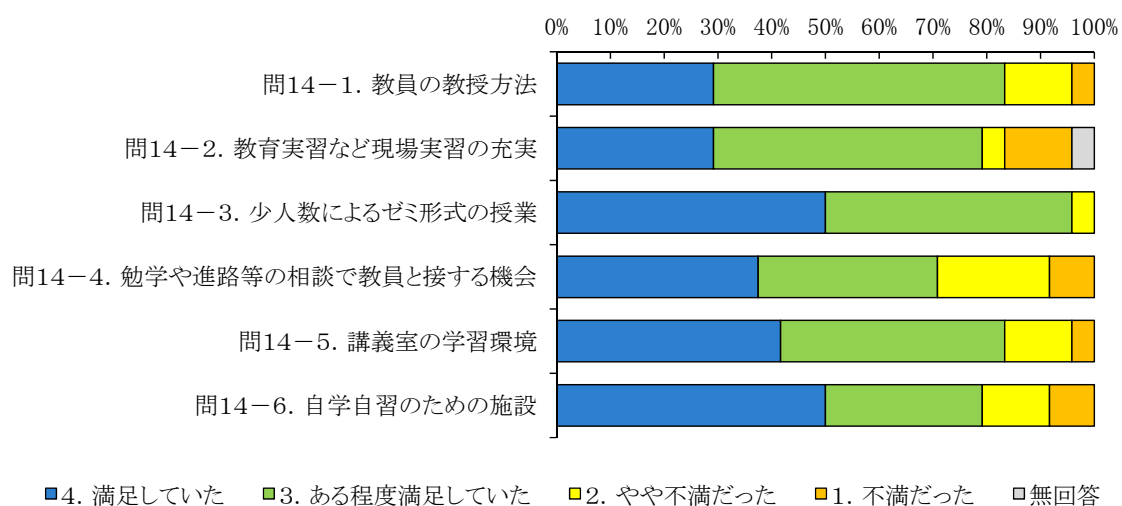


問14. 教育学部に在学中、以下の事柄についてどの程度満足していましたか。

〈学校教育教員養成課程〉

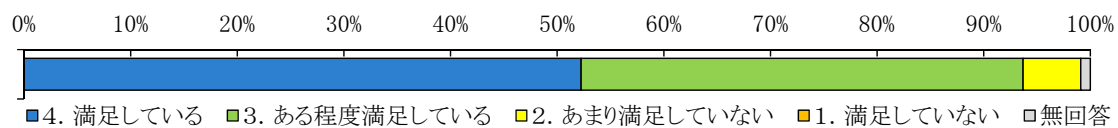


〈人間発達環境課程〉

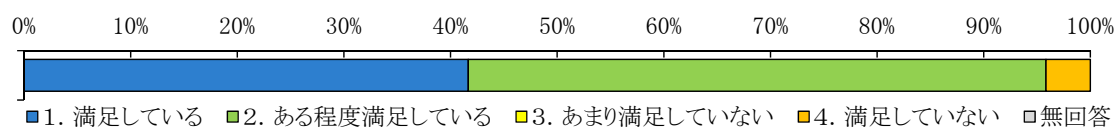


問 1 5. 総合的にみて、教育学部で学んだことについて満足していますか。

＜学校教育教員養成課程＞



＜人間発達環境課程＞



法学部

（１）分析結果

今回の調査対象は卒業後３年目（R2）及び４年目（R1）の卒業生であり、2019年度及び2020年度に卒業したため一部の学生はコロナ禍でオンライン授業を経験した卒業生である。法学部の回答は対象者327名中67名であり、回収率は20.5%であった（大学全体としては対象者2,504名中562名から回答を得られ、回収率は22.4%であった）。

共通設問における記述式の問い「出身学部が良かったと思う点」から興味深い内容を紹介すると、①会社で海外取引を含む契約書チェックや社内規程・就業規則の作成・改訂を担当しており、法学部で条文を読むことに慣れていたことがアドバンテージになった、②業務では民法、会社法、労基法、国際法など様々な法律がビジネスに絡んでいることを実感した、③報道業務においては裁判の流れや罪名など大学での学びが役立った、④地方大学出身者として、地方ならではの取り組みを就職活動で話すことができ、他の受験者との差別化を図ることができた、⑤早い段階からゼミ活動で資料の作成、発表を経験でき、文献から得た情報を簡潔に分かりやすくまとめる力を養うことができた、といった肯定的な評価が寄せられた一方で、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点として、①法曹志望者向けに、法律問題の答案の書き方を学ぶ機会が２年生くらいの時にあると良い、②講義の中で官公庁や民間企業における実務と法律の関わりを在学中にもっと学びたかった、③今勉強していることが社会に出た時にどう役立つか等、社会問題との接点の説明がなされて学生が興味を持てる構成で講義をしてもらいたい、④就職活動は情報戦の部分もあり、縦のつながりを増やして情報を得たかった、といった授業の内容や就職活動時のサポート面で課題も浮き彫りになった。

（２）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

前項の肯定的コメント⑤に表れているように、法学部では学部開設科目として１年次後期の基礎ゼミ、２年次のプロゼミ、３-４年次の演習と、一貫して少人数のゼミにより専門分野の文献講読や資料整理、発表や討論等を通じて社会的課題の発見・解決に資する教育を展開しており、専門的な講義科目と並行して学ぶことで法学的思考方法を教授している。こうした法学部教育については、概ね高い満足度を得られている（図１、２）。

【改善を要する点】

前項の改善を求めるコメント④に示された就職活動時のサポートについては、図１でも教員への就職や進路相談の機会が他の項目に比して満足度が低くなっている。これは就職活動時にコロナ禍に直面したこともあり、所属演習にもよるが教員によるサポート体制が学生の期待に十分に答えられなかったと評価しうる。改善コメント①、②、③については、現在のカリキュラムでは２年次から法文書作成を学ぶ授業や、法律系の発展的科目の提供、実務家による特別講義の充実を図っており、一定の改善は行われている。

【参考資料】

図1 法学部教育における満足度

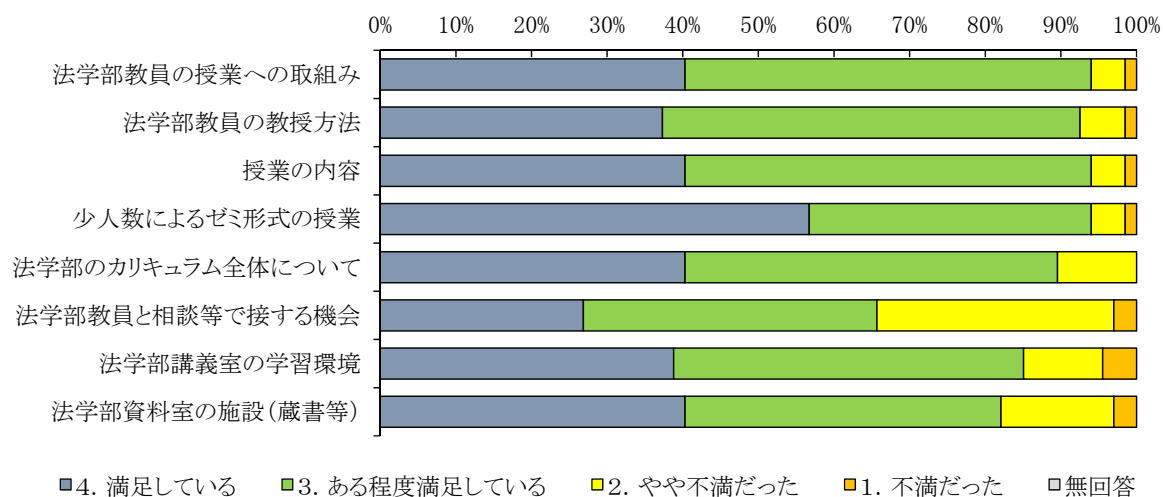
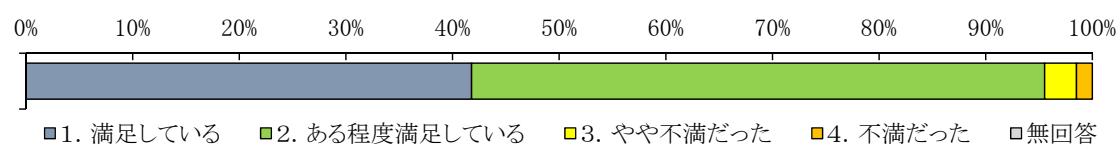


図2 法学部で学んだことについての総合的な満足度



経済学部

(1) 分析結果

今回のアンケート調査では 92 人の卒業生から回答があった。以下では、調査項目のうち学部の専門教育に関する回答結果について記述する。

①知識（問 10-1 から問 10-10 まで）

・ 専門教育で「身についた」又は「どちらかといえば身についた」と回答した割合は、「経済についての知識」が 81.5%と最も高く、「地域の活性化についての知識」が 77.2%と次に高いのに対し、「統計についての知識」が 56.5%と最も低い（図 1 参照）。

・ 仕事で「役立っている」と回答した割合は、「経済についての知識」が 73.9%と最も高いのに対し、「人類の文化および社会についての幅広い知識」が 45.7%と最も低い（図 2 参照）。

②データ分析能力（問 10-11 と問 10-12）

・ 専門教育で「身についた」又は「どちらかといえば身についた」と回答した割合は、「定量的なデータ分析能力」が 58.7%、「定性的なデータ分析能力」が 55.4%であり、いずれも全体回答者の半数以上は満たしているものの、十分な水準とは言えない（図 1 参照）。

・ 仕事で「役立っている」と回答した割合は、「定量的なデータ分析能力」が 62.0%、「定性的なデータ分析能力」が 60.9%であり、いずれも 6 割以上の回答者から評価されているものの、著しく高いとは言えない（図 2 参照）。

③複眼的思考力等（問 10-13 から問 10-16 まで）

・ 専門教育で「身についた」又は「どちらかといえば身についた」と回答した割合は、「複眼的な思考力」が 68.5%、「チャレンジ精神や行動力」が 83.7%、「コミュニケーション力」が 87.0%、「課題探求・解決力」が 87.0%であり、いずれも十分な水準である（図 1 参照）。

・ 仕事で「役立っている」と回答した割合は、「複眼的な思考力」が 77.2%、「チャレンジ精神や行動力」が 89.1%、「コミュニケーション力」が 91.3%、「課題探求・解決力」が 89.1%であり、いずれも十分な水準である（図 2 参照）。

④特色ある授業・課外活動（問 11）

・ 演習等の学部の特色ある授業・課外活動のなかで仕事で「役立っている」又は「どちらかといえば役立っている」と回答した割合は、81.1%の「演習・個別演習」を筆頭に、「卒業論文」、「学生チャレンジ・プロジェクト」、「専門履修プログラム」、「実践型／地域インターンシップ」のいずれも 80%前後と十分な水準であった。一方、「海外研修・留学」は 65.1%と相対的に低かった（図 3 参照）。なお、本データについては、必修でない授業・課外活動が含まれているため、「無回答」を除いた回答数を分母として割合を計算した。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

「経済についての知識」、「コミュニケーション力」、「課題探求・解決力」、「チャレンジ精神や行動力」及び「複眼的思考力」においては、専門教育で十分に身につけ、それらを仕事で役立てている。また、「地域の活性化についての知識」も専門教育で十分に身につけていると言える。学部の特色ある授業・課外活動もおおむね仕事で役立っている。

【改善を要する点】

学部の専門教育課程を通じて身についた知識・能力に偏りが見られる。相対的に見て低水準となっているのは、「統計についての知識」、「世界各地域の経済についての知識」、「定性的なデータ分析能力」等である。より多くの学生が、統計や世界経済、データ分析に関する授業科目を履修するべく、カリキュラムの調整を実施する等、履修科目の偏りを小さくする工夫が求められる。

【参考資料】

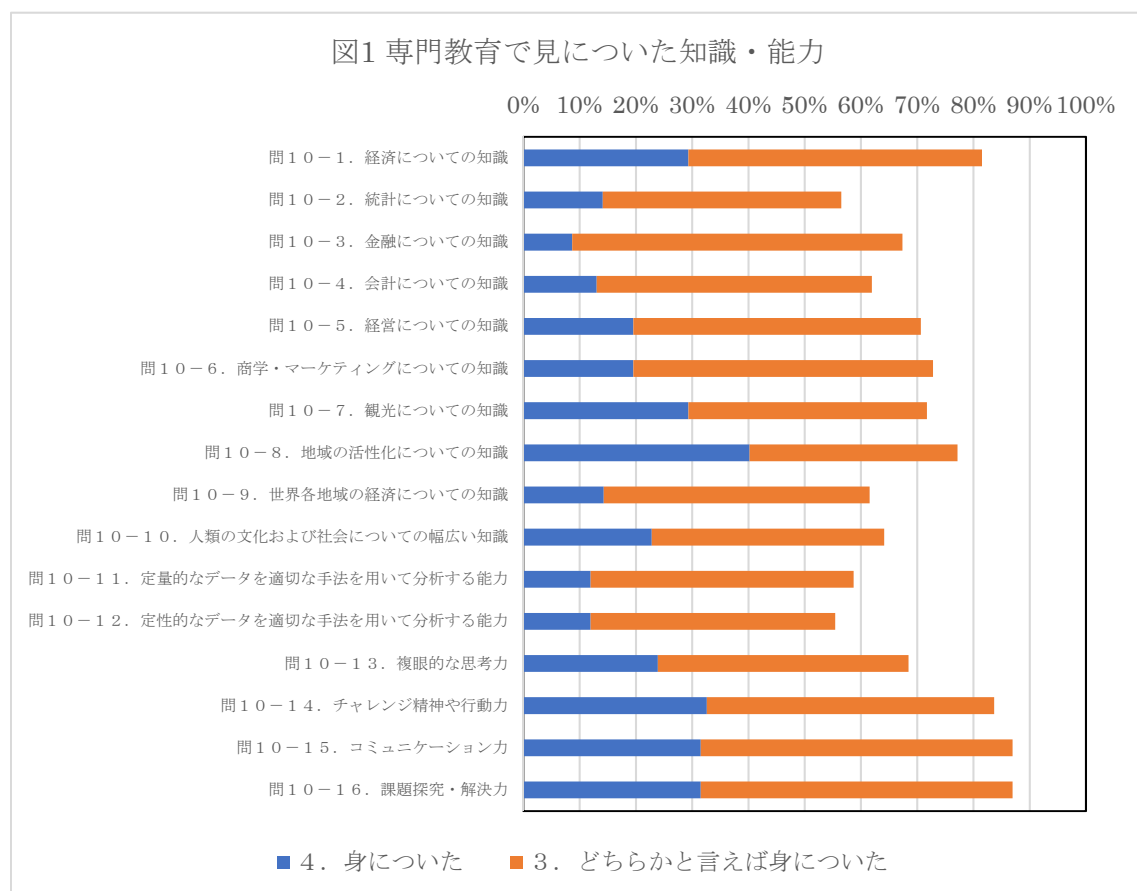


図2 専門教育で見についた知識・能力が仕事で役立っている

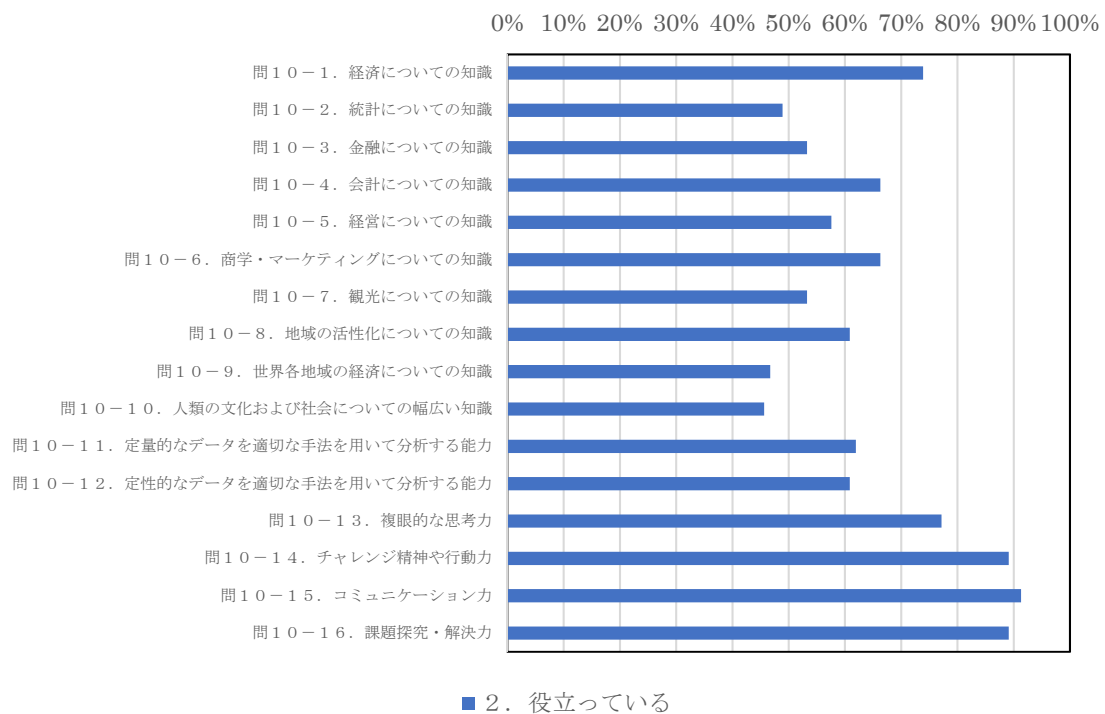
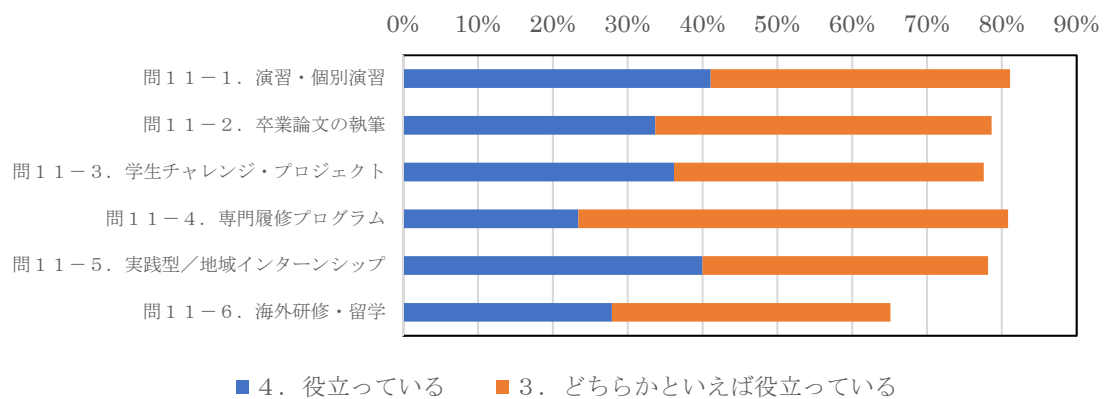


図3 学部の特徴ある授業・課外活動が仕事で役立っている



医学部医学科

（１）分析結果

卒業生アンケートとして医学部医学科では計46名のアンケート結果が得られた。

県内在住者の割合は、入学時50%から現在30.4%に減少（23人→14人、9人減）したのに対し、県外在住者の割合は、入学時50%から現在60.9%に増加（22人→28人、6人増）している。

また、アンケート結果の分析では、問11～13によると、ほぼ全員が医療職に従事し、特に研究職ではなく臨床医（内科系43.5%、外科系39.1%、その他8.7%）として勤務（大学病院30.4%、一般病院67.4%）であった。

問14の在学中の教育に関しては、シラバス、教育法、学習法、カリキュラム、評価法に関して全ての項目で7割以上が「満足」か「ある程度満足」との回答であり、問15の大学教育を通じて身についた能力では、「医学の基礎知識」「人間の尊厳・人権を尊重する態度の形成」「医療人に求められるモラルや礼儀、社会的責任」「専門職業人として生涯自己研鑽する能力」は9割以上が「身についた」か「ある程度身についた」とする回答であった。さらに国家試験に関する教育に関しては、8割以上が肯定的な評価であった。

一方で、問14の学習・生活支援に関しては、自習室に対する満足度が「不満」と「やや不満」の合計が約4割と他のアンケート結果と比較すると不満が強かった。

総合的に医学科での学習に関しては、9割近い学生が「満足」か「ある程度満足」との評価であった。

（２）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

医学に関する教育内容については、肯定的な回答が7割以上を占めており、教育を通じて身についた能力、現在の仕事で必要とされる能力の回答結果をみると十分な学習効果が得られていると言える。

【改善を要する点】

アンケート結果は、半数以上が肯定的な意見で占められているが、教養科目と外国語科目の満足度はやや低くなっており、教育体制の改善について検討が必要である。また、自習室の改善については、令和5年度に医学部再開発による講義棟改修が行われたため、今後のアンケート結果を注視したい。

【参考資料】

図1 (問14) シラバスの充実度

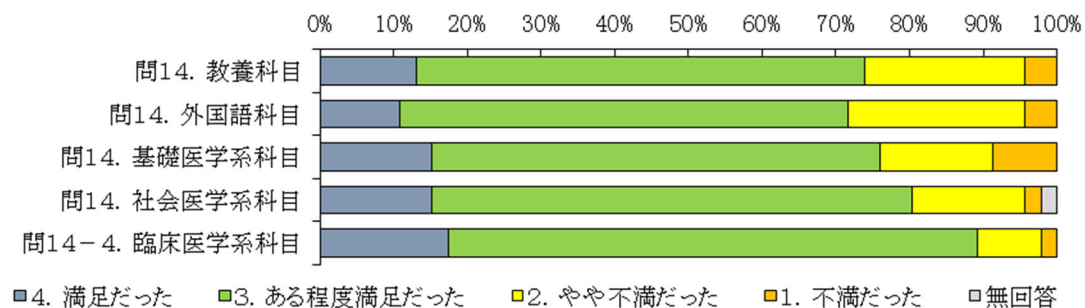


図2 (問14) 教育法

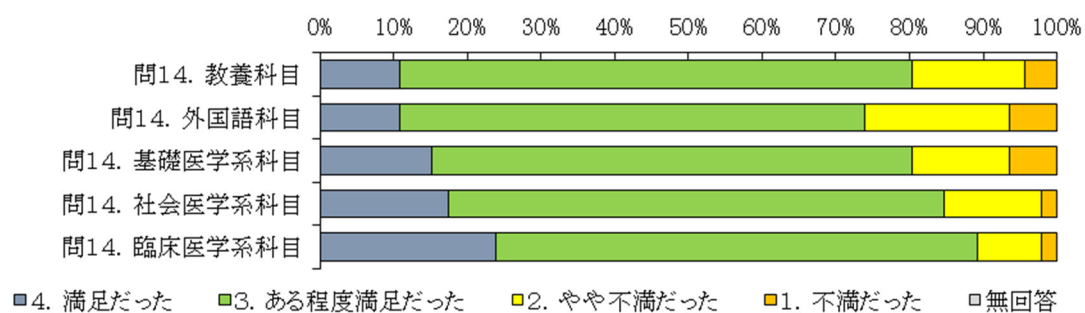


図3 (問14) 学習法

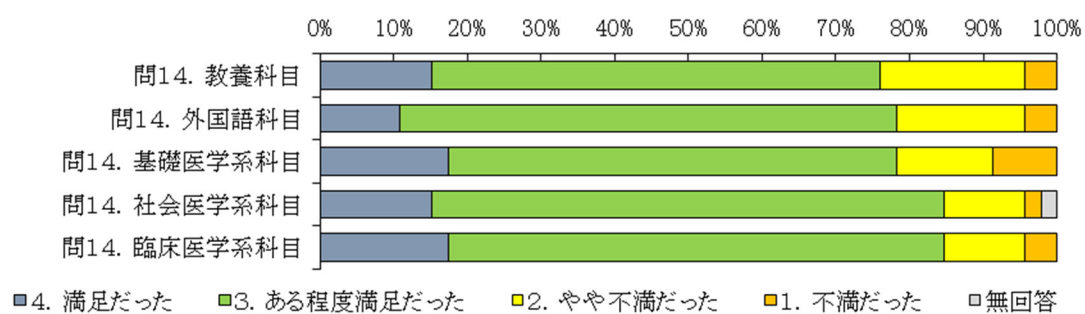


図 4 (問 14) カリキュラム

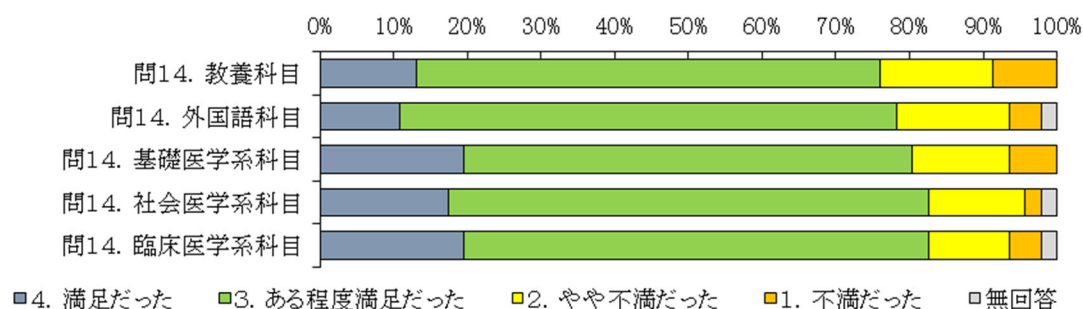


図 5 (問 14) 評価法

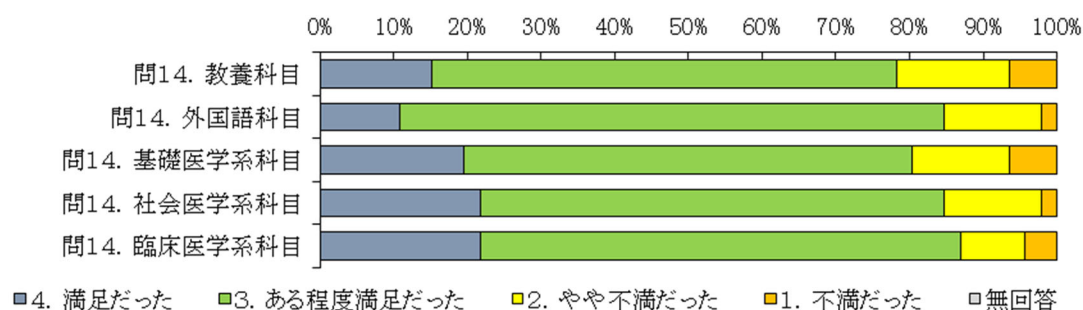
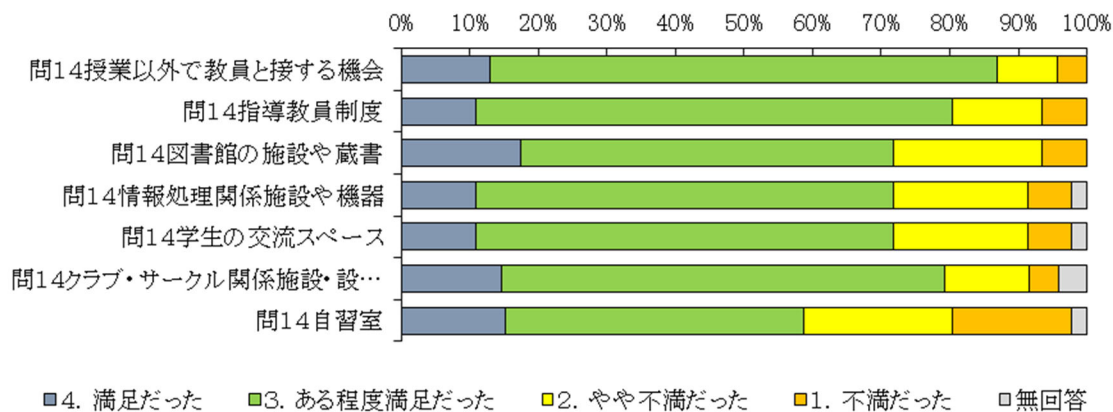


図 6 (問 14) 医学部での学習・生活支援



医学部看護学科

（１）分析結果

卒業生アンケートとして、医学部看護学科では計39名のアンケート結果が得られた。

県内在住者の割合は、入学時69.2%から現在46.2%に減少（27人→18人、9人減）しており、県内定着率が低くなっている。

問11の現在の職種では、看護師（56.4%）、保健師（23.1%）、養護教諭（12.8%）、助産師（2.6%）であり、助産師以外の92.3%が本学での取得資格で就業している。勤務場所（問12）は、大学附属病院または病院が中心（51.3%）となっている。

在学中の学習や活動の満足度について（問 14）、大学教育に対しては、専門基礎科目と専門科目は100%が「満足」または「ある程度満足」となっており、臨地実習においても「満足」と「ある程度満足」が100%近い数値となっている。また、学習・生活支援では、全ての項目で9割以上の学生が「満足」か「ある程度満足」と回答している。

問15の在学中に「身についた」または「ある程度身についた」能力としては、看護学の基礎知識、医療職者間で協働・連携する能力、人間の尊厳・人権を尊重する態度の形成が、それぞれ100%と極めて高く評価されているほか、それら以外の項目も、9割以上が身についたと評価している。在学中に身につけた能力が現在の仕事の中で必要とされているかについては、全ての項目で9割以上が「必要」または「ある程度必要」と考えているが、専門職業人として生涯自己研鑽する能力は否定的な回答が5.2%と他の項目と比較するとやや高くなっている。

また、国家資格取得に必要な教育が行われたか（問16）では、「行われていた」または「ある程度行われていた」が100%に近い数値であり、総合的に看護学科での学習に対する満足度は非常に高くなっている（問 18）。

（２）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

医学部看護学科で学んだことに対する総合的な満足度は全体として非常に高い。アンケート結果からは、特に看護の基礎知識と、医療職者間で協働・連携する能力、人間の尊厳・人権を尊重する態度の形成が確実に身につけていると評価でき、それらの能力は現在の仕事の中でも必要とされていることから、本学科で学習する意義は極めて高いと評価できる。

【改善を要する点】

アンケート結果全般では肯定的な回答が大多数となっているが、学習・生活支援については、授業以外で教員と接する機会と、指導教員制度で否定的な回答がそれぞれ7.7%と若干高くなっており、講義以外での支援体制の改善が求められる。

【参考資料】

図1（問15）大学教育を通じて身についた能力

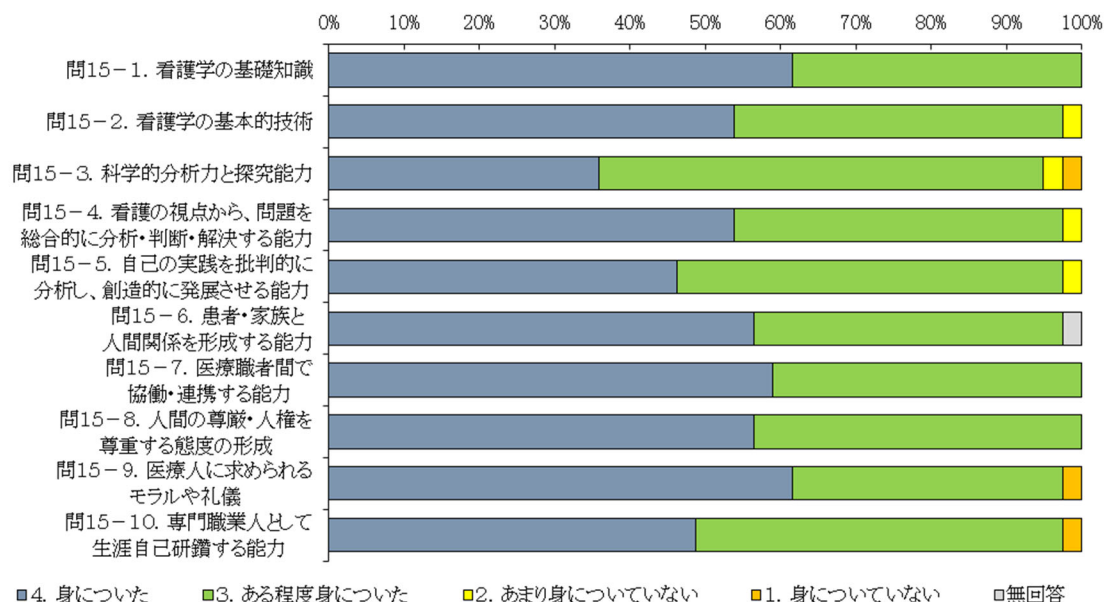


図2（問15）現在の仕事で必要とされている能力

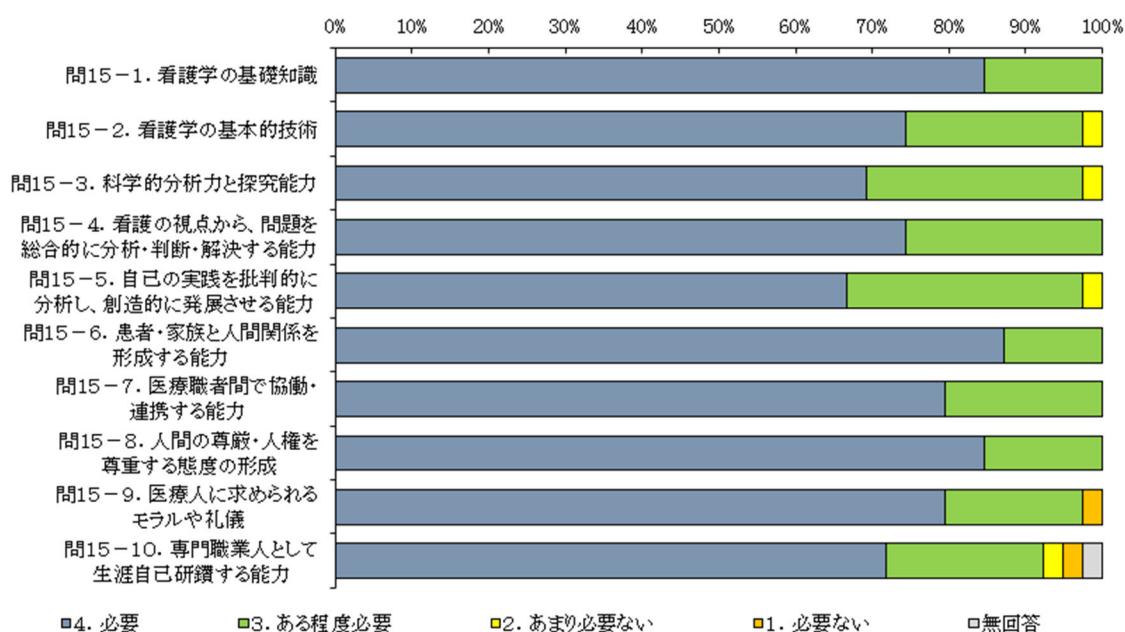
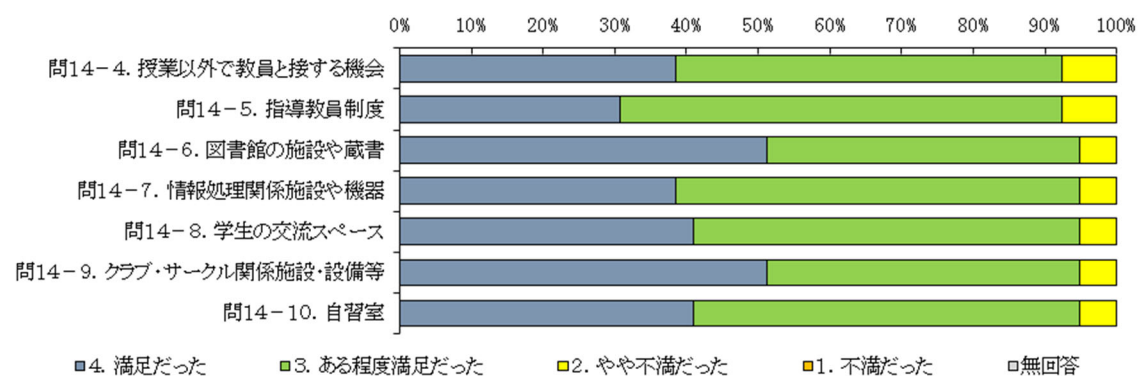


図3（問14）学習・生活支援



創造工学部（工学部）

1. 学部に関する分析

（1）分析結果

工学部卒業生（R1 年度～R2 年度卒業生）のアンケート回答人数は 118 名であった。言語運用能力（参考資料：図 1）について、「論理的かつ客観的な文書を作成することができる力」の肯定的回答（「身についた」と「どちらかと言えば身についた」）は 86.5%と非常に高い。同様に「多様な情報を適切に利用し、効果的なプレゼンテーションを行うことができる力」「英語による情報収集能力、コミュニケーション能力」もそれぞれ 82.2%ならびに 87.3%と非常に肯定的であり、数年前と比較して改善傾向がみられている。一方「国際的視野を持ち、世界標準の科学技術に関する情報を収集できる力」の肯定回答は 47.5%にとどまり、R1 年度や R3 年度の実施結果と比較して改善の傾向が認められない。

次に、知識・理解（参考資料：図 2）については「自然科学の基礎知識および基本原理の理解」「工学的課題を解決するために必要な工学的基礎知識」「人間、社会、環境についての多角的な視点」について肯定的回答がそれぞれ 72.2%、90.6%、79.6%となっており、R1 年度や R3 年度の実施結果と比較して改善する傾向が示されている。

問題解決・課題探究能力（参考資料：図 3）については「自主的、継続的に学習し、新たな課題を探求することができる力」、「専門分野において課題を認識し、その解決に向けて企画、立案し、遂行することができる力」、「多様な制約の下で、専門知識、技術を用いて、必要に応じ他者と協力して問題を解決することができる力」は肯定的回答が 82.2%、83.1%、84.8%と軒並み高く、全体的に高い学習効果を自認する学生が多かった。

倫理観・社会的責任（参考資料：図 4）では「工学倫理に則って、技術者としての社会的役割を担うことができる力」は 85.6%以上の卒業生が肯定的に回答しているが、一方で「市民としての社会的責任を自覚して行動することができる力」は 74.6%に留まっている。

最後に、地域理解（参考資料：図 5）についての質問では「地域の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて問題を発見し、探究することができる力」は 64.4%となっており、例年通りに近い数値であるとともに、他の項目と比較して低い状況でもあるといえる。

（2）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

言語運用能力、知識・理解は全般的に高い割合で肯定的回答が得られており、近年（R1 年度と R3 年度）と比較して改善する傾向にある。特に「論理的かつ客観的な文書を作成することができる力」「工学的課題を解決するために必要な工学的基礎知識」の肯定的回答は 85%以上に達している。また、「工学倫理に則って、技術者としての社会的役割を担うことができる力」も 85%以上が肯定的な回答であり、工学倫理の高い教育効果が示されている。

【改善を要する点】

「国際的視野を持ち、世界標準の科学技術に関する情報を収集できる力」や「地域の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて問題を発見し、探究することができる力」についての回答が低調であった。ともに視野を拡げる必要のある課題であり、グローバルな視点をもちつつ地域で活躍できる人材を育成する上では、教育内容の重点化が必要な可能性がある。

【参考資料】

図 1 言語運用能力：香川大学工学部の専門教育を通じてどの程度身に付きましたか

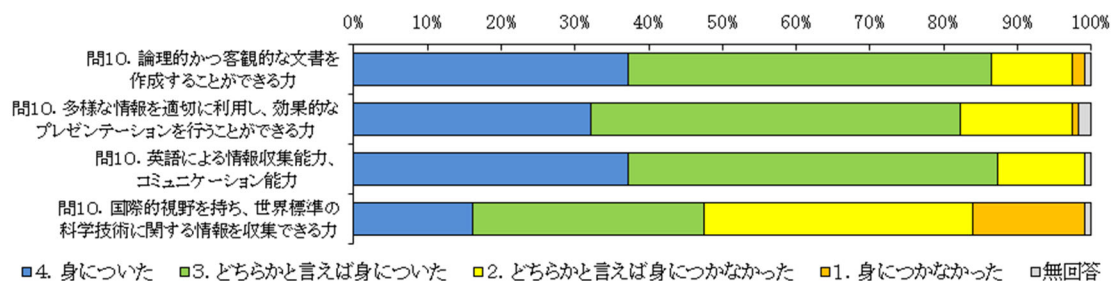


図 2 知識・理解：香川大学工学部の専門教育を通じてどの程度身に付きましたか

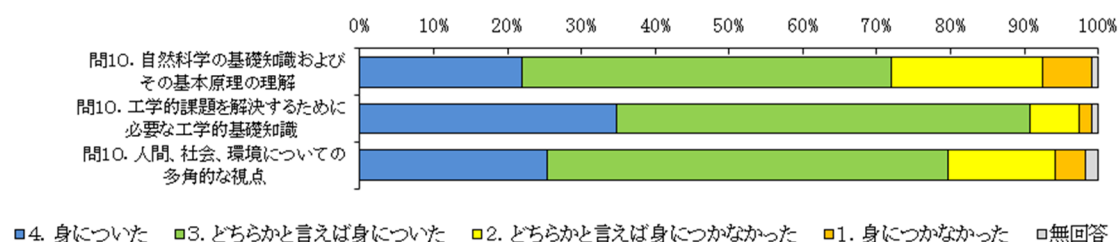


図 3 問題解決・課題探究能力：香川大学工学部の専門教育を通じてどの程度身に付きましたか

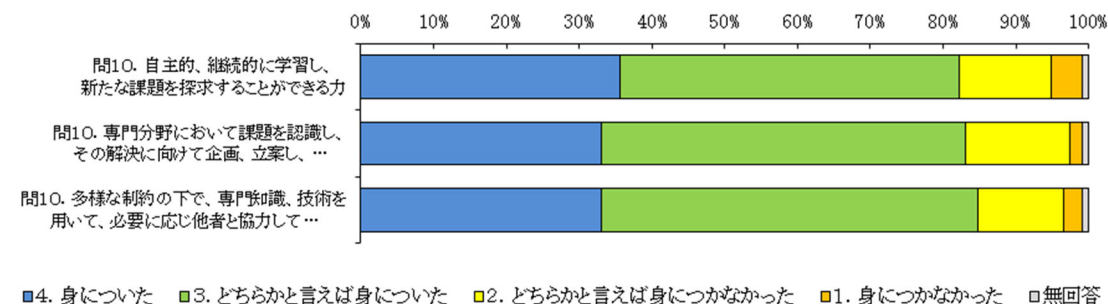


図 4 倫理観・社会的責任：香川大学工学部の専門教育を通じてどの程度身に付きましたか

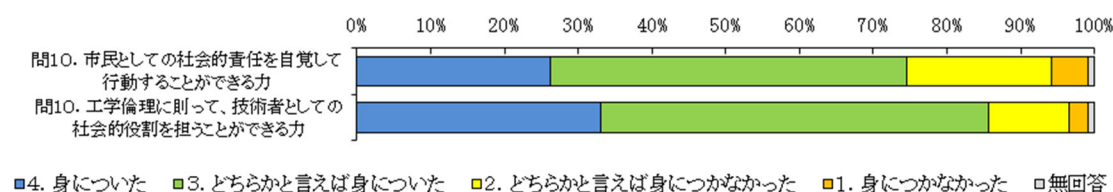
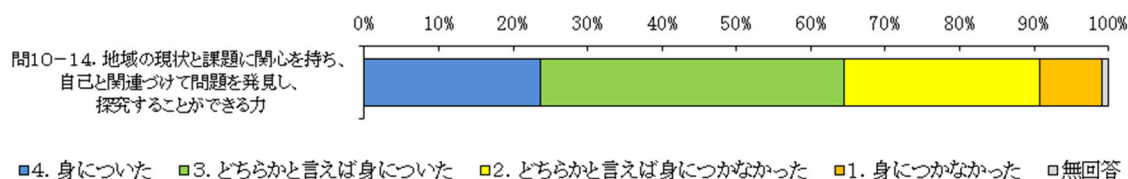


図 5 地域理解：香川大学工学部の専門教育を通じてどの程度身に付きましたか



農学部

(1) 分析結果

①専門教育各科目における充実度（満足度）（問 10-1～6）：図 1 参照

「充実していた」および「ある程度充実していた」と肯定的な回答をした卒業生の割合は、「導入ならびに共通基礎科目」約 94%、「コース専門科目」約 95%、「共通展開科目」約 90%、「コース実験またはフィールド実習」約 89%、そして「課題研究」では約 97%だった。

②学習・生活支援における充実度（満足度）（問 10-7～9）：図 2 参照

肯定的な回答をした卒業生の割合は、「農学部教員との交流」約 70%、「農学部における友人との交流」約 88%、そして「農学部における学生相談窓口」では約 64%だった。

③専門教育および学生生活がこれまでの職業生活への役立ち度（問 11-1～9 左）：図 3 参照

肯定的な回答をした卒業生の割合は、「導入ならびに共通基礎科目」約 80%、「コース専門科目」73%、「共通展開科目」75%、「コース実験またはフィールド実習」約 70%、そして「課題研究」では約 77%だった。学生生活における「研究室での活動」は約 81%、「就職活動」約 78%、そして「友人との交流」では約 91%だった。

④専門教育および学生生活の社会生活全般への役立ち度（問 11-1～9 右側）：図 4 参照

肯定的な回答をした卒業生の割合は、「導入ならびに共通基礎科目」約 83%、「コース専門科目」約 78%、「共通展開科目」約 78%、「コース実験またはフィールド実習」約 73%、そして「課題研究」では約 83%だった。また、「研究室での活動」約 86%、「就職活動」約 84%、そして「友人との交流」では約 92%だった。

⑤総合的にみた農学部で学んだことの満足度（問 13）：図 5 参照

肯定的な回答をした割合は約 94%だった。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

前回の令和 3 年度実施結果と比較すると全般的に肯定的な回答が約 10%増加した。その中でも、問 10-5 専門教育各科目における充実度（満足度）において、課題研究を肯定的に回答した割合が約 85%から約 97%へ増加した点は特筆すべきである。職業生活での役立ち度と社会生活全般での役立ち度では導入並びに共通基礎科目が最も高い割合だったことから、基礎教育が優れた効果を発揮したと考えられる。学習・生活支援においては、友人との交流が在学中の満足度、職業生活、社会生活全般において、役立ったと回答した割合が約 90%前後だった。大学で構築された人間関係が卒業後においても支えになったとうかがえる。

【改善を要する点】

専門教育の満足度では、共通展開科目、およびコース実験またはフィールド実習が相対的に低い値となった。また、学習・生活支援では学生相談窓口と教員との交流の充実度が低く出た。この傾向は職業生活および社会生活全般においても同様であるため改善を要する点である。過去の調査でも同様の傾向があることから、対策の見直しが必要である。

【参考資料】

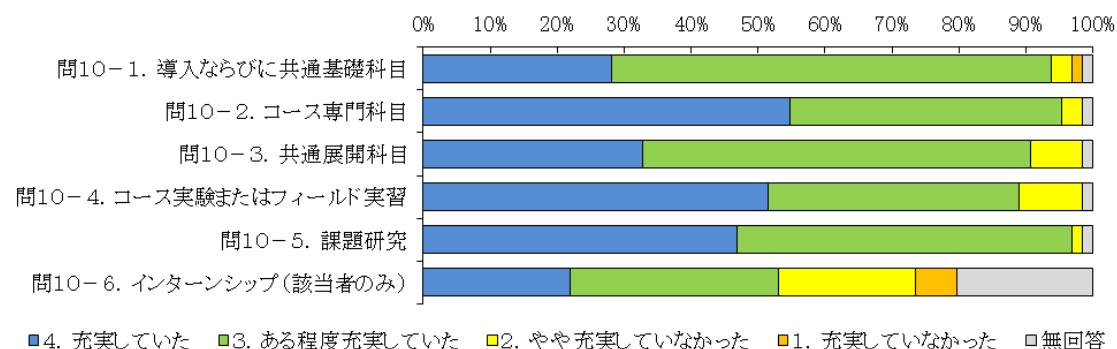


図1：専門教育各科目における充実度（満足度）

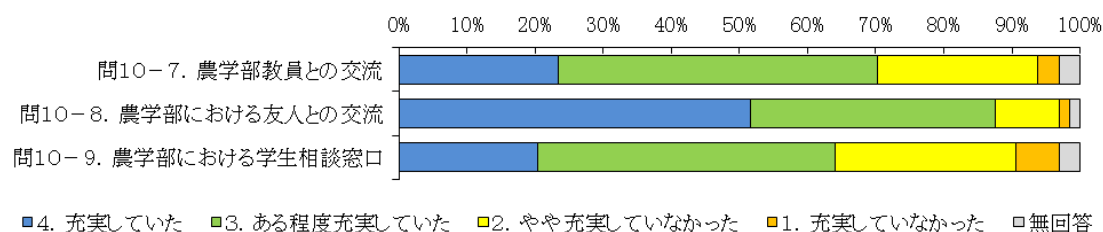


図2：学習・生活支援における充実度（満足度）

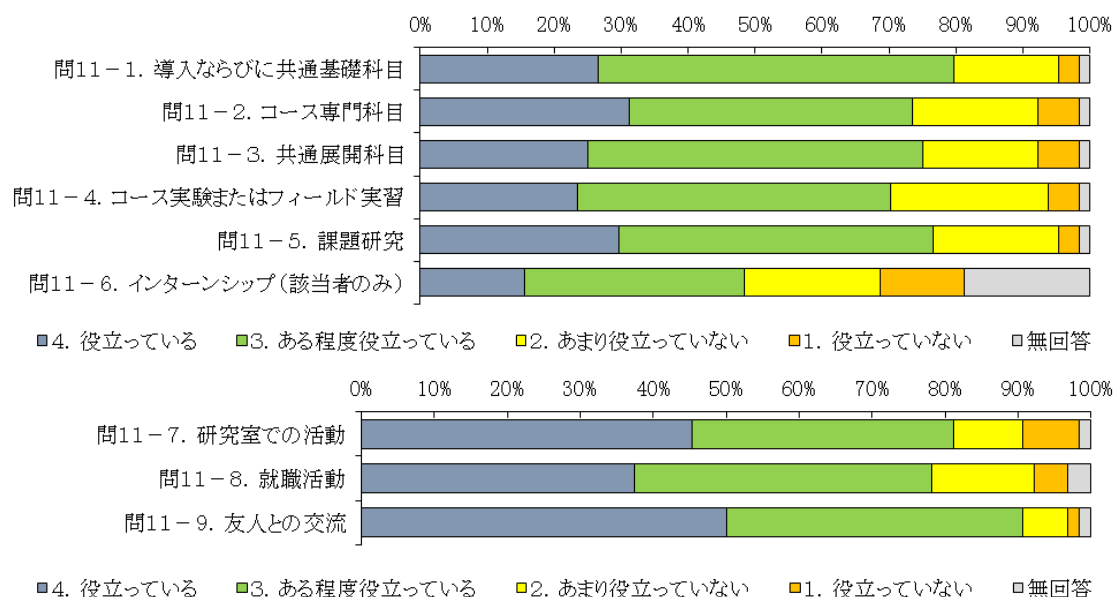


図3：専門教育および学生生活がこれまでの職業生活への役立ち度（問11左）

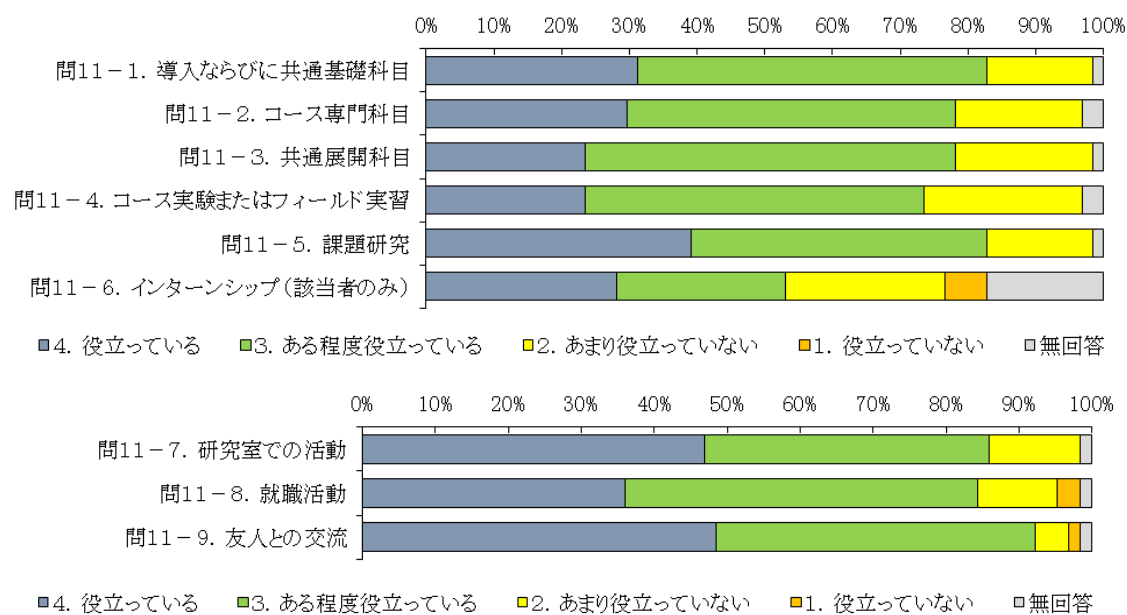


図4：専門教育および学生生活の社会生活全般への役立ち度（問11右）

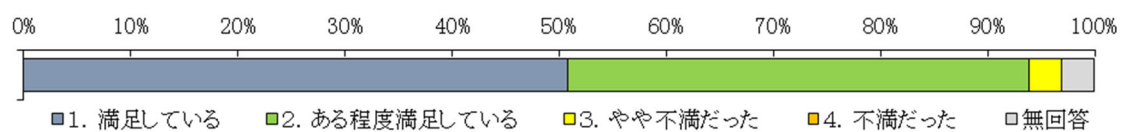


図5：総合的にみた農学部で学んだことの満足度（問13）

＜修了生によるアンケート調査＞

1. 全学的な視点からの分析

（１）分析結果

①職業・労働状況（問 3、問 4）・・・図 1、図 2 参照

- ・勤務先の就業形態について、「正規雇用」が約 89%となっており、高い値である。（図 1）
- ・勤務先の業種について、多い順から「教育関係」が 21.4%、「建設・機械関係」が 18.2%となっている。（図 2）これは、全回答者のうち約 55%が、教育学研究科、工学研究科のいずれかの出身者であることが関係していると推測される。

②転職、あるいは離職の経験（問 7）・・・図 3 参照

- ・転職、あるいは離職の経験が「ない」と回答した者が約 64%を占めている一方、「ある」と回答した者は約 26%となっている。また、「数年内には転職、あるいは離職したい」者は約 10%となっている。（図 3）

③大学院教育を通じて身についた知識・能力（問 7）・・・図 4 参照

- ・「高度な専門知識」「研究を計画・遂行する力」「専門知識を応用して課題を解決する力」「倫理観や社会的責任」の知識・能力については、身についた者（「身についた」と「どちらかといえば身についた」の合計）が 9 割を超えている。（図 4）
- ・「国際的視野」の知識・能力については、身につかなかった者（「身につかなかった」と「どちらかといえば身につかなかった」の合計）が約 37%となっている。（図 4）

④これまでの職業経験の中で役立った知識・能力（問 7）・・・図 5 参照

- ・「研究を計画・遂行する力」「専門知識を応用して課題を解決する力」の知識・能力は、役立った者が 8 割を超えている。「専門知識を応用して課題を解決する力」は、大学院教育で習得できる知識・能力と考えられ、職業経験においても有用であることが確認できる。（図 5）

（２）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- ① 勤務先の就業形態について、約 90%の回答者が「正規雇用」である。
 - ・これは、令和 3 年度の回答結果（約 94%）と比較して高い値で推移しており、大学院修了者の就職状況が良好であると評価できる。
- ② 大学院教育を通じて、専門知識に加えて多様な知識・能力が身についている。
 - ・「高度な専門知識」「専門知識を応用して課題を解決する力」の修得に加え、「研究を計画・遂行する力」、「倫理観や社会的責任」の知識・能力についても伸長できている。

【改善を要する点】

- ① 学んだ分野における「国際的視野」の知識・能力について、身につかなかった者（「身につかなかった」と「どちらかといえば身につかなかった」の合計）が約 37%存在する。
 - ・令和 5 年度から、大学院生に対し、国際学会での発表や優れた研究活動を推進する表彰制度が開始されている。引き続き、大学院生に対する国際的な教育・研究の機会の拡充やその充実を促す取り組みを展開することが求められる。

【参考資料】

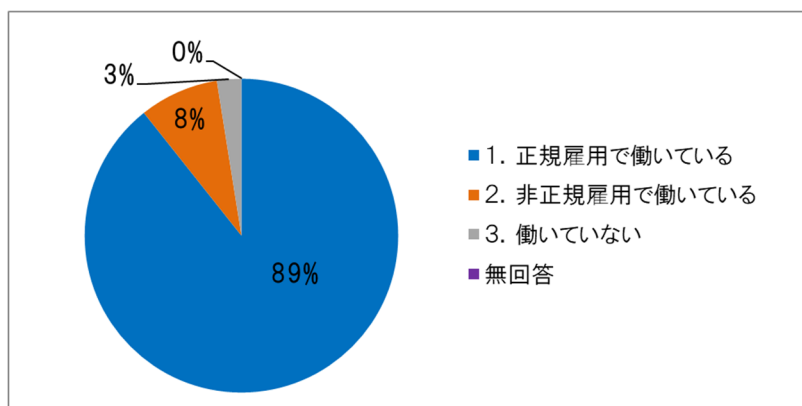


図 1. 現在の勤務先の就業形態 (N=159)

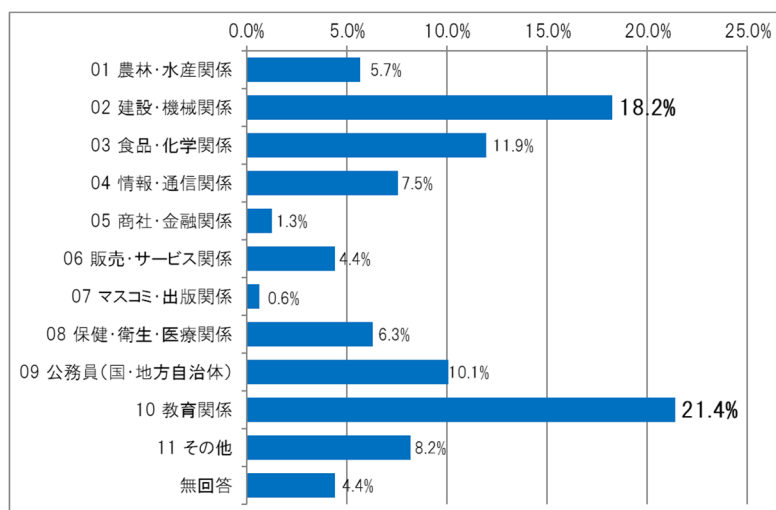


図 2. 現在の勤務先の業種 (N=159)

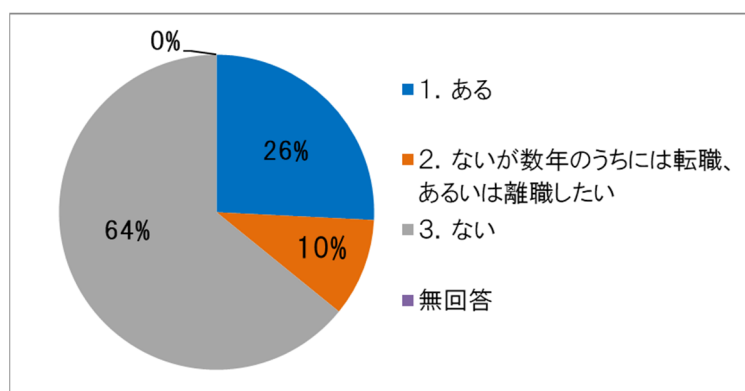


図 3. 転職、あるいは離職の経験 (N=159)

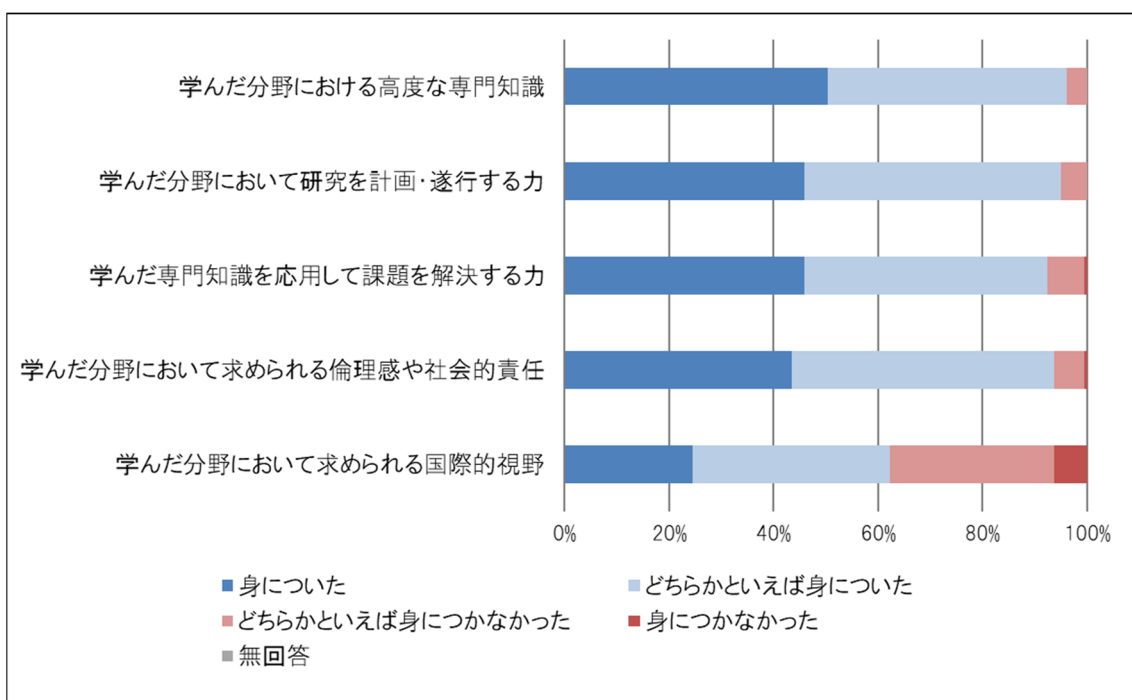


図 4. 大学院教育を通じて身についた知識・能力 (N=159)

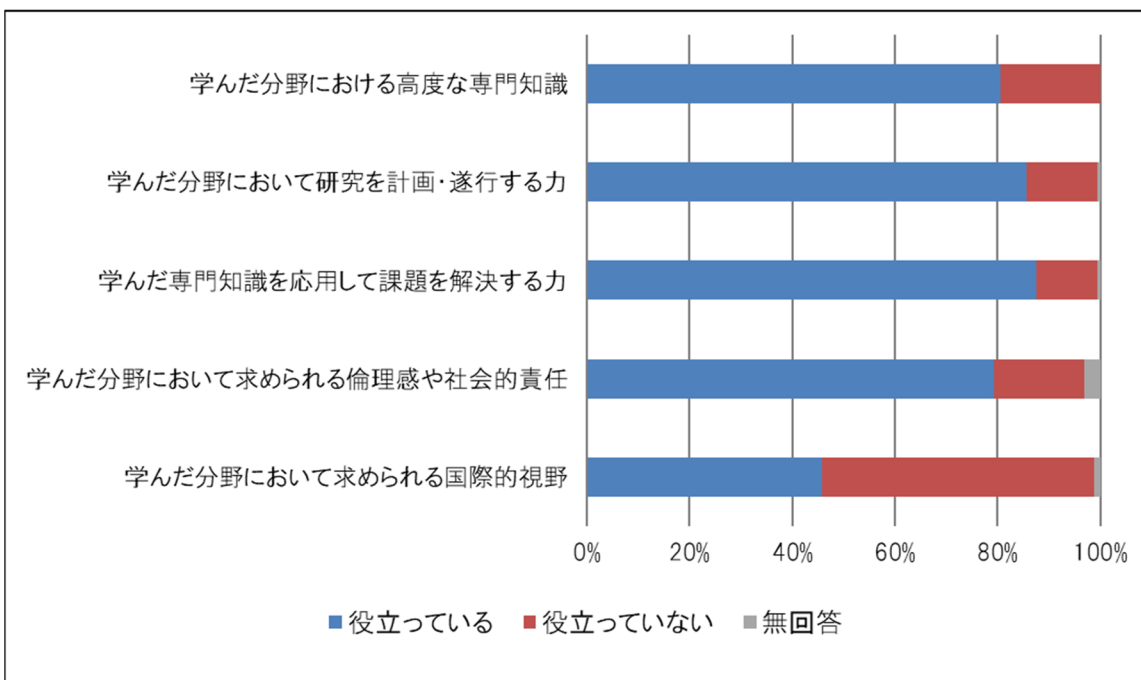


図 5. これまでの職業経験の中で役立った知識・能力 (N=159)

1. 研究科に関する分析

教育学研究科

(1) 分析結果

修了生 27 名（令和元年度修了生 12 名、令和 2 年度修了生 15 名）から回答があった。

まず、総合的な満足度を問う質問（問 13）について、「4. 満足している」、「3. ある程度満足している」の回答率は、それぞれ 70. 4%、29. 6%と高い満足度を示しており、全員が肯定的な回答をしている。

また、教育学研究科の研究・学習全般について自由記述で問う質問（問 14）の回答には、「履修することの大変さはあるものの専門性のある深い学びとともに、追究することの楽しさを感じた有意義な時間だった」といった満足度の高い記述が多く見られた。これらのことから、修了生は総じて大学での教育内容について満足し、現在の職場においても大学での学びを生かすことができていることがうかがえる。

大学での教育研究が、職業生活において求められる知識や能力を得る上で有益かを問う質問（問 9-1）において、肯定的な回答率（「5. 大いにそう思う」＋「4. ややそう思う」）は、96. 3%、職業に関することとは別に、社会生活において有益かを問う質問（問 10-1）における肯定的な回答率（「5. 大いにそう思う」＋「4. ややそう思う」）は、85. 2%であった。いずれの回答にも否定的な回答はなかった。

特に、職業生活において有益かを問う質問（問 9-1）における、「5. 大いにそう思う」の回答率が 74. 1%と高い結果となった。具体的にどのような点でそう思うかという自由記述（問 9-2）の回答には、「理論を学ぶ講義とともに、実習において実践できる経験はとても貴重」、「授業等に非常に役立っている」など、大学における学びが有意義で、それが今の職業生活に役立っているといった記述が多く見られた。

開講されていたら受講したかったという授業はあるかを問う質問（問 12）においては、「実務に関する授業」が 36. 6%、「研究方法に関する授業」が 34. 1%と高い回答率となり、「専門以外の教養を高める授業」は 22. 0%、「資格試験対策のための授業」は 7. 3%だった。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

○総合的にみて、教育学研究科で学んだことや研究・学習全般についての修了生の満足度は高い（全員が肯定的回答をしている）。

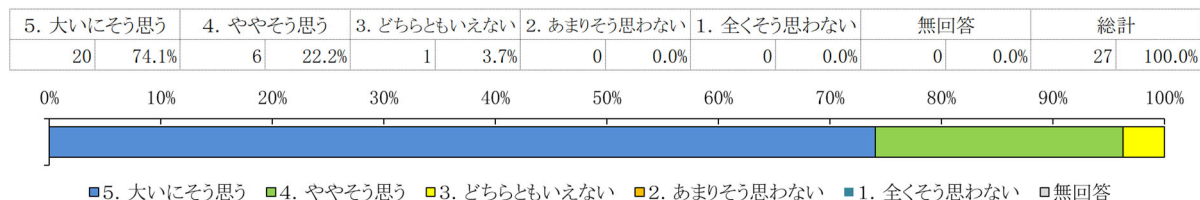
○修了生の職業生活において求められる知識や能力を得る上で、教育学研究科での教育・研究は有益だという回答率が高く、大学における有意義な学びがあり、それが今の職業生活に役立っていることがうかがえる。

【改善を要する点】

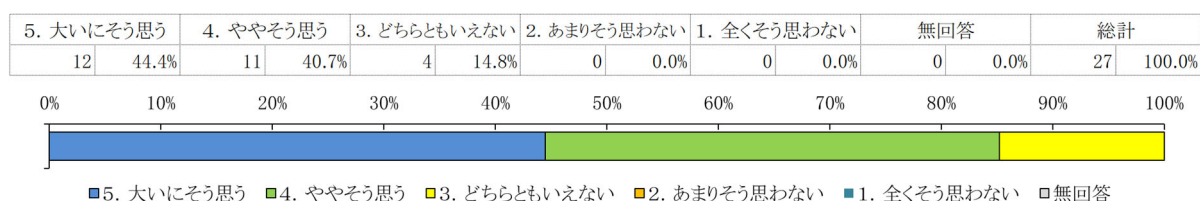
○開講されていたら受講したかった授業として「実務に関する授業」と「研究方法に関する授業」の回答率が高かった。例えば自由記述には「もう少し専門的な分析の方法を教えてほしい」といった内容もあった。引き続き、継続的なカリキュラム内容の検討、授業改善が必要である。

【参考資料】

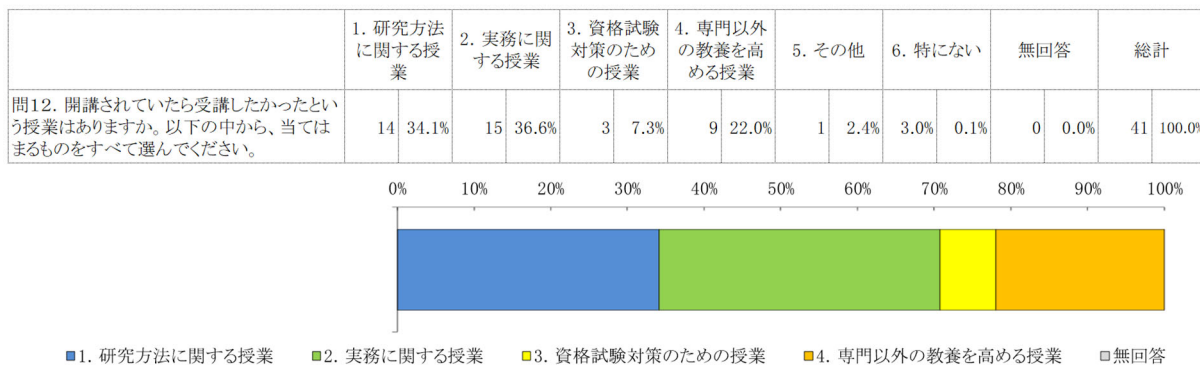
問9－1. 教育学研究科での教育・研究は、職業生活において求められる知識や能力を得る上で有益でしたか。



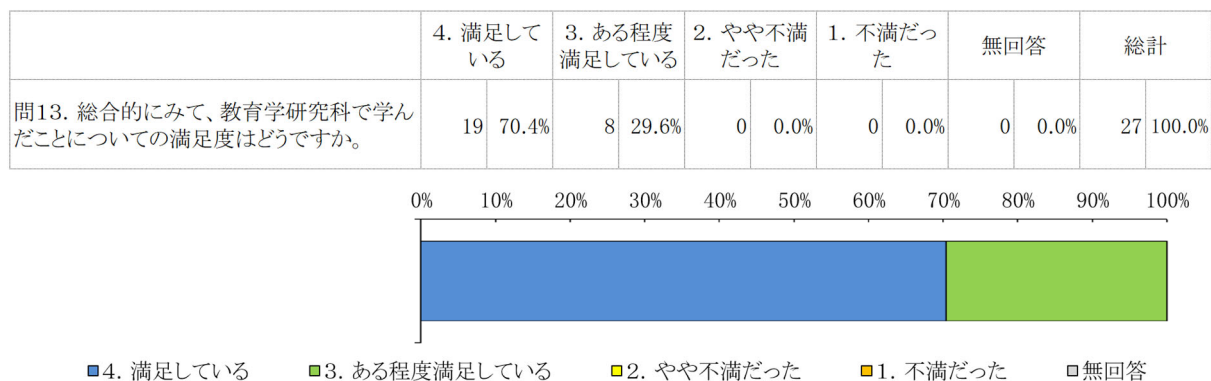
問10－1. 教育学研究科での教育・研究は、(職業に関することは別に) 社会生活において有益でしたか。



問12. 開講されていたら受講したかったという授業はありますか。以下の中から、当てはまるものをすべて選んでください。



問13. 総合的にみて、教育学研究科で学んだことについての満足度はどうですか。



法学研究科

(1) 分析結果

法学研究科は、5 名からの回答があった。「法学研究科での教育・研究は、職業生活において求められる知識や能力を得る上で有益でしたか。」(問 9-1) および「総合的にみて、法学研究科で学んだことについての満足度はどうですか。」(問 13) については、全員が「大いにそう思う」(問 9-1)・「満足している」(問 13) と回答した。「法学研究科での教育・研究は、(職業に関することは別に) 社会生活において有益でしたか。」(問 10-1) については、40%が「大いにそう思う」と、60%が「ややそう思う」と回答した。「開講されていたら受講したかったという授業」(問 12) については、複数の回答があった(参考資料参照)。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

「法学研究科での教育・研究は、職業生活において求められる知識や能力を得る上で有益でしたか。」(問 9-1)、「法学研究科での教育・研究は、(職業に関することは別に) 社会生活において有益でしたか。」(問 10-1) および「総合的にみて、法学研究科で学んだことについての満足度はどうですか。」(問 13) について、十分な評価が得られた。このことから、大学院の教育・研究、大学院法学研究科のディプロマ・ポリシー、カリキュラムポリシーについて有用であったと考えられる。

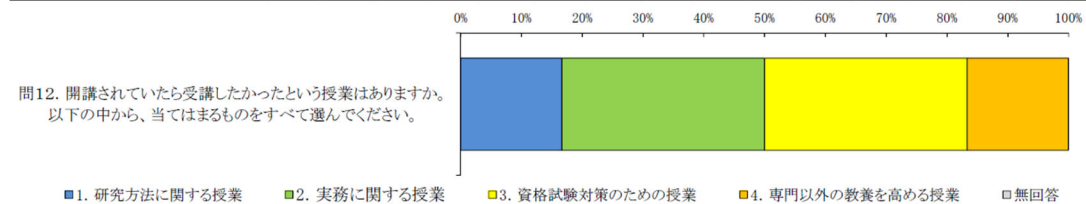
【改善を要する点】

「開講されていたら受講したかったという授業」(問 12) について、①「研究方法に関する授業」(16.7%)、②「実務に関する授業」(33.3%)、③「資格試験対策のための授業」(33.3%)、④「専門以外の教養を高める授業」(16.7%) の回答があった。このうち、現在の創発科学研究科では、①②④に関する授業は開講されている。しかし、③に関する授業は開講されていないため、改善の余地がある。

【参考資料】

問12. 開講されていたら受講したかったという授業はありますか。以下の中から、当てはまるものをすべて選んでください。

	1. 研究方法に関する授業		2. 実務に関する授業		3. 資格試験対策のための授業		4. 専門以外の教養を高める授業		5. その他		6. 特にない		無回答		総計	
問12. 開講されていたら受講したかったという授業はありますか。以下の中から、当てはまるものをすべて選んでください。	1	16.7%	2	33.3%	2	33.3%	1	16.7%	0	0.0%	2	2.0%	0	0.0%	6	100.0%



経済学研究科

(1) 分析結果

R1 年修了者 4 名、R2 年修了者 4 名、計 8 名が調査対象であり、送付先不明 2 名を除いた 6 名に調査票送付を行い、うち 1 名から回答があった。その回答は以下のとおりである。

回答者 1 名の個人特定を避けるため、現在の就業形態（問 3）と業種（問 4）は省略する。現在の職業の満足度（問 5）は「ある程度満足している」である。転職・離職の経験（問 6）は「ない」。

「学んだ分野における高度な専門知識」（専門知識・理解）、「学んだ分野において研究を計画・遂行する能力」「学んだ専門知識を応用して課題を解決する能力」（研究能力・応用力）、「学んだ分野において求められる倫理観や社会的責任」（倫理観・社会的責任）は、いずれも「身についた」（4 段階で最高）が選択された。「学んだ分野において求められる国際的視野（グローバルマインド）」のみ、「どちらかといえば身についた」（最大が 4 である 4 段階で 3）が選択されている。また、それらがこれまでの職業経験の中で役立っているかどうかについては、すべて「役立っている」が選択された。

大学院のカリキュラムは十分整っているか、また主指導教員・副指導教員の指導は十分であったか、については、すべて「大いにそう思う」が選択された。

「経済についての知識」「会計についての知識」「経営についての知識」「商学・マーケティングについての知識」「地域の活性化についての知識」「世界各地域の経済についての知識」「定量的なデータを適切な手法を用いて分析する能力」「定性的なデータを適切な手法を用いて分析する能力」「複眼的な思考力」「チャレンジ精神や行動力」「コミュニケーション力」「課題探究・解決力」は、いずれも「身についた」（4 段階で最高）が選択された。「統計についての知識」「金融についての知識」「観光についての知識」「人類の文化および社会についての幅広い知識」の 4 項目のみ「どちらかといえば身についた」（最大 4 の 4 段階で 3）が選択された。それらがこれまでの職業経験の中で役立っているかどうかについては、すべて「役立っている」が選択された。

「個別演習・副演習」「修士論文の執筆」は、これまでの職業経験の中で、どの程度役立っているかについては、いずれも「役立っている」（4 段階で最大）が選択された。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

1 名のみの回答ではあるが、おおむね教育内容が習得され、それが職業体験のなかでも活かされていることが示された。

【改善を要する点】

国際的な視野はどのような分野の研究であっても求められるもの、追及可能なものであり、グローバルマインドの項目が「どちらかといえば身についた」から「身についた」に上昇するように改善を要する。

医学系研究科

看護学専攻修士課程

(1) 分析結果

問 9. 全体として、大学院入学の目的は達成できましたか。・・・

「大いにそう思う」「ややそう思う」を合わせて 83.3%と、高い満足度を示している。

問 10. 大学院での教育・研究において、就労への配慮は十分でしたか。・・・

「大いにそう思う」「ややそう思う」を合わせて 83.4%と、高い満足度を示している。

問 11. 大学院への進学について意見を求められたとき、積極的に進めたいですか。・・・

「大いにそう思う」「ややそう思う」を合わせた割合と「どちらとも言えない」の割合が 50%で拮抗している。

問 13. 大学院で身につけた考え方、知識が、今後の研究活動、実践に有用ですか。・・・

「大いにそう思う」「ややそう思う」を合わせて 66.7%と、高い満足度を示している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

大学院入学の目標を達成できたと考える修了生の割合（83.3%）および、就労への配慮があったと考える修了生の割合（83.4%）は非常に高い割合を示している。優れた点として評価できる。

【改善を要する点】

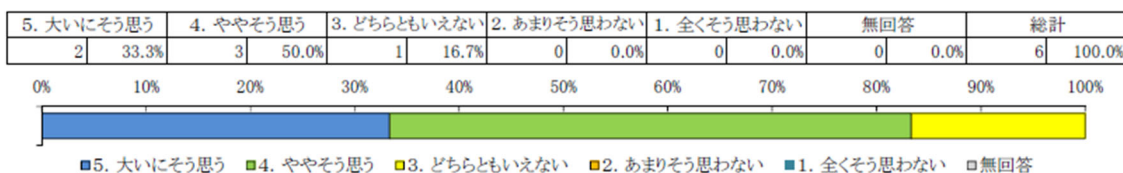
本学大学院への進学を勧めたいと考える割合が 50%で、どちらでもないとする修了生の割合と拮抗しており、進学を勧めたいと考える修了生を伸長するための取り組みが求められる。

【参考資料】

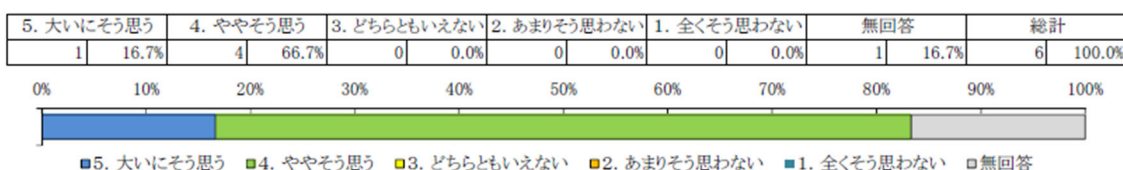
看護学専攻修士課程

以下は医学系研究科独自の設問である。

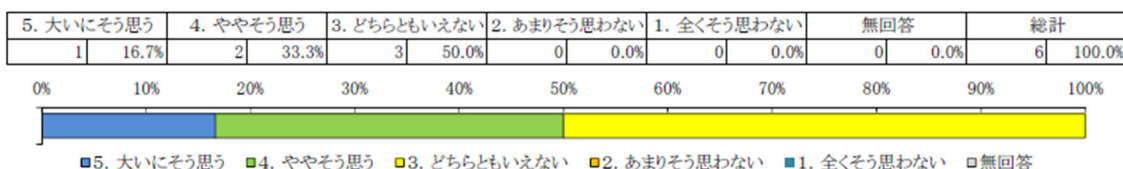
問9. 全体として、大学院入学の目的は達成できましたか。



問10. 大学院での教育・研究において、就労への配慮は十分でしたか。(在学時、社会人だった方のみ回答ください)

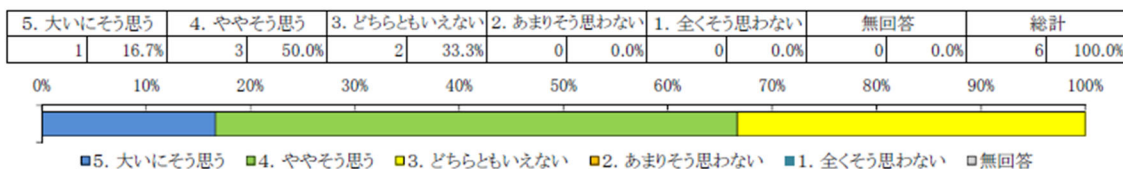


問11. 大学院への進学について意見を求められた時、積極的に勧めたいですか。



(看護学専攻:問13)

問13. 大学院(修士課程)で身につけた考え方、知識が、今後の研究活動、実践に有用ですか。



医学専攻博士課程

(1) 分析結果

問 9. 全体として、大学院入学の目的は達成できましたか。・・・

「大いにそう思う」「ややそう思う」を合わせて 90.9%と、非常に高い満足度を示している。

問 10. 大学院での教育・研究において、就労への配慮は十分でしたか。・・・

「大いにそう思う」「ややそう思う」を合わせて 63.4%と、高い満足度を示している。

問 11. 大学院への進学について意見を求められた時、積極的に勧めたいですか。・・・

「大いにそう思う」「ややそう思う」を合わせた割合は 54.6%であるが「どちらとも言えない」の割合も 36.4%である。

問 12. 大学院研究で身につけた考え方、知識、手技が今後の診療で有用ですか。・・・

「大いにそう思う」「ややそう思う」を合わせて 54.6%と、半数を超えている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

大学院入学の目標を達成できたと考える修了生の割合（90.9%）および、就労への配慮があったと考える修了生の割合（63.4%）は高い割合を示している。これらは優れた点として評価できる。

【改善を要する点】

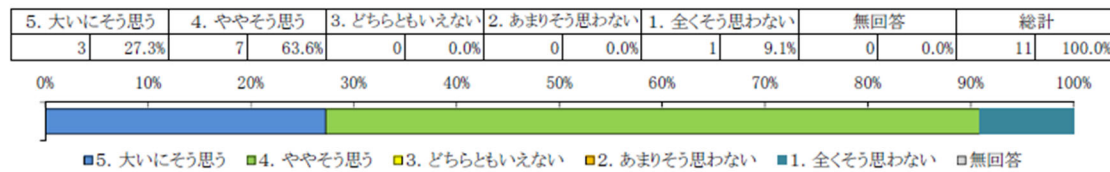
本学大学院への進学を勧めたいとの問いに対しどちらでもないと回答した修了生の割合が 36.4%だったため、進学を勧めたいと考える修了生を伸長するための取り組みが求められる。

【参考資料】

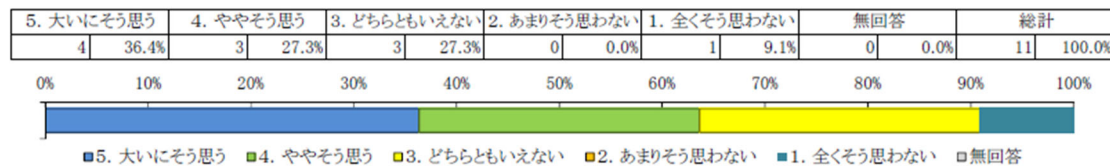
医学専攻博士課程

以下は医学系研究科独自の設問である。

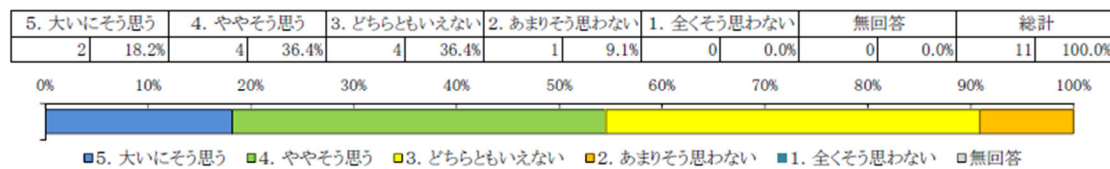
問9. 全体として、大学院入学の目的は達成できましたか。



問10. 大学院での教育・研究において、就労への配慮は十分でしたか。(在学時、社会人だった方のみ回答ください)

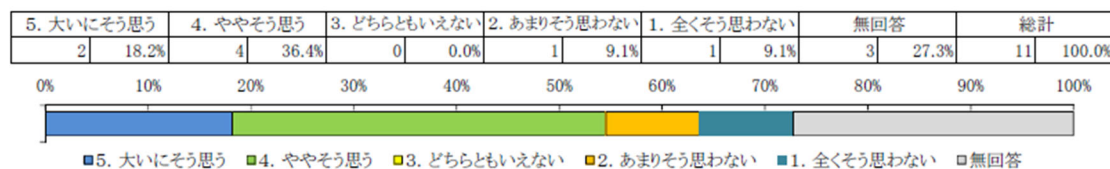


問11. 大学院への進学について意見を求められた時、積極的に勧めたいですか。



(医学専攻:問12)

問12. 大学院研究で身につけた考え方、知識、手技が今後の診療で有用ですか。(診療に携わっている方または、今後診療を行う予定の方のみ回答ください)



工学研究科

(1) 分析結果

工学研究科修士生（令和1年度～令和2年度修士生）に対するアンケート回答人数は、博士前期課程55名、博士後期課程5名であった。

専門知識・理解（図1,2）について、「学んだ分野における高度な専門知識」が大学院教育を通じて身につけた知識・能力としての肯定回答（「身につけた」「どちらかといえば身につけた」）は93%、職業経験の中で役立っている知識・能力としての肯定回答（「役立っている」）は73%であった。また、「自然科学の理解を基盤として、それぞれの専門分野に関する高度な知識・技術」が工学研究科の専門教育を通じて身につけた知識・能力としての肯定回答は88%、職業経験の中で役立っている知識・能力としての肯定回答は73%であった。

研究能力・応用力（図3,4）について、「学んだ分野において研究を計画・遂行する能力」「学んだ専門知識を応用して課題を解決する能力」「課題探求能力と高度な問題解決能力」の身につけた知識・能力としての肯定回答は90%以上、役立っている知識・能力としての肯定回答は80%以上であった。「持続可能な社会の実現を推進するための実践的能力、学際的な発想力を有し、必要に応じてチームの一員として能力を発揮する力」の身につけた知識・能力としての肯定回答は68%、役立っている知識・能力としての肯定回答は68%であった。

倫理観・社会的責任（図5,6）について、「学んだ分野において求められる倫理観や社会的責任」「社会や科学技術の発展に貢献するために、技術者としての広汎な知識と普遍的倫理観」の身につけた知識・能力としての肯定回答はいずれも90%程度、役立っている知識・能力としての肯定回答は70%以上であった。

グローバルマインド（図7,8）について、「学んだ分野において求められる国際的視野」の身につけた知識・能力としての肯定回答は62%、役立っている知識・能力としての肯定回答は45%であった。また、「論理的、学際的な思考を行い、それを広くグローバル社会に説明し、議論することができる力」の身につけた知識・能力としての肯定回答は70%、役立っている知識・能力としての肯定回答は53%であった。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

工学の重要知識・技能である「自然科学の理解を基盤として、それぞれの専門分野に関する高度な知識・技術」、「課題探求能力と高度な問題解決能力」、「社会や科学技術の発展に貢献するために、技術者としての広汎な知識と普遍的倫理観」は、前回（R3年度）調査に引き続き、大学院教育を通じて十分獲得でき、職業経験の中で役立っていると認識されている。

【改善を要する点】

「持続可能な社会の実現を推進するための実践的能力、学際的な発想力を有し、必要に応じてチームの一員として能力を発揮する力」については、前回調査よりも肯定回答の割合が若干減少しており、教育に改善が必要であると思われる。「論理的、学際的な思考を行い、それを広くグローバル社会に説明し、議論することができる力」については、前回調査から肯定回答の割合は増加しているが、引き続き教育に改善が必要であると考えられる。

【参考資料】

問 7. 香川大学大学院では、豊かな人間性と高い倫理性の上に、幅広い基礎力と高度な専門知識に支えられた研究能力・応用力を備え、国際的な視野で地域社会においてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指しています。以下に示す知識・能力は、大学院教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

問 9. 以下に示すさまざまな能力や知識等については、工学研究科の専門教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。

図 1 専門知識・理解（大学院教育）：「学んだ分野における高度な専門知識」

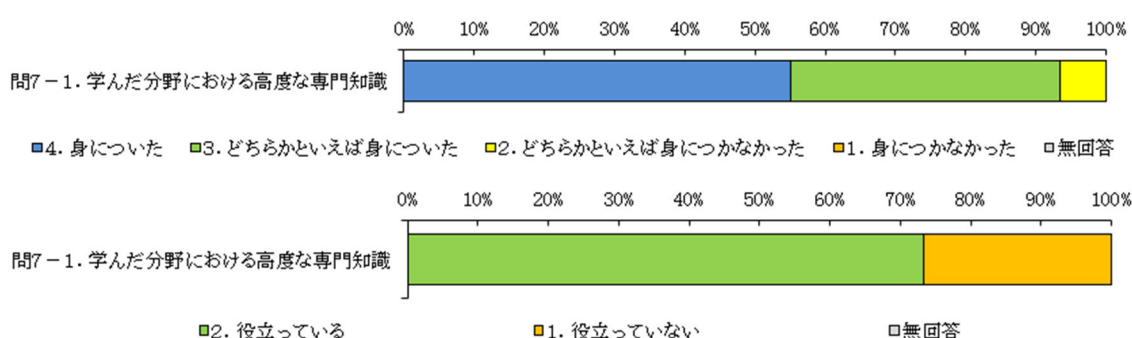


図 2 専門知識・理解（工学研究科の専門教育）：「自然科学の理解を基盤として、それぞれの専門分野に関する高度な知識・技術」

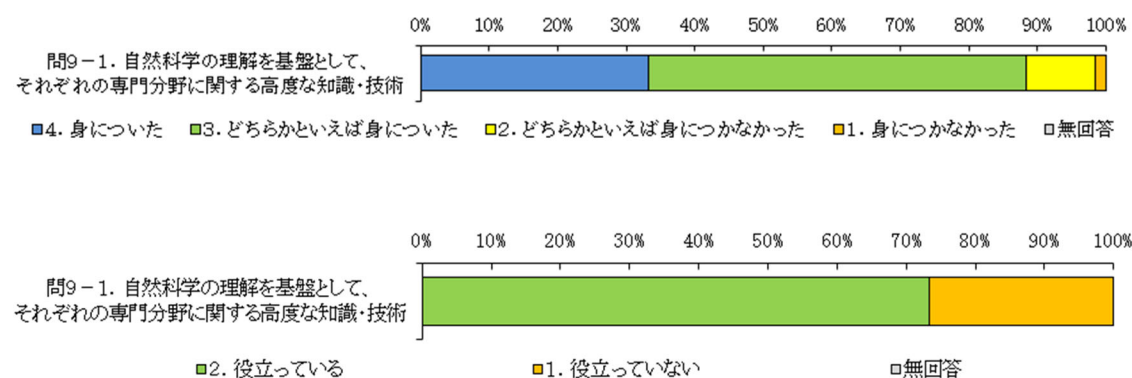


図3 研究能力・応用力（大学院教育）：「学んだ分野において研究を計画・遂行する能力」、「学んだ専門知識を応用して課題を解決する能力」

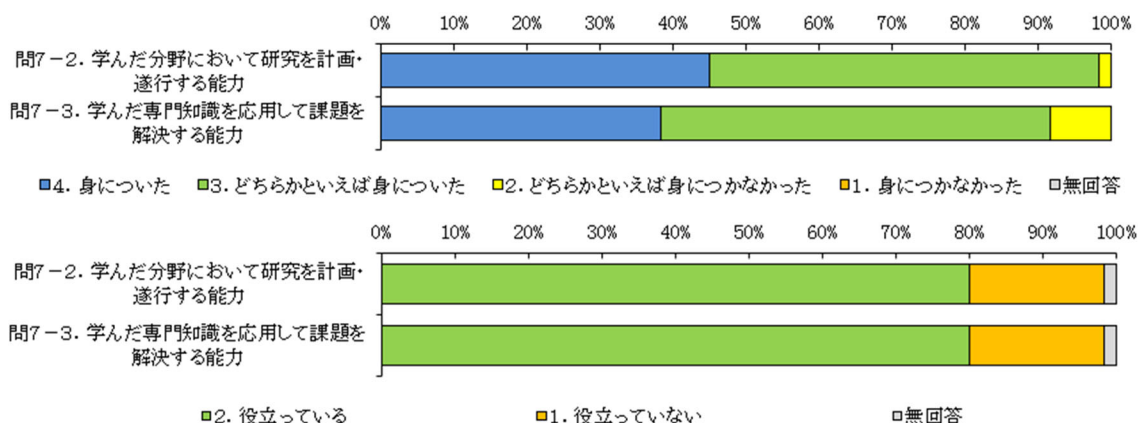


図4 研究能力・応用力（工学研究科の専門教育）：「課題探求能力と高度な問題解決能力」、「持続可能な社会の実現を推進するための実践的能力、学際的な発想力を有し、必要に応じてチームの一員として能力を発揮する力」

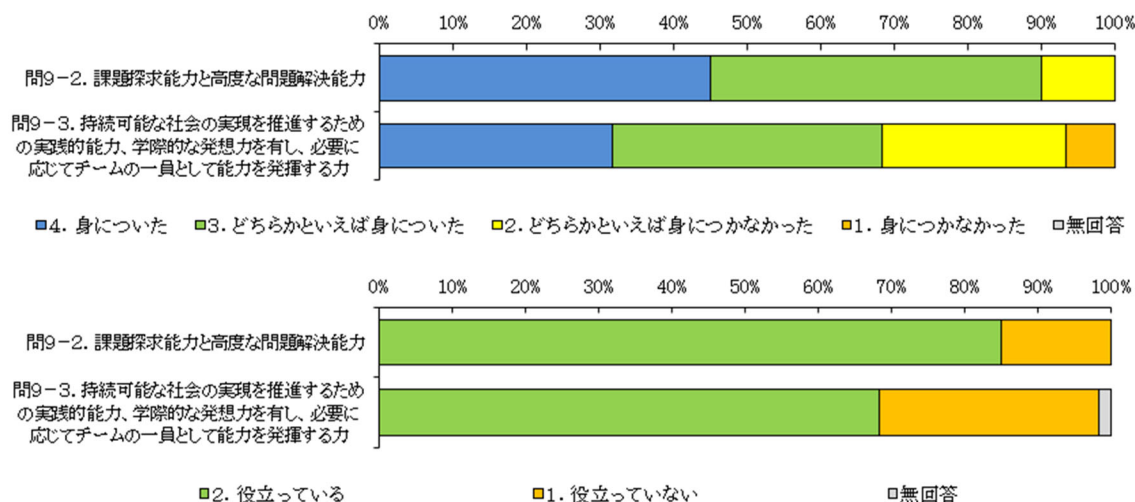


図 5 倫理観・社会的責任（大学院教育）：「学んだ分野において求められる倫理観や社会的責任」

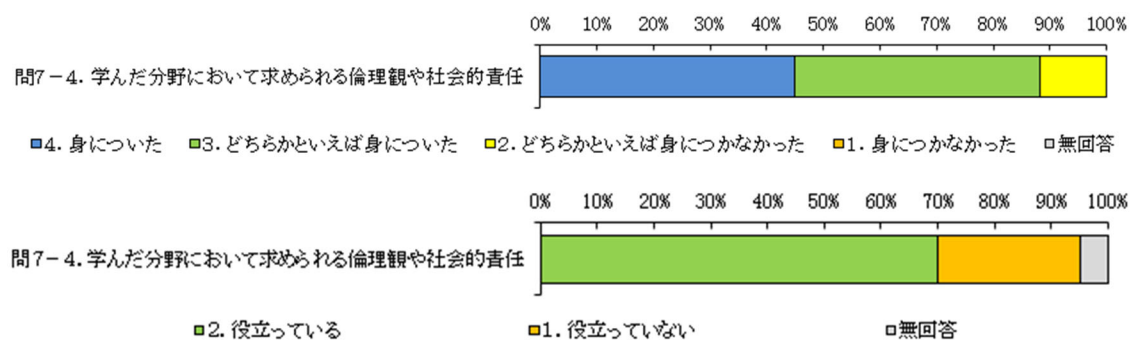


図 6 倫理観・社会的責任（工学研究科の専門教育）：「社会や科学技術の発展に貢献するために、技術者としての広汎な知識と普遍的倫理観」

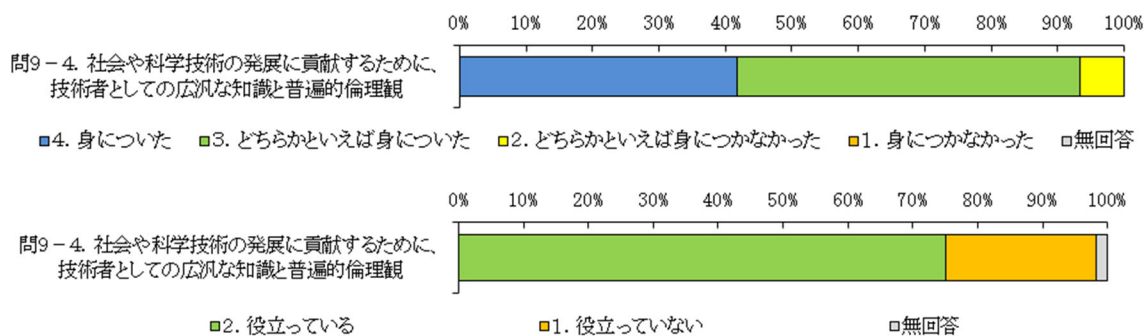


図7 グローバルマインド（大学院教育）：「学んだ分野において求められる国際的視野」

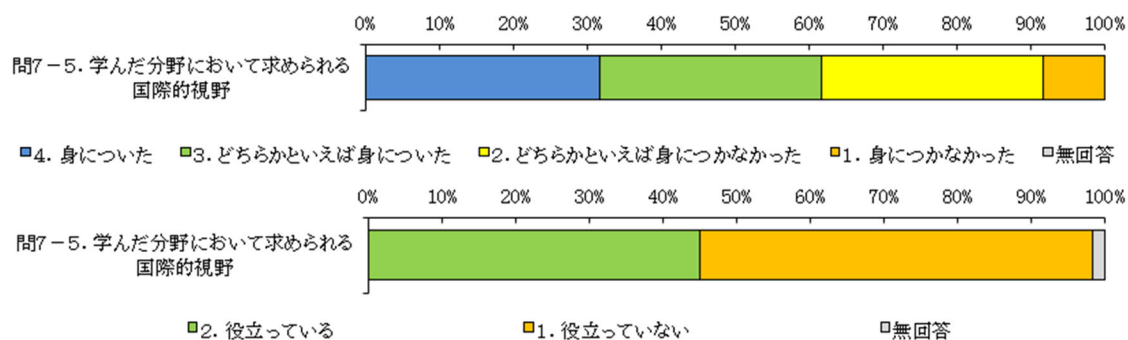
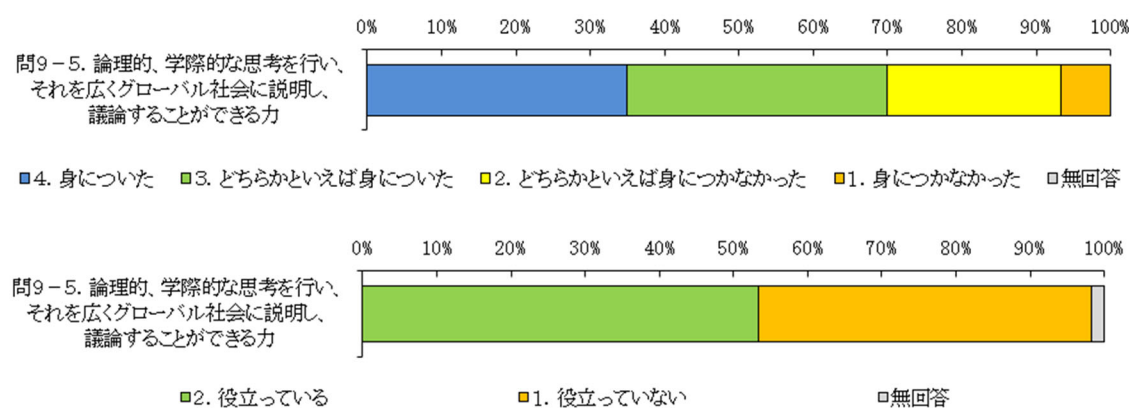


図8 グローバルマインド（工学研究科の専門教育）：「論理的、学際的な思考を行い、それを広くグローバル社会に説明し、議論することができる力」



農学研究科

(1) 分析結果

① 農学研究科の教育・研究による能力の取得および向上

問9では「研究開発マインドの習得」等の項目ごとに、農学研究科の教育・研究がその習得および能力の向上に有用だったかが修了生に尋ねられている。図1には、その同意レベルごとの回答割合がまとめられている。「研究開発マインドの習得」、「得られた結果に基づいた解析能力」、「課題の全容を論理的に取りまとめる能力」、「課題を解決するための手法の探索と遂行能力」、「課題を解決するために必要な情報の収集能力」、「日本語によるプレゼンテーション能力」については、農学研究科の教育・研究がその取得、向上に有用だったと思う割合（「大いにそう思う」と「そう思う」の合計）が8割～9割台にのぼっていた。他方で、「英語によるコミュニケーション能力」、「グローバルマインドの取得」、「英語によるプレゼンテーション能力」の習得、向上については、農学研究科の教育・研究が有用だったと思う割合（「大いにそう思う」「そう思う」の合計）が3割～4割台にとどまっていた。

② 農学研究科の専門教育の充実度

問10では、農学研究科の専門教育の科目群ごとに、その専門教育がどの程度充実していたかが修了生に尋ねられている。図2には、その同意レベルごとの回答割合がまとめられている。「研究科目（修士研究Ⅰ～Ⅳ、修士論文）」、「専門科目（〇〇特論など）」、「専門科目（専攻セミナーⅠ～Ⅲ）」については、充実していたと思う割合（「大いにそう思う」と「そう思う」の合計）が8割～9割台にのぼっていた。他方で、「研究科目（国際研究A・B）*研究留学」、「研究科目（実践研究）*社会人学生」については、充実していたと評価する割合（「大いにそう思う」と「そう思う」の合計）が5割台にとどまっていた。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

前掲①の結果より、課題解決のための手法の探索と遂行、課題解決のための情報収集、課題の全容の論理的なとりまとめ、日本語プレゼンテーションに関する能力の取得・向上については、修了生からの評価が高く、農学研究科の教育・研究が優れた効果を挙げていたと評価できる。また、前掲②の結果より、修士研究と修士論文、専攻セミナー、専門科目（〇〇特論など）についても修了生からの評価が高く、農学研究科が充実した教育・研究プログラムを提供することができていたと評価できる。

【改善を要する点】

前掲①、②で述べた修了生からの評価が低かった項目、科目群について考慮すると、今後、農学研究科では、英語によるコミュニケーション・プレゼンテーションとグローバルマインドに関する教育・研究プログラムや、国際研究や実践研究に関わる専門教育プログラムの改善が必要になると考えられる。農学研究科においてこれらのプログラムをいかに拡充させ、そのプログラムへの学生参加をいかに促すかについて検討を進めることが望まれる。

図1 農学研究科の教育・研究による能力の取得および向上に関する回答結果

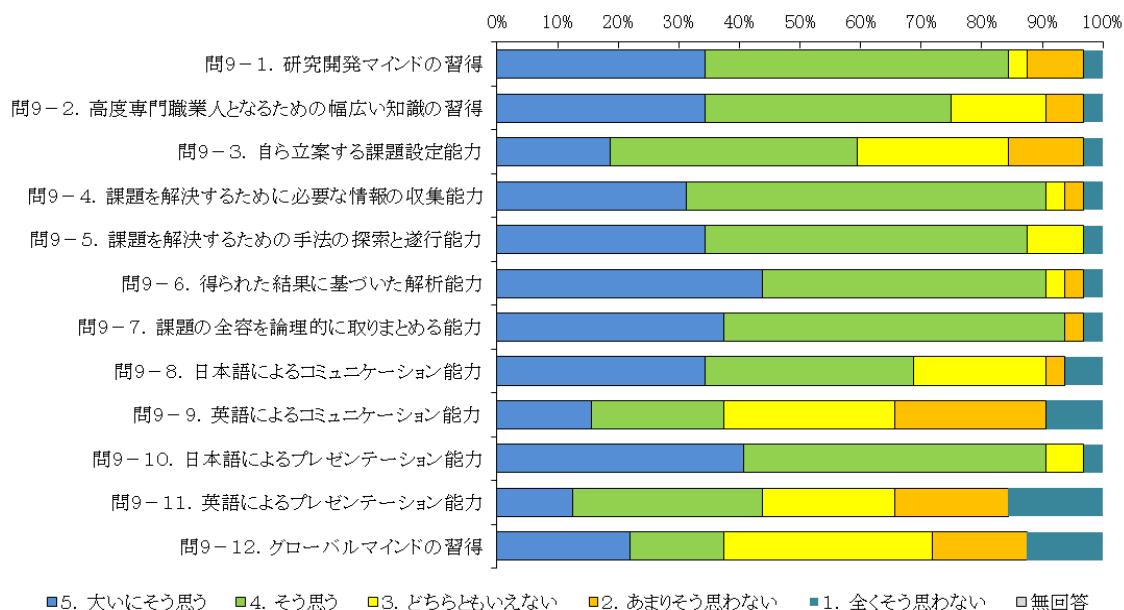
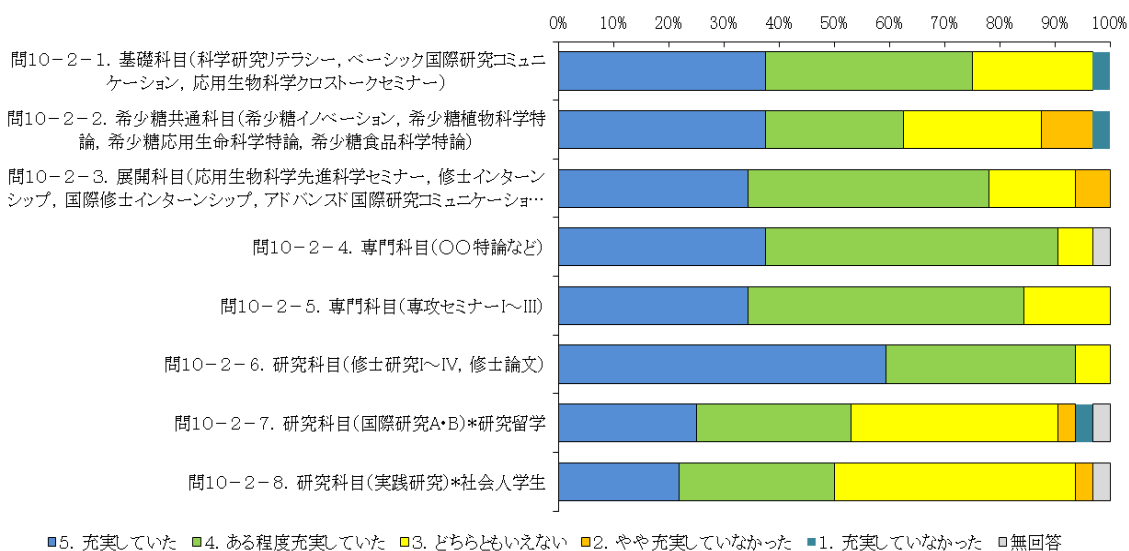


図2 農学研究科の専門教育の充実度に関する回答結果



地域マネジメント研究科

(1) 分析結果

今回のアンケート対象者 44 名のうち、令和元年修了の 15 期生は 18 名、令和 2 年修了の 16 期生は 26 名であり、特に 16 期生はコロナ禍を 2 年次を通じて 1 年間経験している。

特筆すべきは、約半数が離職、または転職を経験しており（中には研究科への入学前の経験者もあり）、同時に、現在の職業への満足度という点では、90%弱が「満足」「ある程度満足」と回答しており、自身のキャリアプランを踏まえ、良い方向にキャリアを積み重ねていくことが示唆される。一方で、現在無職との回答もあり、引き続き、細かなフォローが必要と思われる。

自由記述でも、記述内容は概ね肯定的なものとなっており、具体的には「同期や教員との出会い」「マインドの変化」「キャリア構築の場」といった点に、特に価値を実感している様子がうかがえる。同時に地域のプレーヤーをつなぐ場として研究科による積極的な活動や試みへの期待値も高く、引き続き、社会の動向を踏まえながらのアジリティの高い対応が、研究科のカリキュラムやその他活動に求められている。これらの点を踏まえ、第 4 期、また後続の第 5 期中期目標中期計画への反映、実行に尽力する必要がある。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

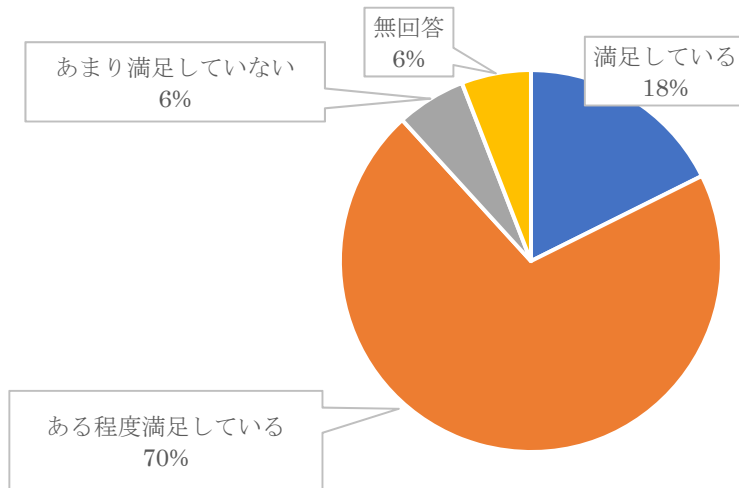
「人材育成目標に対してカリキュラムが十分であるか」という点については、肯定的な回答が 100%となっており、カリキュラムそのものは、院生の期待に十分応えるものになっていたことが示唆される。また、修了後に期待する取り組みとして、「プロジェクト研究、あるいは類する取り組みの継続」「MBA での修学を踏まえた上での所属組織内での活躍の場の広がり」「起業、新規事業への関与」については、約半数の回答で、なんらかの実績を確認することが可能であり、MBA での修学内容を踏まえ、一定程度実績として結実していると推察される。

【改善を要する点】

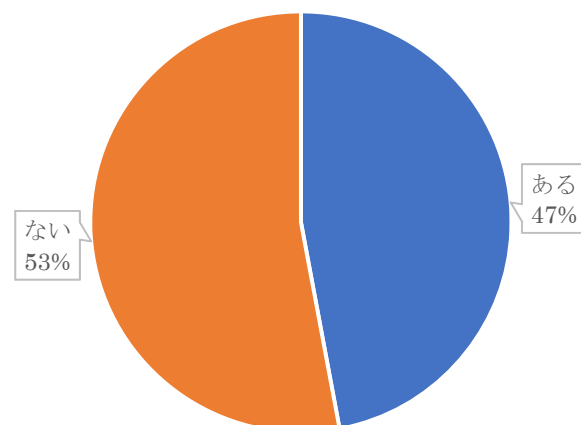
人材育成目標としての「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」「グローバル・マインド」について、「グローバル・マインド」以外の項目については、身についたかどうかでは肯定的な回答がほぼ 100%であったが、役立っているかどうかでは 20%程度否定的な回答も見られた。また「グローバル・マインド」については、身についたかどうかでは肯定的な回答が 60%強、役立っているかどうかでは 50%弱の肯定的な回答にとどまり、「役立つかどうか」への配慮、また「グローバル・マインド」については、そのためのカリキュラムに関する改善を含め、検討が必要である。

【参考資料】

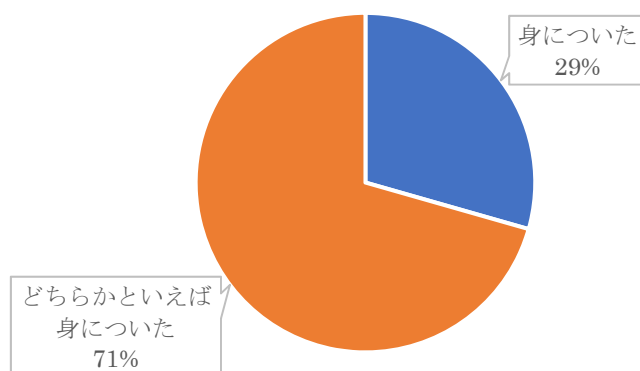
問5 あなたは現在の職業に満足していますか。



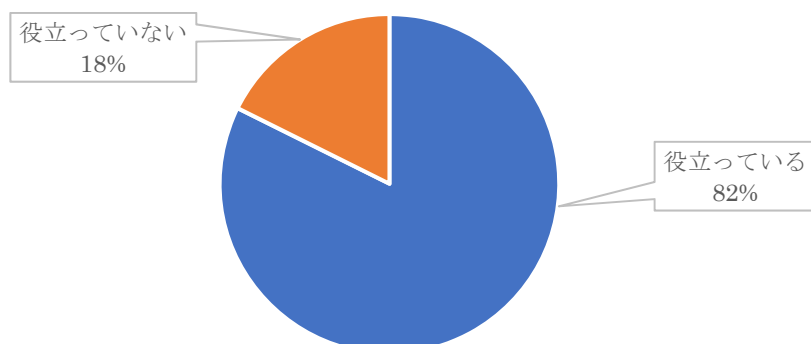
問6 転職、あるいは離職の経験はありますか。



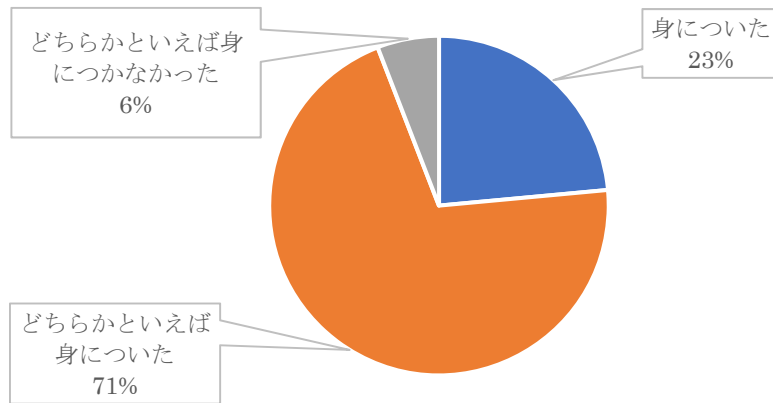
問7 学んだ分野における高度な専門知識
(専門知識・理解)



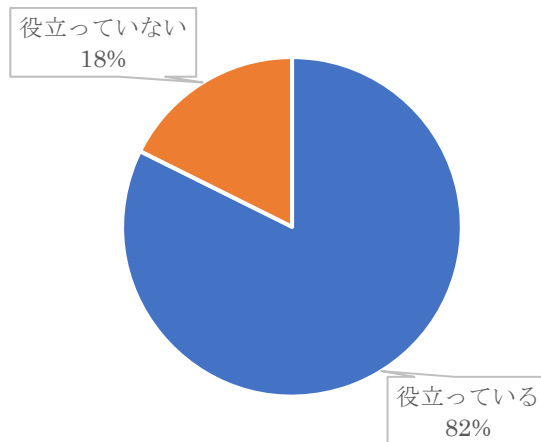
問7 学んだ分野における高度な専門知識
(専門知識・理解)



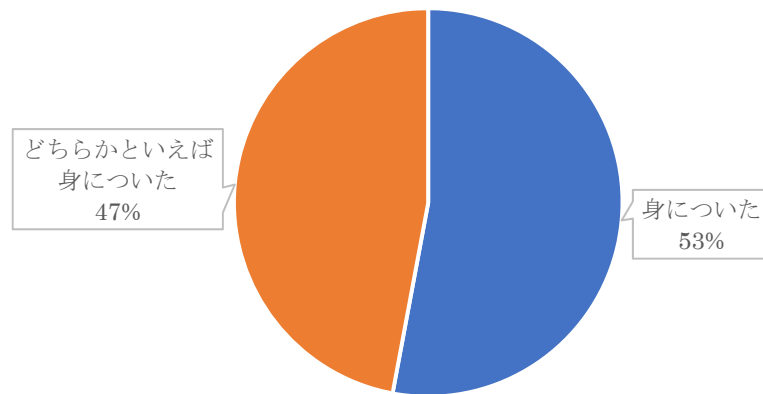
問7 学んだ分野における
研究の計画・遂行能力(研究能力・応用力)



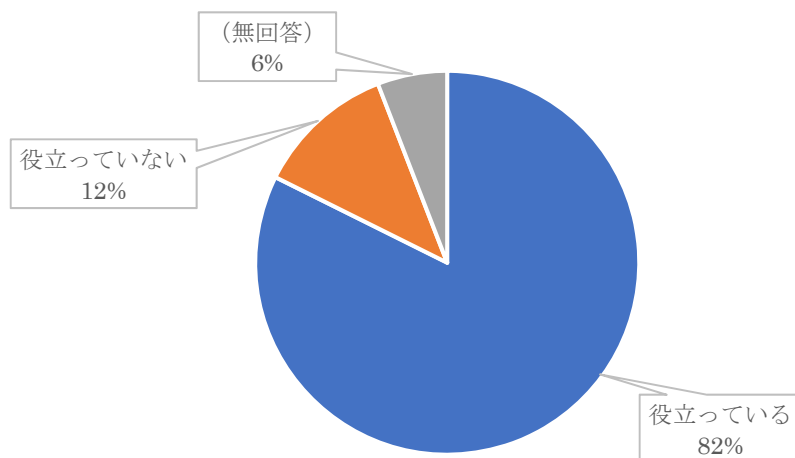
問7 学んだ分野における
研究計画・遂行能力（研究能力・応用力）



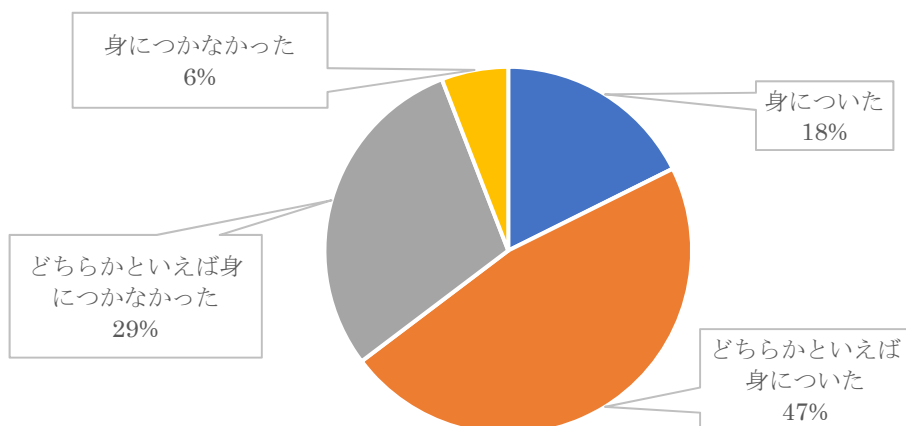
問7 学んだ分野において求められる倫理観や社会的責任（倫理観・社会的責任）



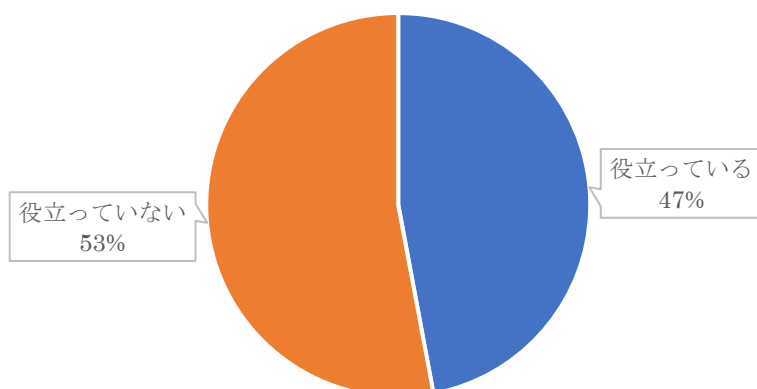
問7 学んだ分野において求められる倫理観や社会的責任（倫理観・社会的責任）



問7 学んだ分野において求められる
国際的視野（グローバルマインド）



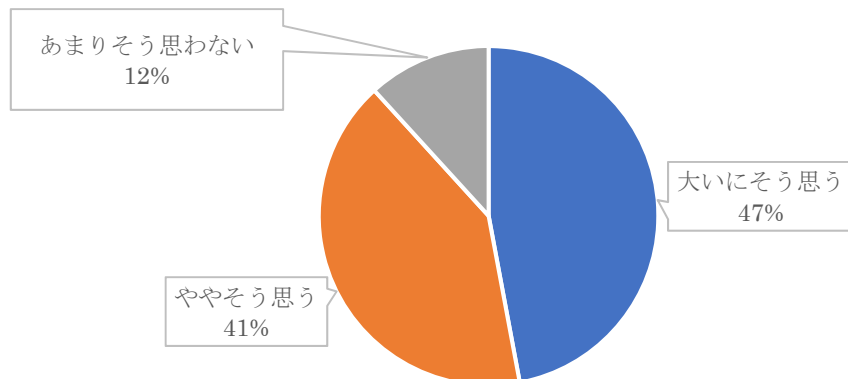
問7 学んだ分野において求められる
国際的視野（グローバルマインド）



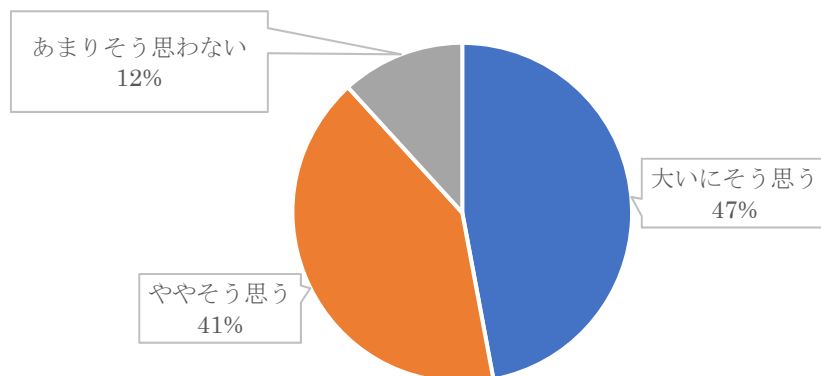
問8 大学院の人材育成の目標に照らして、
大学院のカリキュラムは十分整っていた。



問8 大学院の教育・研究において、
主指導教員の指導は十分だった。



問8 大学院の教育・研究において、
副指導教員の指導は十分だった。



＜企業等アンケート調査＞

1. 全学的な視点からの分析

（１）分析結果

①企業等の卒業生に対する満足度・・・表 1 参照

「満足」と「ある程度満足」の数値を合わせると、平成 28 年度以降継続的に 90%以上である。

②職務遂行上での卒業生の能力に対する企業等からの評価・・・図 1、2 参照

令和 5 年度で 90%以上：自己教育の態度（図 1 ①と②）、日本語の言語運用能力（図 1 ③と④）、知識・理解（図 1 ⑫～⑭）、問題解決・課題探求能力（図 2 ⑮～⑰）、倫理観・社会的責任（図 2⑳と㉑）、地域理解・国際理解（図 2㉒～㉔）

令和 5 年度で値が比較的低い：外国語の言語運用能力（図 1⑤～⑧・60%前後（職務遂行上で必要とされない能力だと回答した企業は約 60%））

（２）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

まず、企業等の卒業生に対する満足度は、継続的に高い。次に、自己教育の態度、日本語の言語運用能力、知識・理解、問題解決・課題探求能力、倫理観・社会的責任、地域理解・国際理解に関する能力に対する企業等からの評価も高い傾向にある。本学のディプロマポリシーを構成する 5 つの要素（言語運用能力、知識・理解、問題解決・課題探求能力、倫理観・社会的責任、地域理解）のすべてに対して企業等から高い評価を得られていることがわかる。なお、令和 3 年度の調査からリスクマネジメント能力（図 2⑱と⑲）に関する質問項目が追加されているが、令和 5 年度は 85%以上となり、令和 3 年度よりも上昇している。

【改善を要する点】

外国語の言語運用能力に対する評価は、相対的に低い傾向が続いてはいるものの、該当するすべての質問項目において、令和 5 年度は令和 3 年度よりも高い値になっている。なお、これまでの調査と同様に、相対的に低い傾向が続いてはいるという結果の解釈には一定の留意が必要である。なぜなら、当該能力を必要としない企業は約 60%であり、この結果は、残りの約 40%の企業の要求を満たしていないことを表しているにすぎないからである。

ところで、第 4 期中期計画には、「学生に多様性の理解を促すため、留学・海外研修（オンラインを含む）等の交流活動に加えて、地域と連携した取組等により、グローバル教育環境を拡充する」と記載されている。グローバルな教育環境の拡充により、外国語の言語運用能力に対する評価が向上することを期待しつつ、今後の調査結果を待ちたい。

【参考資料】

	令和 5 年度	令和 3 年度	令和元年度	平成 30 年度	平成 28 年度
満足	66.4%	66.9%	62.1%	57.1%	50.7%
ある程度満足	31.2%	30.5%	34.3%	36.0%	45.2%
やや不満	0.8%	1.6%	2.3%	5.0%	4.1%
不満	1.6%	1.0%	1.3%	1.9%	0.0%

表 1. 企業等の卒業生に対する満足度

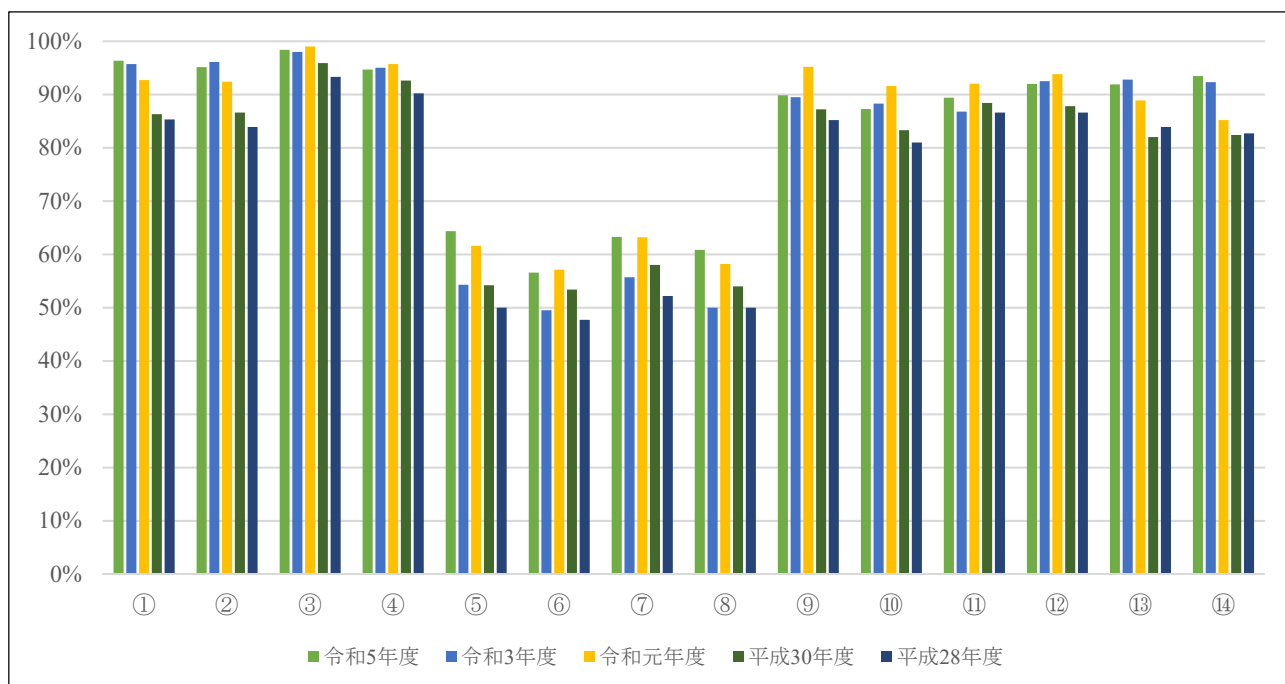


図 1. 職務遂行上での卒業生の能力に対する企業等からの評価（①～⑭）

注 1：図 1 の各番号は次のとおり対応している。①物事に進んで取り組む力、②自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力、③日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力、④日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力、⑤特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力、⑥特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力、⑦特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力、⑧特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力、⑨情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力、⑩様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力、⑪幅広い知識や教養、⑫専門分野に関する基礎的な知識・理解、⑬専門分野に関する知識・理解を応用する力、⑭職業に関連する知識や技能。

注 2：図 1 の値は、企業等からの評価の「身につけている」「どちらかといえば身につけている」の合計値である。ただし、それぞれの能力に対して「必要とされない」と回答した企業を除いている。ちなみに、⑤～⑧は「必要とされない」と回答した企業等が約 60%であったが、他の能力に対しては大半が数パーセントであった。

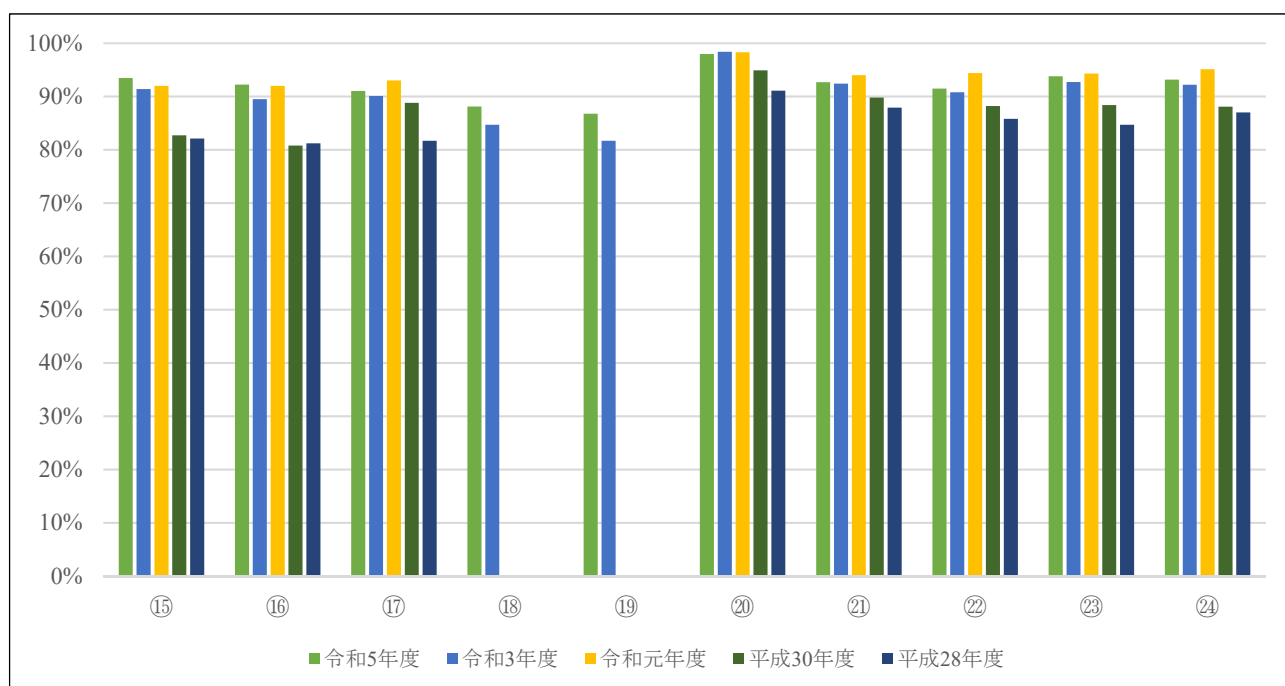


図 2. 職務遂行上での卒業生の能力に対する企業等からの評価（⑮～㉔）

注 1：図 2 の各番号は次のとおり対応している。なお、⑱と⑲の質問項目は、令和 3 年度調査より加えられた。⑮現状を分析し目的や課題を明らかにする力、⑯課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力、⑰課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力、⑱リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力、⑲リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力、⑳社会のルールを守る力、㉑社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力、㉒地域に貢献したいという意識、㉓地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力、㉔多様な価値観を尊重し、異なる文化を理解する力。

注 2：図 2 の値は、企業等からの評価の「身につけている」「どちらかといえば身につけている」の合計値である。ただし、それぞれの能力に対して「必要とされない」と回答した企業を除いている。ちなみに、「必要とされない」という回答した企業等の割合は、大半が数パーセントであった。